

みやぎ観光戦略プラン

「地域が潤う, 訪れてよしの観光王国みやぎの実現」を目指して



平成18年12月
宮 城 県

プランの策定に当たって



日本の人口は、少子高齢化によって予想よりも早く減少へと転じており、各地域とも観光などの人々の流動策を地域の活性化の切り札として施策を進めていく必要があります。

折しも、国では内需拡大など経済的側面から、日本人の海外旅行者の3分の1に過ぎない訪日外国人旅行者の誘致を促進するため、「2010年までに1000万人の訪日外国人誘致」を目標に掲げ、ビジット・ジャパン・キャンペーンを積極的に展開しています。

私は、ふるさと宮城県を観光で元気にしたいと考えています。観光は、第1次産業から第3次産業まです野の広い総合産業の一つで、その経済効果も大きいものがあります。宮城県の観光事業をはじめ各種産業が活性化され経済が豊かになることにより、福祉・教育・環境などの県民生活にも波及していくものと考えます。そのような宮城県を県民の皆さんとともに創りあげたい、それが私の富県づくりへの想いであり、また、今回のみやぎ観光戦略プラン策定の基本でもあります。

さて、人々が観光に期待するものも、一人十色と言われております。観光振興策に万能薬はありません。まさに社会のトレンドを反映するものです。

そこで、情報を強力に発信し、県外からの誘客を促進するため、平成20年に全国大型観光宣伝事業「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」という大きな呼び水、きっかけの装置を準備しました。このキャンペーンの成功の鍵はなんと言っても、各々の地域づくりの実践や磨き上げであり、県民挙げての温かいおもてなしなど地道な取組を継続することです。

そればかりではなく、この機会に県民の皆さん自身も県内を旅していただきたい。幼いころ、両親と訪れた川面や山並みの風景、恋人や夫婦で訪れた名勝や旧跡、あるいは旅先での厚い人情の記憶などもう一度訪れたいという旅への想いにかき立てられたことはありませんか。そうした思い出とともに県内の地域を再び訪れてください。当時とは違った趣をそれぞれの地域で感じ取ることができると思います。このような県内での旅や交流を皆さん自らが体験して、県外からの来訪者に様々な物語として伝えていく、そのことが宮城県の地域力を高める一助になると考えています。

今回のプランでは、3つの戦略プロジェクトに18の戦略事業を掲げ、仙台・宮城デスティネーションキャンペーンという広報宣伝事業を柱に据えて、地域の受入態勢の整備と推進組織の仕組みづくりを重点的に進めてまいります。そして、デスティネーションキャンペーン終了後も継続して観光事業が隆盛できる体制づくりを行い、「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎ」の実現を目指していきます。

プランの実行に当たっては、県も役割を十分に発揮していくものの、私はプランの目標達成のため、観光事業者や観光関連団体だけでなく、市町村や県民の皆様がそれぞれ自主的に取り組むことを大いに期待しています。共に頑張りましょう。

最後に、プランの策定に当たって、みやぎ観光戦略プラン懇話会の高橋座長、志賀副座長をはじめ懇話会委員の皆様や、前宮城県政策顧問の(株)ジェイティービー常務清水様など多くの皆さんから御指導いただき感謝申し上げます。また、お忙しい中、コラムを執筆いただいた皆様、パブリックコメントをお寄せいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

宮城県知事 村井嘉浩

「みやぎ観光戦略プラン」目次

「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」を目指して

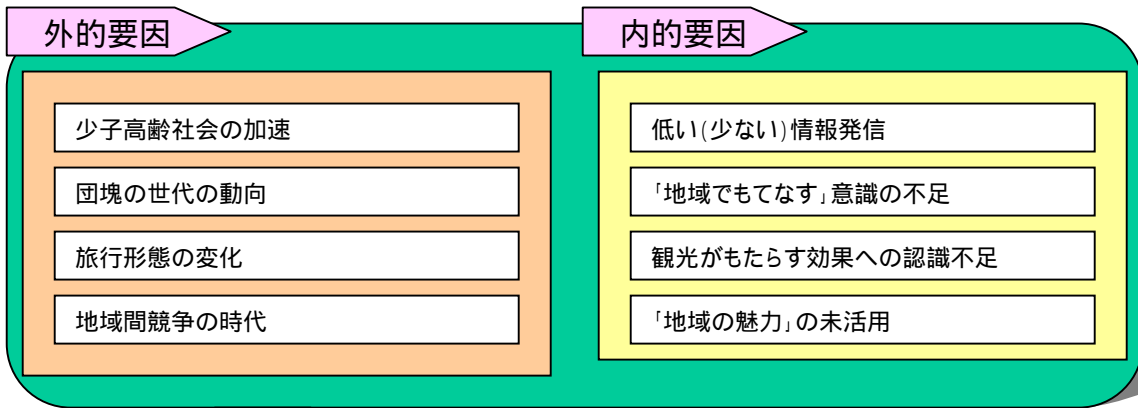
1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	(1) 策定の趣旨	
	(2) プランの位置付け	
	(3) プランの目指す姿	
2	プランの目標と計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	(1) プランの目標	
	(2) 計画期間	
3	本県観光の直面する課題・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	外的要因(観光を取り巻く環境の変化)・・・・・・・・	4
	(1) 少子高齢社会の加速	
	(2) 団塊の世代の動向	
	(3) 旅行形態の変化	
	(4) 地域間競争の時代	
	内的要因(本県の現状と課題)・・・・・・・・	14
	(1) 低い(少ない)情報発信	
	(2) 「地域でもてなす」意識の不足	
	(3) 観光がもたらす効果への認識不足	
	(4) 「地域の魅力」の未活用	
4	みやぎの観光に求められる視点と目指す方向・・・・・・・・	22
	求められる視点	
	(1) 交流と発信によるみやぎの活性化	
	(2) みやぎ各地域の魅力の活用	
	(3) 東北の起点としての役割	
	目指す方向:「観光を新機軸とする県土づくり」	
5	施策展開の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・	29
	みやぎへ「いざなう」観光施策の展開・・・・・・・・	30
	- みやぎの情報発信・誘客プロジェクト(観光地みやぎへいざなう) -	
	みやぎのイメージづくり	
	みやぎの誘客ピンポイント対応	
	イベント・コンベンションの誘致	
	戦略事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・	33
	みやぎで「もてなす」観光施策の展開・・・・・・・・	38
	- みやぎの魅力創出プロジェクト(何度も訪れたいみやぎのおもてなし) -	
	みやぎのやさしい人づくり	
	みやぎのやさしい観光地づくり	
	みやぎの地域資源向上	

戦略事業	4 1
観光王国みやぎを「ととのえる」観光施策の展開	4 9
- みやぎの連携・組織づくりプロジェクト（みやぎの連携と組織をととのえる） -	
みやぎの地域力向上組織構築	
みやぎ東北ぐるっと連携	
各主体の役割分担	
戦略事業	5 3
6 進行管理	5 6
7 県内の取組事例紹介（コラム）	5 7
・「一期一会」～おもてなしの心	
	仙台商工会議所
・協働による新たな観光資源づくり	
	宮城県大河原地方振興事務所
・市民の手で市民の財産を守る～おもてなしの心大改革	
	特定非営利活動法人 不忘アザレア 遠藤一夫 氏
・旅館，商店，地域住民 . . . 垣根を越えた地域づくり	
	東鳴子ゆめ会議 大沼伸治 氏
・イエローアイランドを目指して～資源循環の取組み	
	特定非営利活動法人 大島大好き 白幡昇一 氏
・グリーン・ツーリズムを通じた「都市」と「農家」の交流	
	加美町グリーン・ツーリズム推進会議 後藤新平 氏
資料編	
1) みやぎ観光戦略プラン懇話会委員	6 0
2) みやぎ観光戦略プラン策定の経緯	6 0
3) みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業	6 1
(1) 県事業	6 1
(2) 市町村事業	6 6
(3) 民間等事業	7 2

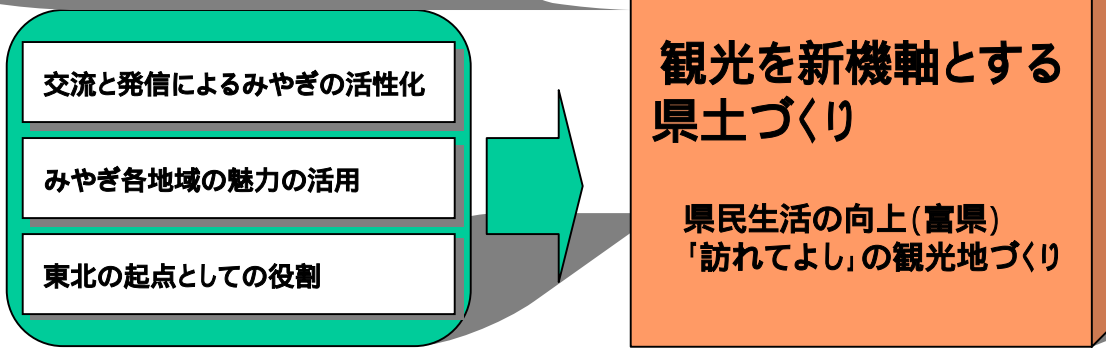
みやぎ観光戦略プラン（概要）

- 「地域が潤う，訪れてよしの観光王国みやぎの実現」を目指して -

本県観光の直面する課題



みやぎの観光に求められる視点



プランの目標

観光客を増加させ、滞在時間を長くすることにより、観光による消費を増やし、経済効果が高めることを数値目標とします。

数値目標	H17年		H22年		実行目標
	数値	千人	数値	千人	
観光客入込数	54,408	千人	60,000	千人	みやぎ観光戦略プランの実効性を高めるため、戦略事業の着手率を実行目標とします。 戦略事業の着手率 8割
宿泊観光客数	7,918	千人	10,000	千人	
観光消費額	5,284	億円	6,000	億円	
経済波及効果	9,132	億円	1兆	円	

計画期間

平成19年度から22年度まで

観光立県行動計画策定以降の新たな要因，例えば，少子高齢社会への対応や「団塊の世代」の大量退職等，今後の観光施策へ影響を及ぼす社会情勢への変化に対応するため，短期間のプランとします。

3つの戦略プロジェクトと18の戦略事業！！

もてなす！

住んでいる地域の魅力を認識し、その良さを伝えることができる人材育成，観光地としての価値向上により「地域全体でもてなす観光地づくり」を進め、みやぎを総合的に磨き上げます。

みやぎのやさしい人づくり

- ・ホスピタリティ向上への取組強化
- ・観光理解啓発
- ・地元食材によるもてなし，観光地美化運動等ホスピタリティをはくむ施策展開

みやぎのやさしい観光地づくり

- ・案内板・サインや標識等を重点整備
- ・観光地のユニバーサルデザイン化
- ・二次交通アクセス等観光地間移動の利便性向上

みやぎの地域資源向上

- ・みやぎの観光総点検・広域観光ルート整備の実施
- ・滞在・体験型観光の発掘・整備
- ・観光産業関連事業者等へのサポート

みやぎの魅力創出プロジェクト(9事業)

- みやぎ観光ホスピタリティ向上推進事業
- 外国人観光客安心サポート事業
- みやぎ観光理解啓発事業 (観光教育副読本作成・活用)
- 仙台・宮城DC受入施設整備事業
- 食材王国みやぎ総合推進事業 (みやぎの外食産業支援事業)
- みやぎ滞在・周遊型観光資源発掘事業
- みやぎの景観形成事業
- 自然環境保全対策事業
- みやぎグリーン・ツーリズム推進協議会活動支援事業

いざなう！

みやぎを訪れる人や旅行エージェント等に対して、海・山・温泉・食・歴史や文化等に関する情報を効果的に発信し、誘客手法の選択と集中によって観光地みやぎに人を呼び込みます。

みやぎのイメージづくり

- ・インターネット等を活用した情報発信

みやぎ誘客ピンポイント対応

- ・関東圏・団塊の世代・東アジアへの誘客強化
- ・「東北・みやぎ」への誘客
- ・県内の地域間交流の促進

イベント・コンベンションの誘致

- ・イベント・コンベンションの誘致

みやぎの情報発信・誘客プロジェクト(6事業)

- 関東圏誘客促進事業
- 首都圏農産物販売等拠点施設運営事業
- みやぎおいしい「食」ブランド化戦略推進事業
- みやぎの水産物トップブランド形成事業
- 食材王国みやぎ総合推進事業 (「食材王国みやぎ」フェア開催事業)
- 仙台・宮城DC推進事業

ととのえる！

官民の連携強化や地域力を高める県内組織の充実，東北6県などの広域連携の体系化など観光産業の振興を推進する体制づくりを行い，観光地みやぎの組織体制を整えます。

みやぎの地域力向上組織構築

- ・県組織体制の整備
- ・官民の主体的な地域力向上に関する組織づくりの強化推進・支援

みやぎ東北ぐるっと連携

- ・東北各県の広域連携をテーマや目的別に体系化・再構築
- ・東北各県等広域的な組織づくりを推進

各主体の役割分担

- 各主体がその担い手としての力を十分に発揮

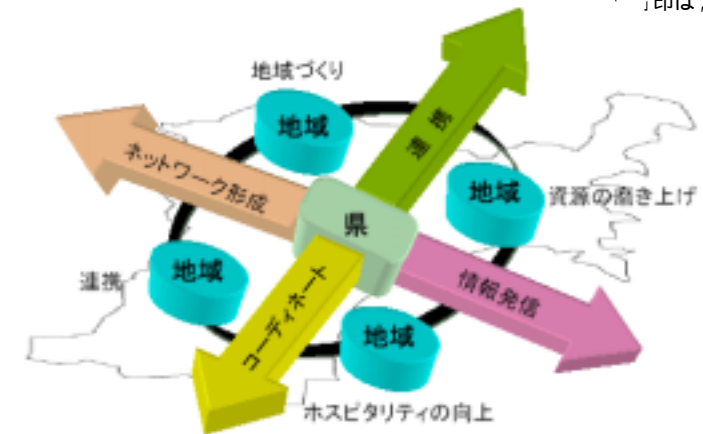
みやぎの連携・組織づくりプロジェクト(3事業)

- 全国大型観光キャンペーン宮城県実施推進本部整備事業 (県組織体制の整備)
- みやぎ大型観光キャンペーン推進組織整備事業 (観光連盟の強化)
- みやぎ発東北観光体制整備事業
- 仙台・宮城DC推進事業 (再掲)

「」印は、計画期間内の新規事業

プランの推進体制

みやぎ観光戦略プランの実効性を高めるため、**みやぎ観光戦略プロジェクトチーム**を編成し、戦略事業の実施状況の検証や、広域ルートの商品づくりや観光資源の磨き上げなど地域での取組に継続的に参画して、観光戦略プランの効果を高めていきます。



1 はじめに

(1) 策定の趣旨

概要

宮城県では、平成 10 年 3 月に「宮城県観光立県行動計画」(計画期間：平成 10 年度から 19 年度までの 10 年間)を策定しました。

この間、平成 13 年に「新世紀・みやぎ国体」、また、平成 14 年に「2002FIFA ワールドカップ」が開催されるなど、「みやぎ」の知名度を高めることができました。同時に、「観光地づくりは地域づくり」との認識から、地域(観光)資源の掘り起こしや受入態勢の整備などに努めているところです。

なお、平成 11 年度には、政策評価指標として観光客入込数を目標値 5,500 万人(平成 22 年)と設定し、おおむね順調に推移してきています。

新たに考慮すべき要因

上記の行動計画策定以降、全国的には、少子高齢社会への対応や、いわゆる「団塊の世代」の大量退職時代の到来、また、県内においては、仙台空港アクセス鉄道の整備・活用等、今後の本県観光施策に多大な影響を及ぼす社会情勢の変化が訪れます。

また、人口減少時代を迎え、域内(県内)、隣県から関東圏・関西圏といった国内交流の増大にとどまらず、昨今の東アジアの経済成長に伴う富裕層の取り込みを視野に入れた観光施策の展開が求められています。

問題点等

県内においては、日帰り客に比して経済波及効果の高い宿泊者数は、平成 3 年をピークに、横ばいの状況であり、これを増加させることが富島の礎と考えています。

このため、県では、「地域経済への波及効果が高く、グローバル時代での成長分野でもある観光産業」を戦略産業として平成 18 年度「政策方針」の中に位置付けたところです。

戦略プランの必要性

宮城県のみならず東北各県への観光産業の振興に際し、本県には高速交通インフラ¹を活用しながら、各県各地域と連携し、観光地としての魅力を相乗的に発揮し、発信する役割を担うことが期待されています。

また、平成20年(10月から12月)には、官民一体となった大型観光キャンペーン「デスティネーションキャンペーン²」が本県単独では初めて開催されるなど、観光振興を図る上で絶好の機会が到来しています。

こうした社会情勢に対応し、観光振興の新たな仕組みづくりを進めるため、「みやぎ観光戦略プラン」を策定し、経済効果はもとより、誰もが地域に誇りと愛着を持てるような地域づくりを進める「地域力」、地域へ観光客を引き寄せる「観光力」の向上を目指していきます。

1 社会的経済基盤と社会的生産基盤とを形成するものの総称

2 P.36 参照

(2) プランの位置付け

「みやぎ観光戦略プラン」は、平成18年度の政策方針の具体化であり、また、「宮城の将来ビジョン」及び「みやぎ産業振興ビジョン」等の個別計画として位置付けられます。

今回のプランは、情勢変化に即応すべく、短期間(4年)で、かつ、対象を絞って計画を実現するために策定するものです。

(3) プランの目指す姿

このプランでは、県民生活を向上させる「富県共創」の一環として「何度でも訪れたい観光地みやぎ」を実現するため、「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎ」のスローガンの下、観光を新機軸とする県土づくりに着手していくものです。

2 プランの目標と計画期間

(1) プランの目標

プランは、観光客入込数・宿泊客数・経済波及効果等の数値目標と戦略事業の着手率を示す実行目標の2つの事項を目標として設定します。

数値目標

観光客を増加させ、滞在時間を長くすることにより、観光による消費を増やし、経済効果を高めることを数値目標とします。

	H17年	H22年
観光客入込数	54,408千人	60,000千人
宿泊観光客数	7,918千人	10,000千人
観光消費額	5,284億円	6,000億円
経済波及効果	9,132億円	10,000億円 (1兆円)

実行目標

みやぎ観光戦略プランの実効性を高めるため、戦略事業の着手率を実行目標とします。

戦略事業の着手率	8割
----------	----

(2) 計画期間

この計画の対象期間は、平成19年度を初年度とし、平成22年度を目標年度とします。

3 本県観光の直面する課題

外的要因（観光を取り巻く環境の変化）

(1) 少子高齢社会の加速

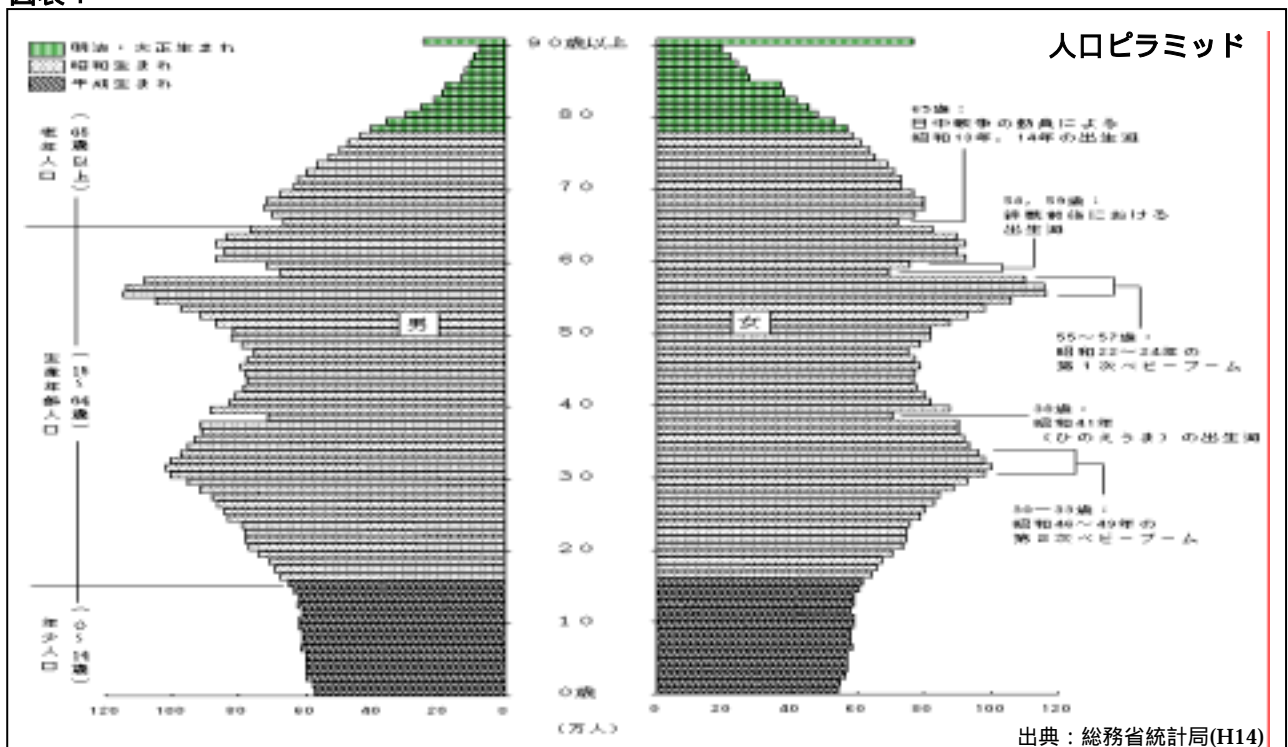
都道府県別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所：平成 14 年）によれば、宮城県の人口は、平成 25 年にピークを迎える推計でありましたが、既にその推計より早く、平成 17 年には人口減少に転じています。全国的にも少子化は加速し、出生率も着実に減少してきています。

年齢別構成比推移（宮城県）においても、60 歳以上の構成率は、1995 年（平成 7 年）に 20.4%（全国 20.5%）であったものが、約 20 年後の 2015 年（平成 27 年）には 29.3%（全国 31.8%）と、全国に比較すればやや低いものの、全体の約 3 割を占めることが推計され、ここ数年の出生率の低下をあわせ考慮すれば、更なる少子高齢社会への加速が予想されます（図表 1～5）。

また、これからの高齢者は、生涯学習への関心の高さやパソコン等情報通信の高度化等への適応力の強さもあり、また、大学等で講義を受けることへの関心も高い傾向があります。（高齢社会対策の推進の基本的在り方について H13 / 内閣府）

こうした状況を踏まえ、元気な高齢者のニーズを的確に把握し、施策展開していく必要があります。

図表 1

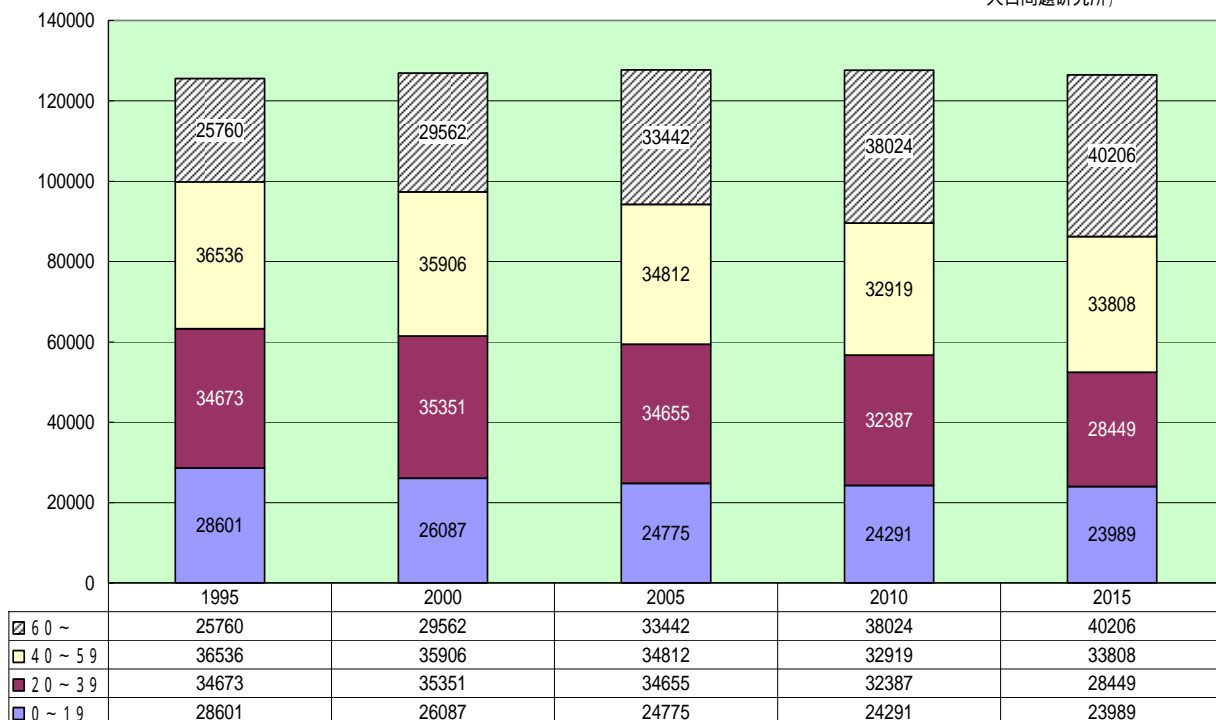


図表 2

推計人口(年齢別人口推移:全国)

単位:千人

出典:推計人口(H14:国立社会保障・人口問題研究所)

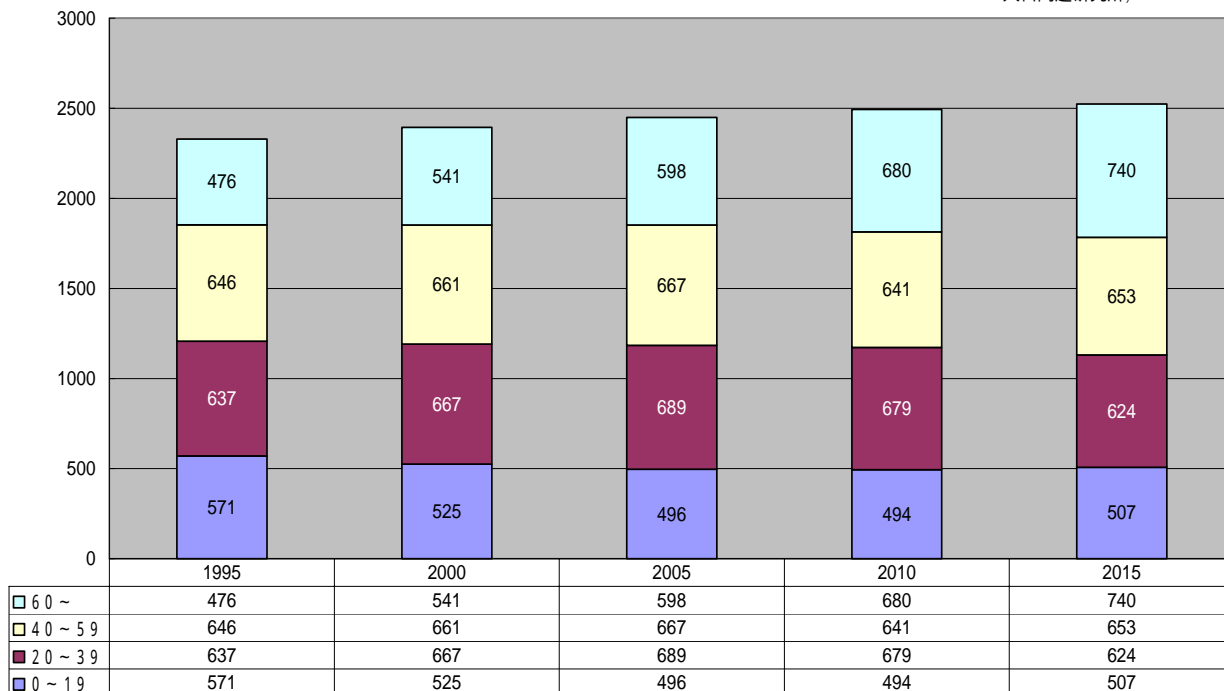


図表 3

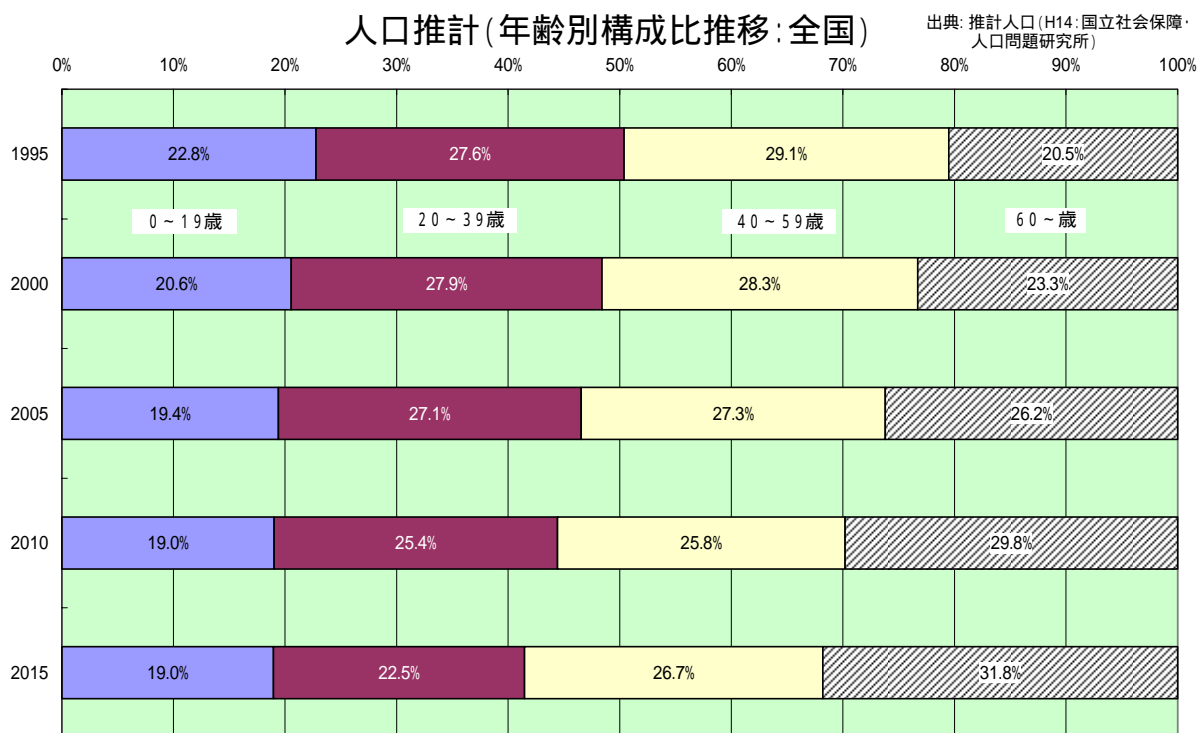
推計人口(年齢層別人口推移:宮城県)

単位:千人

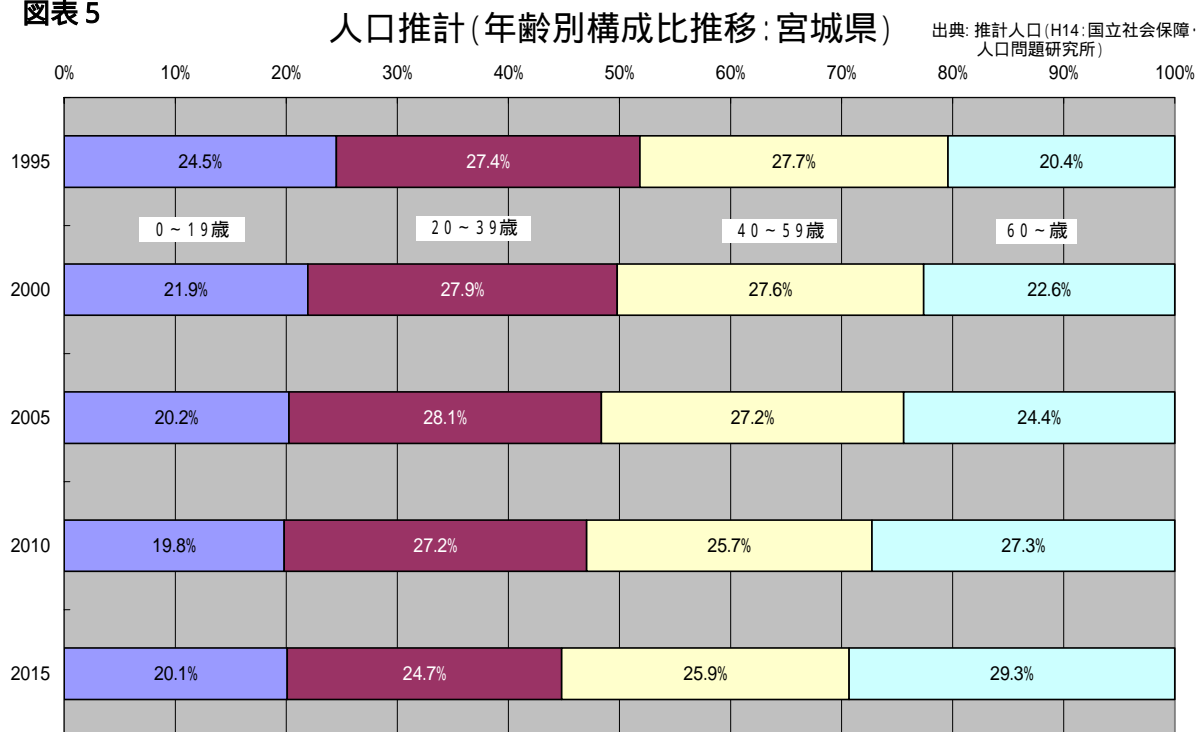
出典:推計人口(H14:国立社会保障・人口問題研究所)



図表 4



図表 5



(2) 団塊の世代の動向

経済的にも時間的にも余裕のある「団塊の世代」の退職に伴い、「アクティブシニア」とか「スマートシニア」と呼ばれる元気高齢者の層が今後増加することが予想されています。

民間調査機関が実施した「60歳を過ぎてからの人生で、やってみたいこと」では、「国内外の旅行」が68.4%と一番高く、「自然散策、ハイキング、まち歩き」や「田舎暮らし、都会暮らしの行き来」等へのニーズも高い傾向にあります。

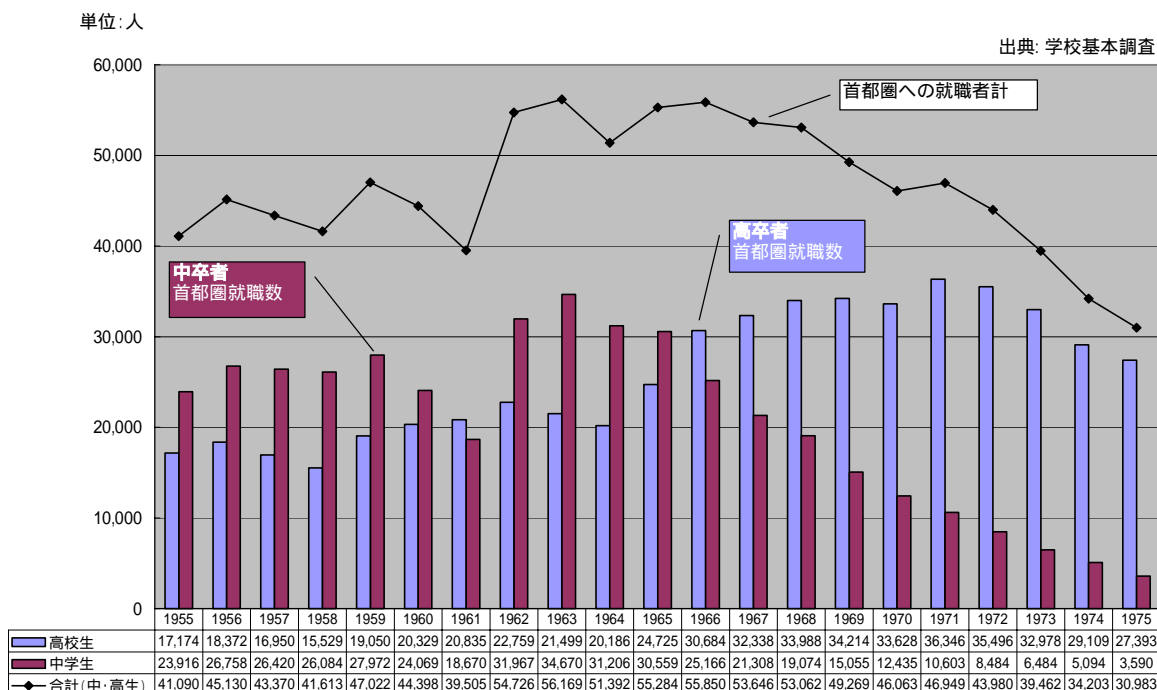
また、「団塊の世代」の行動形態が地域にもたらず経済効果が注目されており、多様化する旅行スタイルやニーズに対応した施策が求められています（図表6～7）。

【参考】

「団塊の世代」が就職した時期を含む'55～'70年の間に東北6県から首都圏へ就職した人数は、下図に示したとおりで、約77万人超となっている。東北出身者のUJターンはもとより、他地域からのIターンも視野に入れて滞在型の施策展開を図っていく必要がある。

図表6

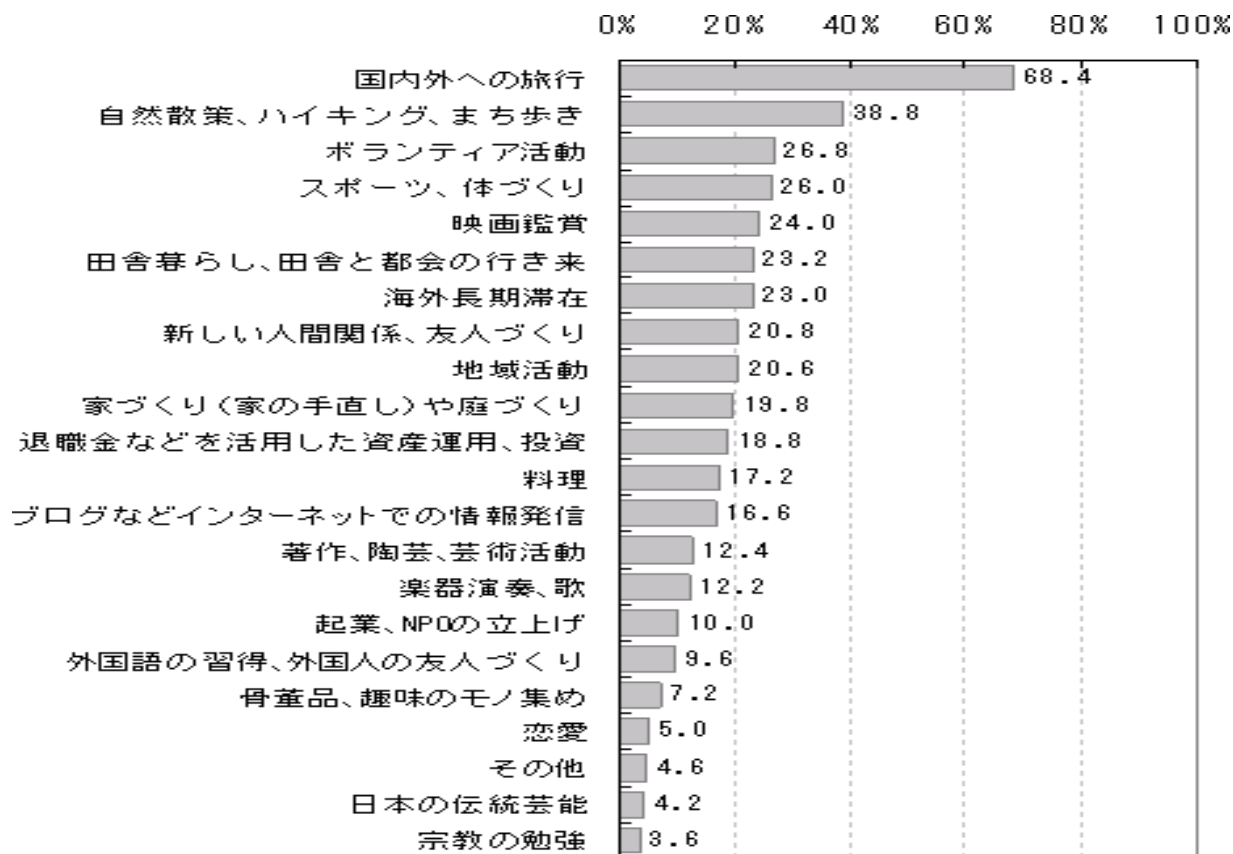
卒業年次別 東北から首都圏への就職者数(中・高卒)



図表7

60歳を過ぎてからの人生で、やってみたいこと

(団塊の世代のセカンドライフに関するアンケート結果)



出典：株式会社野村総合研究所（'05.11.18 ニュースリリース）

(3) 旅行形態の変化

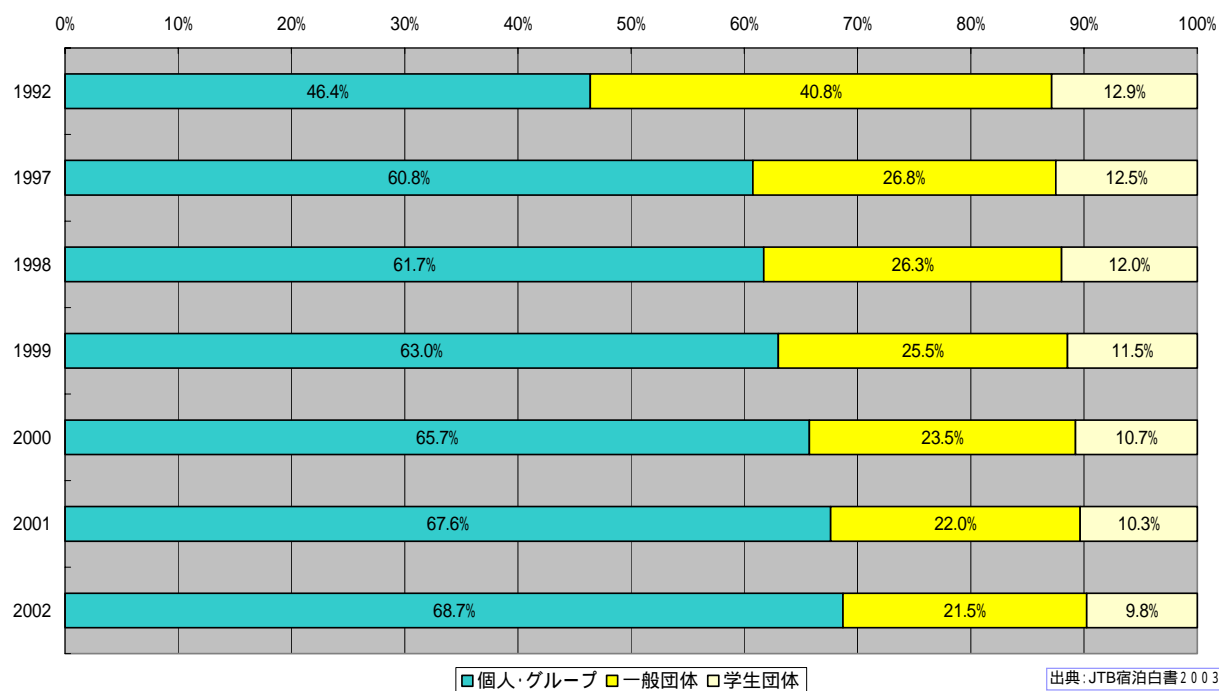
従来の団体旅行からオリジナリティのある個人旅行へ、高速交通体系の整備等による日帰り旅行の増加、見る観光から触れる観光へ、「学ぶ」・「体験」・「癒し」等への指向により、有名観光地巡りから歴史探訪やそばづくり等、テーマ性・体験型を組み込んだ旅行需要の増加など、旅行者のニーズは大きく変化してきています。

宮城県を訪れる観光客の傾向として、同行者別類型では、大人の親子連れ・子育て後の夫婦・カップル・男性一人（ビジネス客を含む）等が全国平均に比べて多い一方で、小学生連れ・3世代家族旅行等は少ない傾向にあります（図表8～13）。

このような旅行形態や旅行者ニーズの特徴を的確にとらえて対応していくことが重要です。

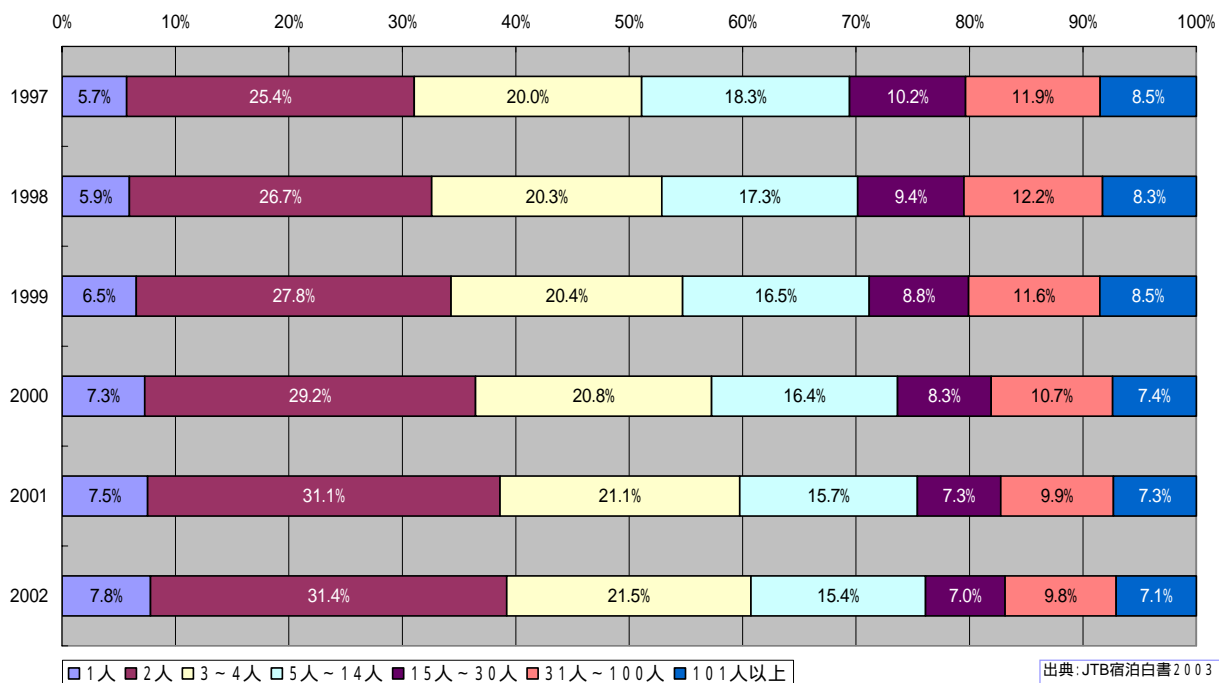
図表 8

旅行形態別宿泊者数シェア推移



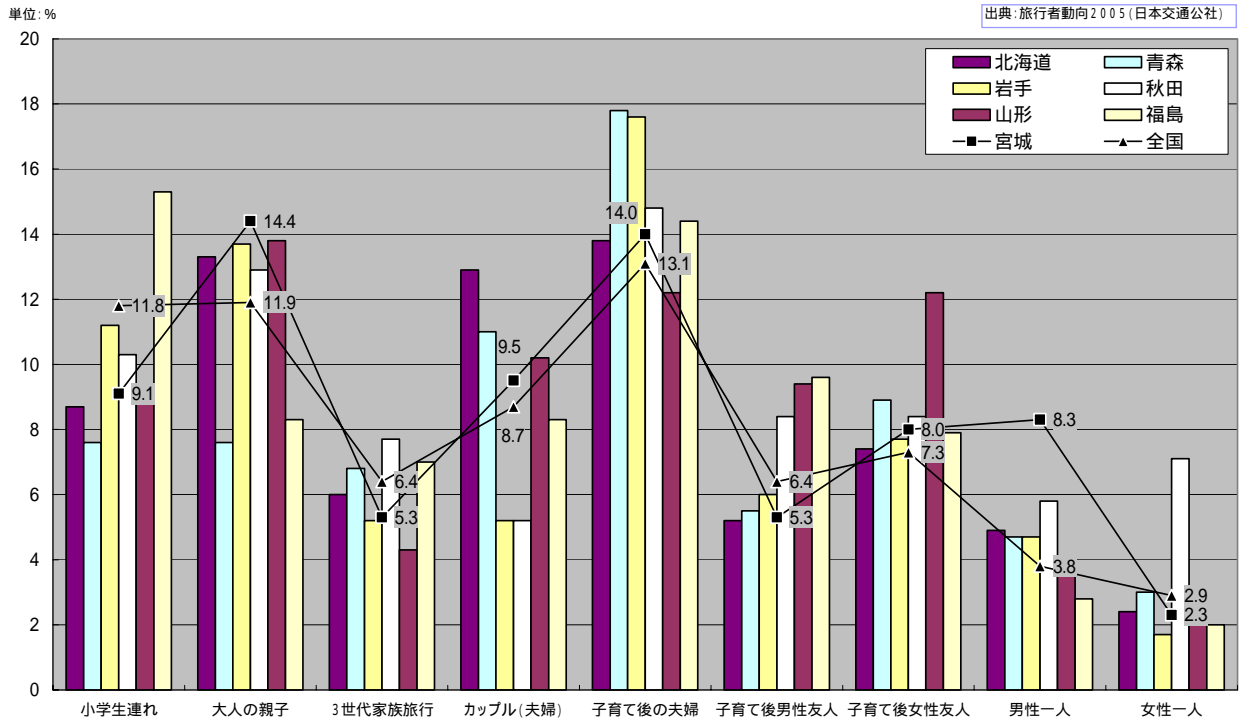
図表 9

同行人数別宿泊人数シェアの推移 (学生団体を除く)



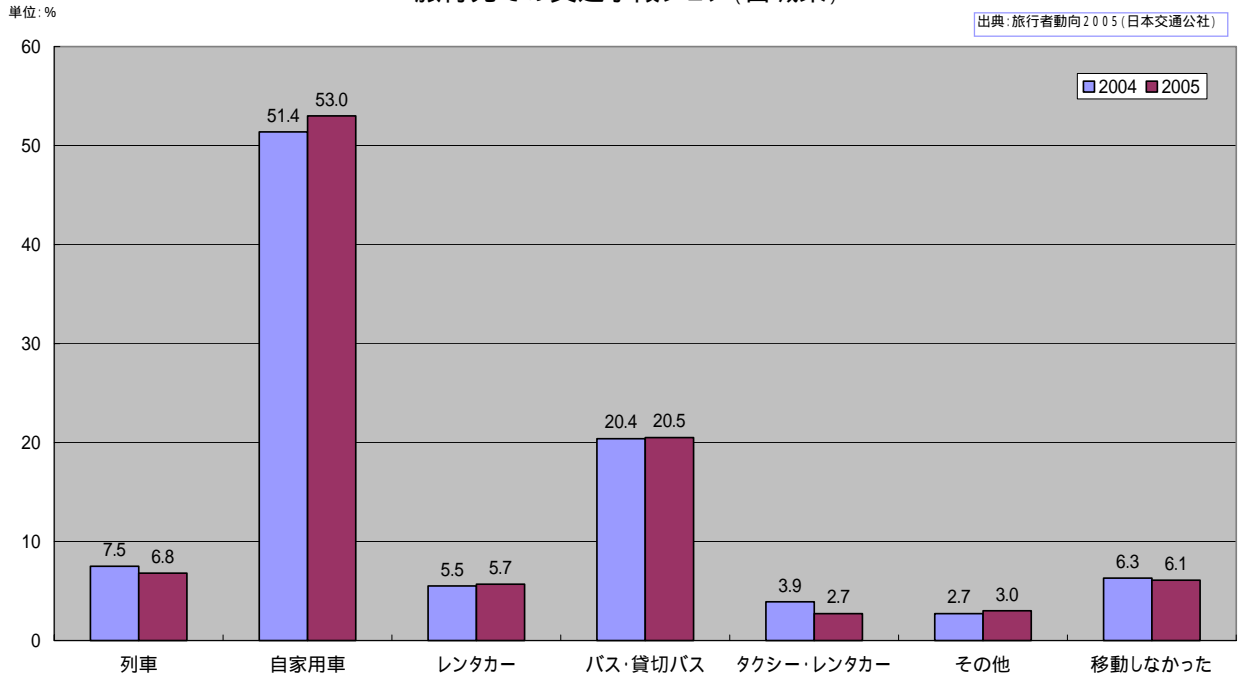
図表 10

旅行先(都道府県)別の同行者タイプシェア



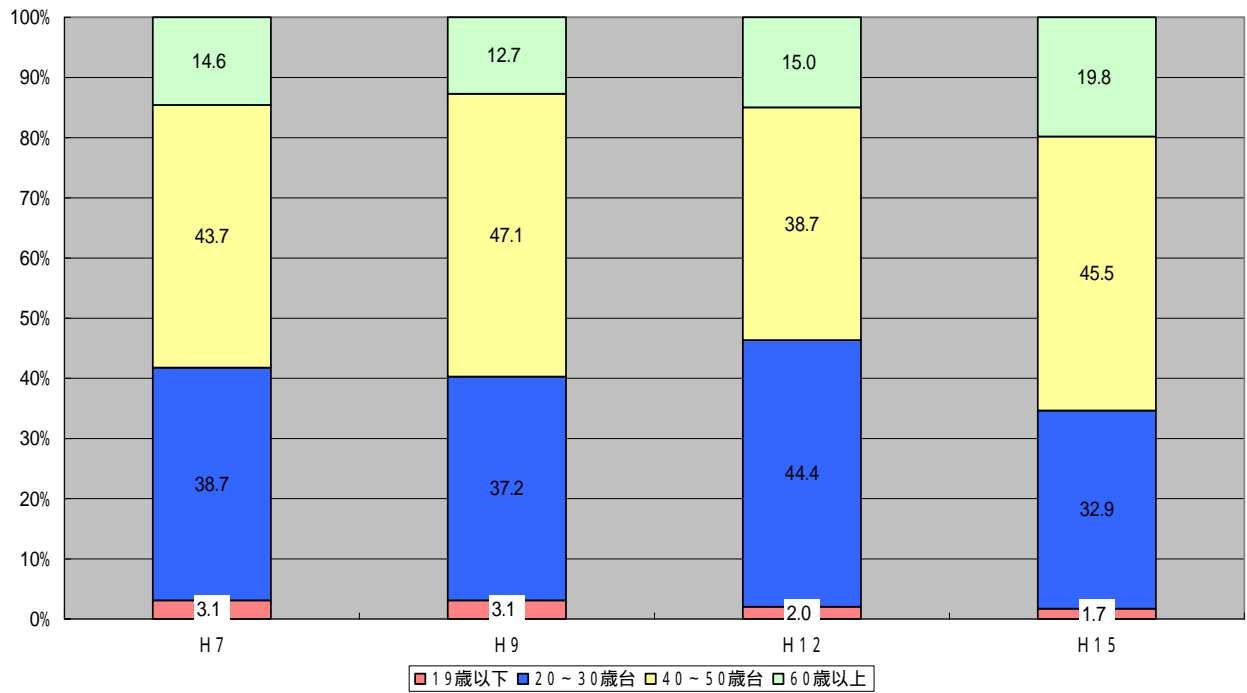
図表 11

旅行先での交通手段シェア(宮城県)



図表 12

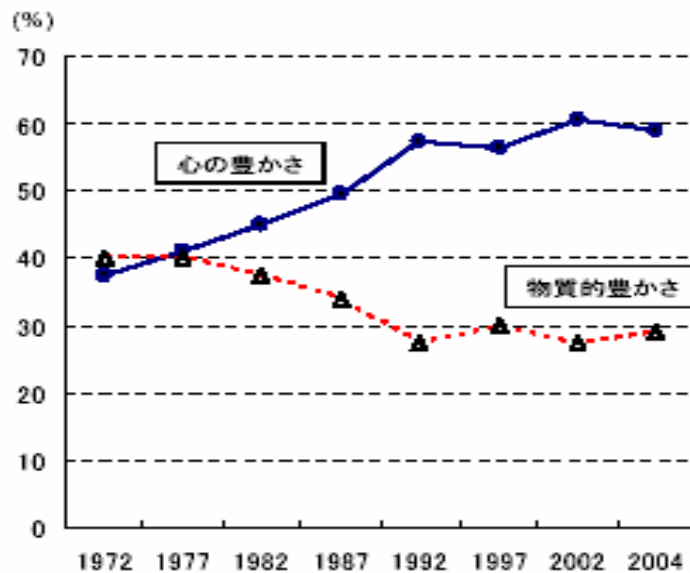
観光客の年齢構成の推移



出典：宮城県観光動態調査

図表 13

心の豊かさか物質的豊かさか



出典：内閣府「国民生活に関する世論調査」(H14)

(4) 地域間競争の時代

交流人口の拡大は、地域経済の発展や異文化交流、地域の再発見等、地域にもたらす効果が大きいと考えられています。

少子高齢社会にあつて、人口増加施策の展開は極めて困難です。しかし、二地域居住（マルチハビテーション¹・週末居住等）や移住・定住を促進することによる地域活性化など代替的な施策が求められており、交流人口の拡大施策については、地域同士が競い合う「地域間競争」の時代となつてきています（図表14）。

他方、「旅行者に県境はない」ことを考慮すれば、まず、宮城県のみならず東北全体へ訪れる観光客を増やすことが重要であり、いたずらに観光客の奪い合いをすることは東北の観光に関するイメージを損なう可能性もあります。よつて、東北6



仙台空港アクセス鉄道車両

県や近県が一体となつてのプロモーション活動や観光資源の提示など、更なる連携が必要です。

宮城県は、高速道路・新幹線・仙台空港・仙台港が整備されており、また、平成19年3月には仙台空港アクセス鉄道が開業する見込みであるなど、東北地方における高速交通体系のゲートウェイ²機能を十分に備えています。

このため、宮城県の役割として、他県と協働して受入態勢整備や県境を越えた広域連携を働き掛けるなど、東北全体を視野に入れた取組を先頭に立つて実施していくことが求められています。



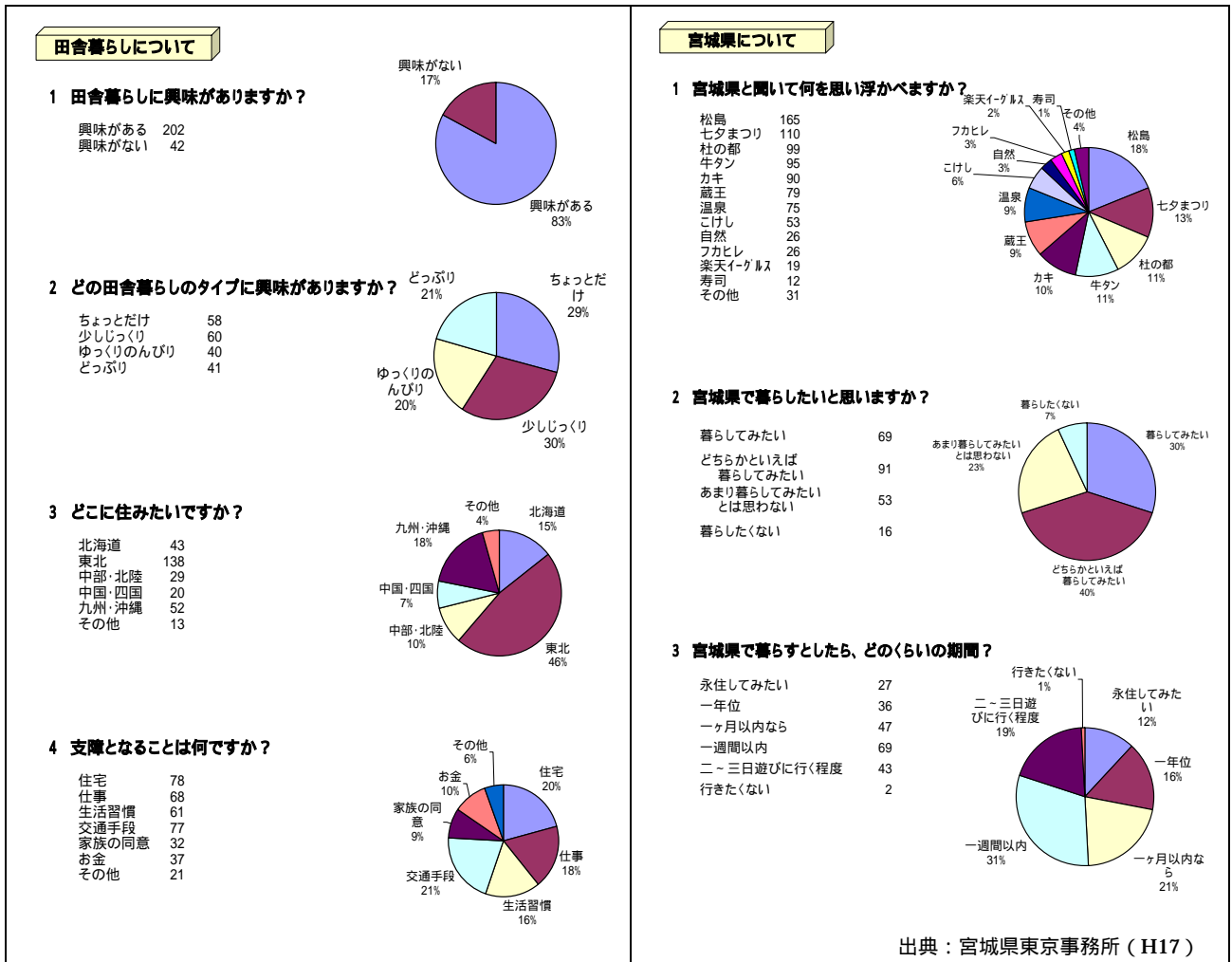
仙台空港アクセス鉄道イメージ

さらに、行政間の組織づくりへの積極的な関与はもとより、官民の協働組織や地域間の連携づくり等の体制の整備や役割分担を明確にすることも必要です。

- 1 都市と田舎など複数の住まいを確保し、必要に応じて住み分けること。
- 2 門、出入り口。ここでは、東北から他都市へ、又は他都市から東北への移動の玄関口であることを意味する。

図表 14

首都圏在住者へのアンケート



内的要因（本県の現状と課題）

(1) 低い（少ない）情報発信

観光資源（素材）は豊富だが、その魅力が効果的に情報発信されていない

観光振興において、情報の果たす役割は極めて大きいものがあります。

平成 16 年におけるインターネット利用者は、7,948 万人（情報通信白書：平成 16 年）と推計され、インターネットを通じての観光情報の収集や宿泊予約が急速に伸びています。今後、パソコンのみならず携帯電話の普及・高度化やカーナビゲーション等の多様な高度情報通信機器を活用した情報収集傾向は、一層強まるものと考えられます（図表 15・16）。

宮城県は、東に太平洋、西に奥羽山脈が連なり、海・山・川・里の豊かな自然に恵まれ、日本三景の松島、百万都市仙台、「お釜」で有名な蔵王、ふもとには鳴子・作並・秋保等の温泉郷を有しています。また、高級食材のフカヒレ、名物の牛タン、サンマや牡蠣等の豊富な海産物や宮城米など多くの食材があり、まさに「食材王国みやぎ」といえます。さらに、温かみのある人、伊達政宗公や松尾芭蕉など歴史や文化における豊かな資源も有しています。

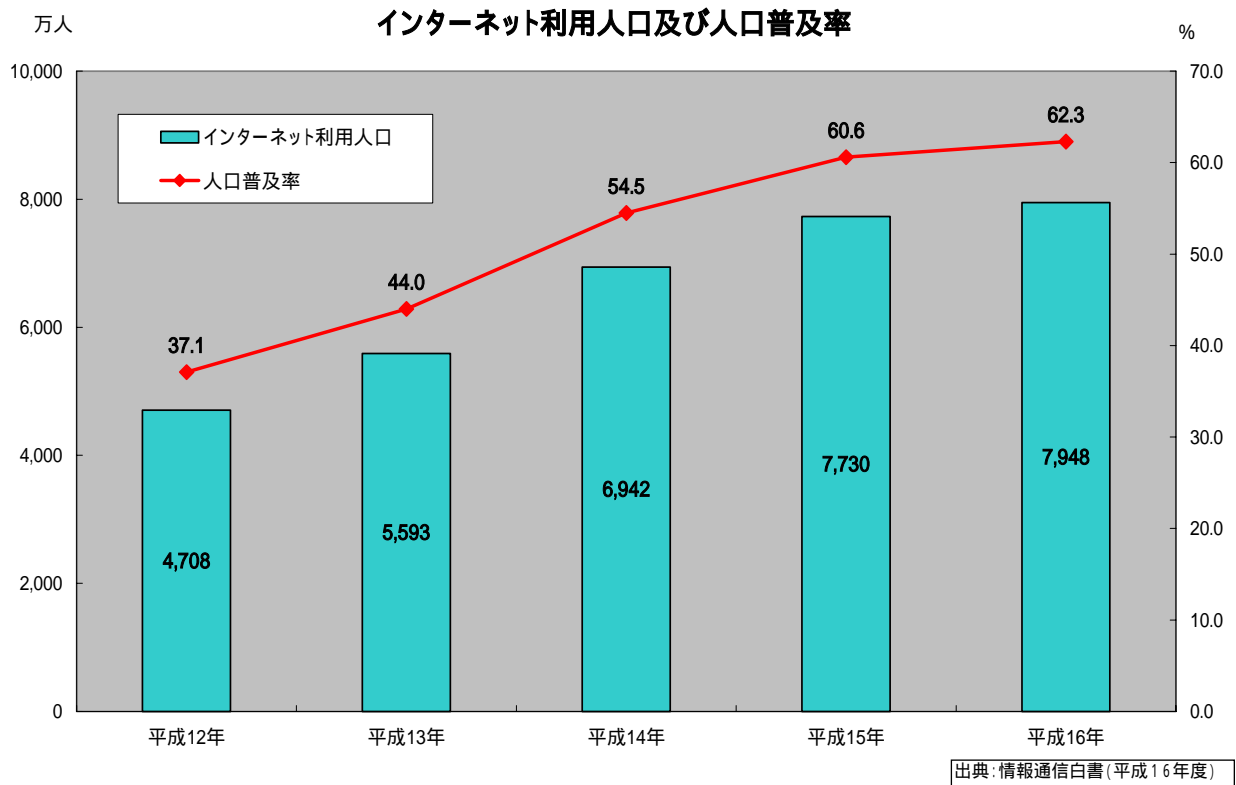
県では、「スマイルあったか宮城観光案内所」の活用を図るとともに、イベントや地域資源のメディアへの観光情報提供等を実施しています。

しかし、歴史や文化に特化した内容・テーマや、団塊の世代を含むシニア層を対象とするなどのカテゴリー¹を踏まえた情報発信は未実施であり、外国人観光客への「i 案内所²」なども十分ではありません。今後、旅行者ニーズに対応した地域の魅力を伝える情報発信を効果的に行う必要があります。

1 種類、範囲

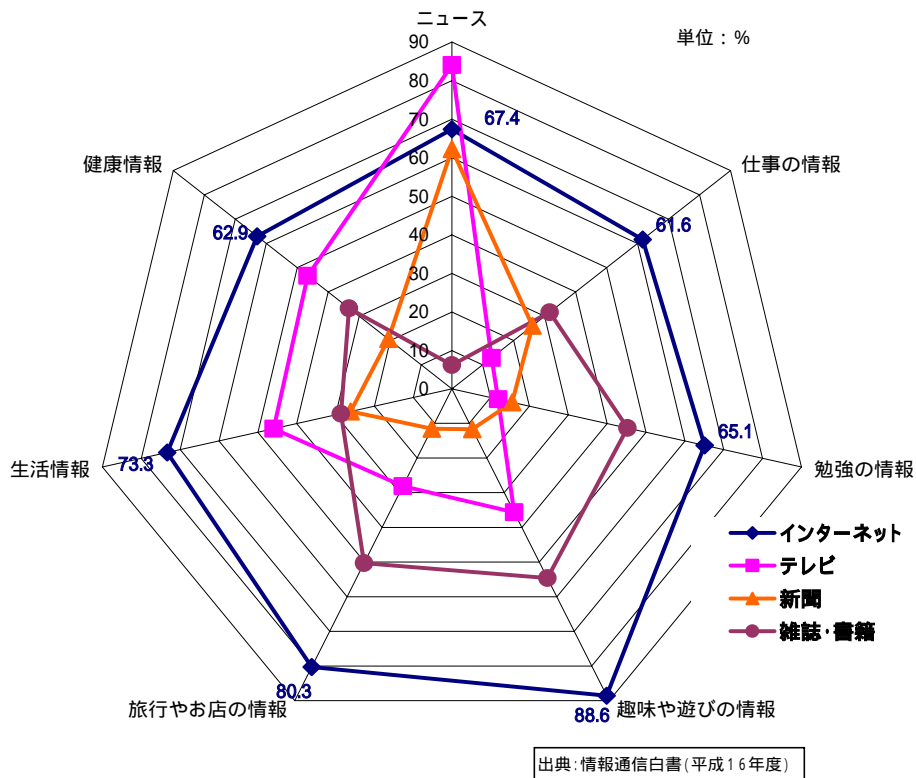
2 外国人旅行者の対応可能な観光案内所のうち、一定の基準を満たしている案内所

図表 15



図表 16

情報メディア別の情報収集用途(複数回答)



(2) 「地域で もてなす」意識の不足

「住んでいる地域に誇りを持ち、訪れる人に地域の良さを伝え、もてなす」という意識が不足している

交流人口の増加がもたらす効果を把握し、その恩恵を享受することが、これからの地域づくりや観光地づくりを進める上で不可欠なことです。

地域の活力は、地域に住んでいる人はもとより、観光等の目的を持って訪れる人々との交流によって、生み出されるものです。

国の観光立国行動計画では「住んでよし 訪れてよしの国づくり」を提唱しており、まず、自らの地域を再認識し、誇りを持ち、訪れる人に地域の良さを伝えるなど「地域でもてなす」ことが必要であり、「また行こう」、「また行きたい」と思ってもらうことが重要です。

しかし、他の地域の人から見れば魅力的なもの（資源）でも、地元では気付かずに「もてなすものがない（魅力がない）」と考えている場合も少なくありません。

地域全体で観光客を「もてなす」ためには、自らの地域に関する新たな着想をいかに生み出していくかが今後の大きな課題です。

(3) 観光がもたらす効果への認識不足

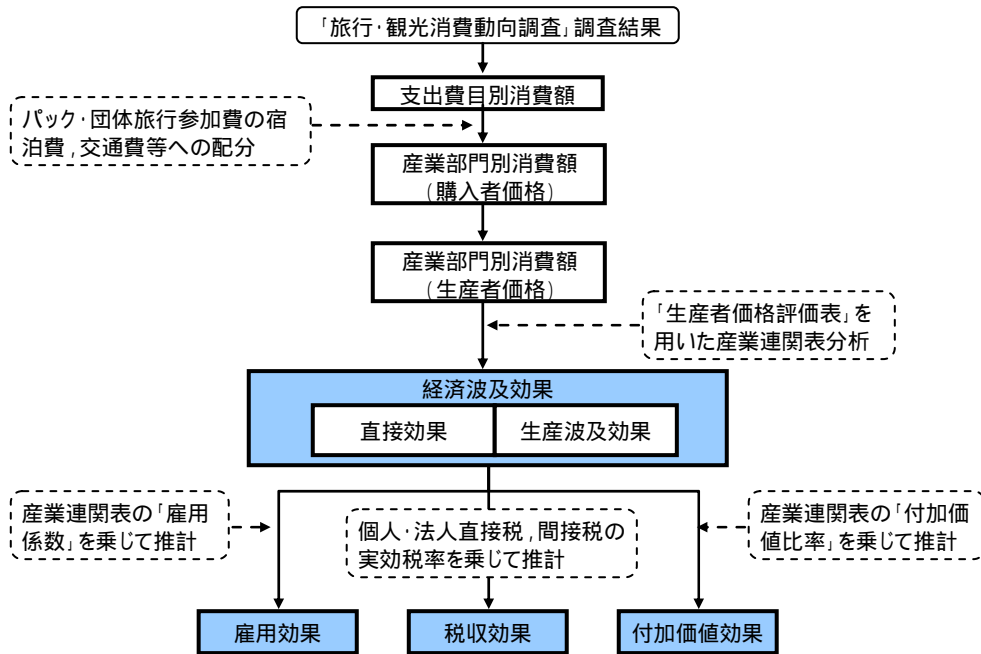
観光がもたらす効果（経済効果・異文化交流等）はすそ野が広く、かつ、大きいですが、そのことが十分理解されていない

国の調査研究によれば、旅行消費が生み出す雇用者数は、全国で 469 万人と推計され、直接雇用効果が全雇用の 3.6%（229 万人）、生産波及効果や付加価値効果ももたらす雇用効果と併せ、全雇用の 7.4%に相当するとされています。

また、税収効果においても旅行消費によって国税・地方税を合わせ 5.0 兆円と試算されています（図表 17・18）。

図表 17

旅行・観光産業の波及効果推計の流れ

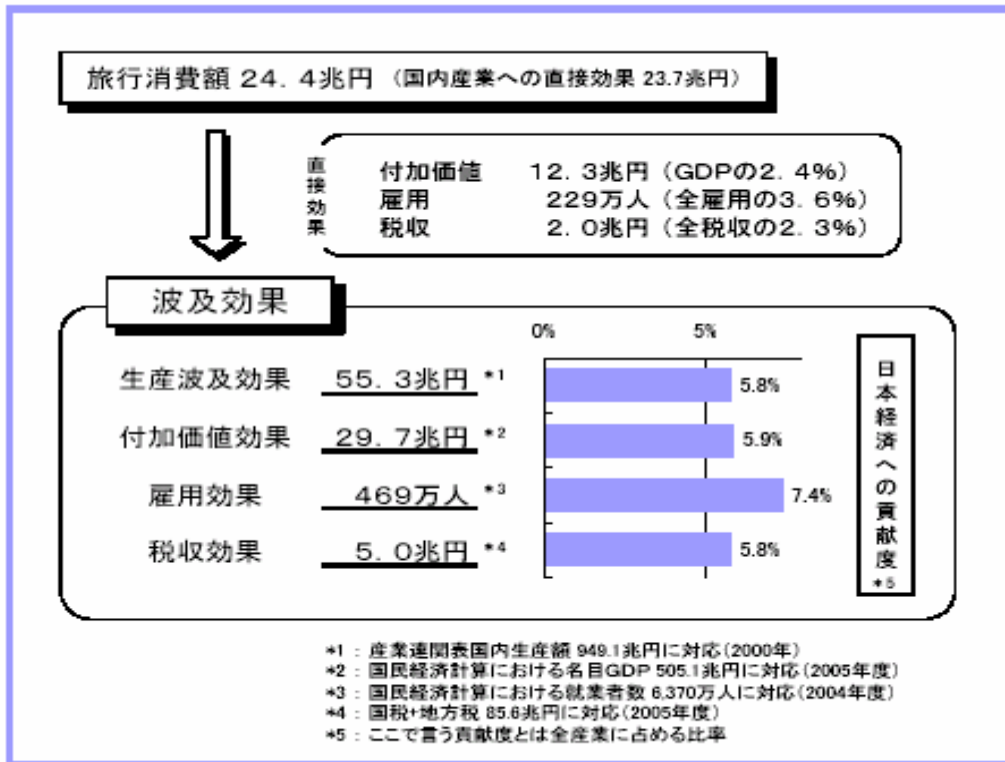


出典：「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」

(H17：国土交通省総合政策局)

図表 18

旅行消費が我が国にもたらす経済波及効果

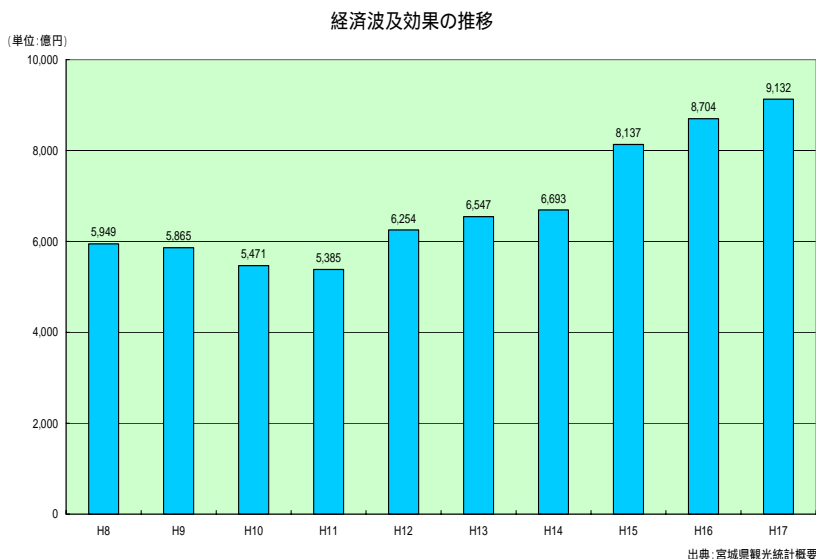


出典：「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」

(H17：国土交通省総合政策局)

本県における観光産業がもたらす経済的効果は、宮城県観光動態調査（H15 実施）に基づく試算において、平成 17 年の観光直接消費額（宿泊費，飲食費，おみやげ代など）は 5,284 億円，各種産業への波及効果は 3,848 億円，合計 9,132 億円と見込んでいます（図表 19）。

図表 19



また，日帰り観光客の一人当たり消費額が平均 7 千円，宿泊観光客の平均が約 42 千円であることから，日帰り観光客数が 100 万人，宿泊観光客が 10 万人増加すると想定した場合，112 億円（日帰り 70 億円 + 宿泊 42 億円）の経済効果が発生し，農林水産業・輸送・娯楽サービス・食料品等への波及効果 79 億円を合わせて 191 億円分の経済効果が誘発されます。

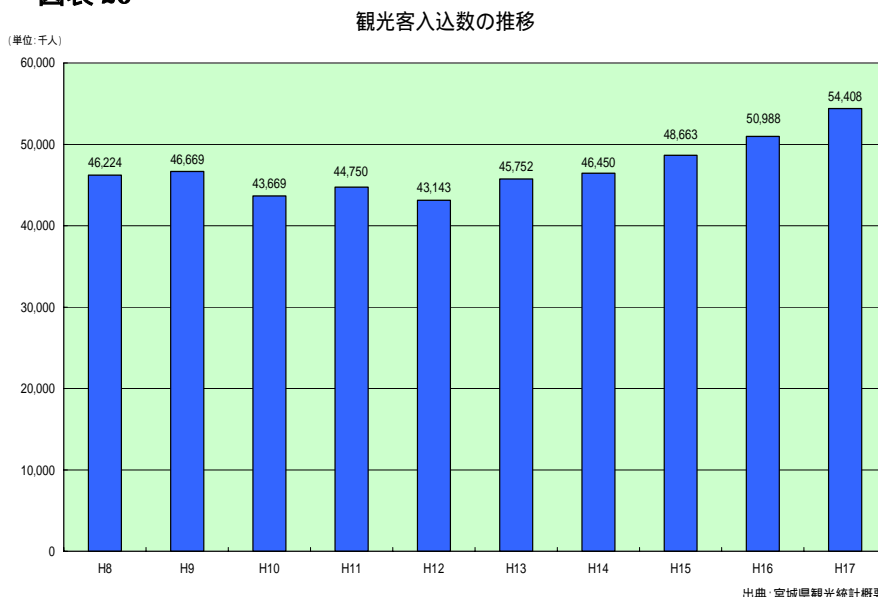
このように，観光産業が県の経済にもたらす効果・貢献度は大きいものの，これまで観光客入込数（図表 20）や宿泊観光客数（図表 21）の推移と経済効果との関係について，県民に効果的に P R され

ておらず，十分に理解されていない実情でした。

したがって，今後，このことを県民に

十分浸透させていくことが大きな課題であり，また，初等・中等教育の場においても，将来を担う子どもたちが副読本等を通して理解を深めることが重要です。

図表 20

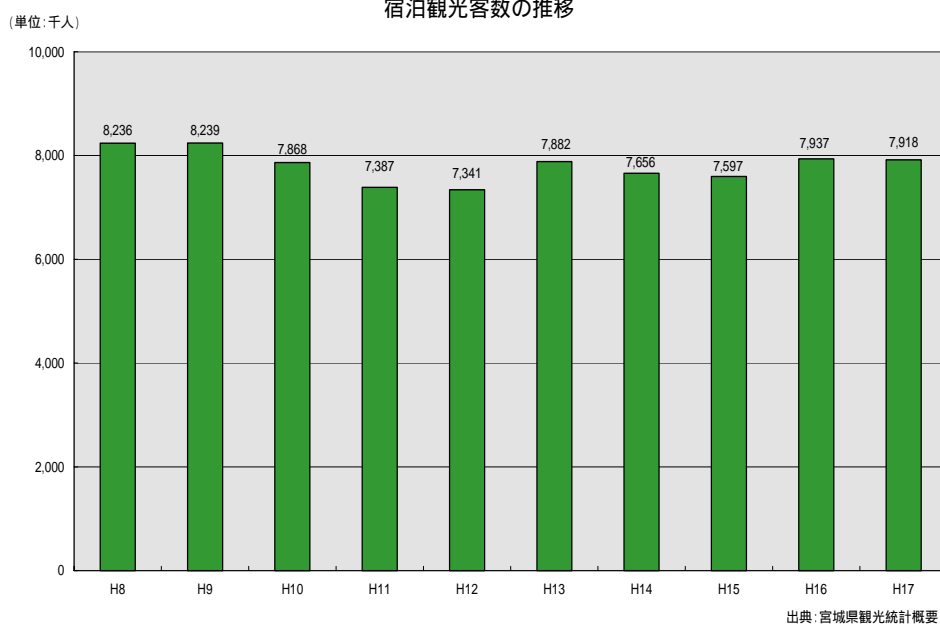


【参考】

宮崎県では、(財)みやざき観光コンベンション協会が「宮崎観光副読本」として、小中学生に配布している。

図表 21

宿泊観光客数の推移



(4) 「地域の魅力」の未活用

地域には魅力的な観光資源が多くあるが、有効に活用できていない

優れた観光地とは、単に有名な観光名所があるということだけではありません。住民には見慣れた当たり前のものでも、他の地域の人には魅力的に見える資源が数多く存在します。自分のまちや地域の「なりわい」、「くらし」そのものが、訪れる人にと



鳴子温泉

とって「原風景」、「異文化」、「非日常」等としての魅力を感じさせるものです。

そこで、住民が自らの地域の魅力に気づくことが必要です。「住んでよし」の地域にするためには、まず、住んでいる人の満足がなければ訪れる人への満足を与えることはできません。

みやぎには、おいしい米や牡蠣やフカヒレ等の海産物、蔵王連峰や栗駒山等の豊かな自然、様々な泉質を有する鳴子や秋保などの温泉郷、伊達政宗公や松尾芭蕉などの歴史や文化、国際的には「近代中国の父」といわれる文豪「魯迅」が学んだ学都仙台、「七夕」、「塩竈港まつり」等の祭りや野球・サッカー・バスケットボール・女子レスリングのプロスポーツ観戦、さらには、仙台フィルハーモニー管弦楽団を中心とする音楽芸術など多くの魅力がありながら、観光のための資源としては十分に活用しきれていないのが現状です。

地域の資源を見つめ直し、既にあるものを磨く、また、他地域との連携を積極的に行うなど地域の魅力を有効に活用し、つなげていくことが課題です。



ユアテックスタジアム仙台



七夕



蔵王のお釜



宮城の温泉

“みやぎ”の強み(例)

温 泉	秋保温泉 作並温泉 小原温泉 鎌先温泉 遠刈田温泉 鳴子温泉
観 光 地	松 島 蔵王連峰 仙台城址 登米教育資料館 栗駒山 三陸海岸
食 材	牛タン フカヒレ 宮城米 寿 司 ずんだ餅 笹かまぼこ
祭・イベント	七 夕 定禅寺ストリートジャズフェスティバル 初売り 青葉まつり みなとまつり 塩竈神社帆手祭
プロスポーツ・芸 術 文 化	東北楽天ゴールデンイーグルス(野球) ベガルタ仙台(サッカー) 仙台89ers(バスケット ボール) 仙台ガールズプロレスリング 仙台フィルハーモニー管弦楽団

4 みやぎの観光に求められる視点と目指す方向

宮城県の観光振興を推進するため、この「みやぎ観光戦略プラン」では、特に重要な3つの視点を提示しており、以下の方向を目指していくものです。

求められる視点

(1) 交流と発信によるみやぎの活性化

団塊の世代の大量退職と元気高齢者の増加

人口減少や少子高齢化など社会情勢の影響は宮城県に及んでおり、地域が活性化するためには、「訪れる」、「滞在する」といった交流人口を増加させることが重要です。

経済的にも時間的にもゆとりがあり、行動力旺盛な団塊の世代の大量退職者や元気高齢者の増加は、宮城県の観光市場にとっても大きな魅力です。そこで、これらの人々を主要な対象と位置付け、この世代が求める観光ニーズや全国的な傾向を適切に把握し、効果的な観光施策を打ち出す工夫が求められています。

セールスポイントを意識した情報発信

現在、観光客への情報提供の多くは、目的地の地理・交通情報が主流となっていますが、今後は、宮城県の特徴・優位性を活かす方策が不可欠です。

例えば、東北6県全体の情報・歴史探訪として平泉文化や伊達政宗公や松尾芭蕉に関連する情報を再構築して発信する、あるいは農林水産業を体験宿泊できる施設など、より専門性の高い情報や宮城県のセールスポイントを前面に出したテーマ別、カテゴリー¹別などに分けて情報発信することが必要です。

宮城県では、今までこうした取組に関し、観光産業と有機的に連携してきたとは言い難い状況です。よって、今後は、大型観光キャンペーンの実施などを核とし、市町村や県地方機関がコーディネート²機能を発揮して、事業者や住民が中心となった地域の魅力磨きを、観光の視点からも行うなど訪れる人を更に引き付ける施策を展開していきます。

1 同じような性質のものが含まれる範囲

2 物事を調整し、まとめること。

観光情報コンテンツ¹の整備・拡充

観光に関する情報については、宮城県を訪れたいくなるようにホームページ、携帯サイト等、高度情報化社会に対応したあらゆる情報媒体を通じて分かりやすく提供する必要があります。他方、みやぎの食や体験活動などテーマごとのパンフレットの作成、配布など従来型の広報活動も継続的に取り組んでいかなければなりません。

今後激しさを増す観光による地域間競争に向け、多様化する観光客のニーズに対応すべく、分かりやすい観光情報の整備・拡充が求められています。

(2) みやぎ各地域の魅力の活用

地域の魅力度アップ・再発見

地域の自然、歴史、文化などを活かした観光地づくりに取り組むことは、地域住民がそれらの価値を見直す契機となり、新しい地域の魅力を再発見・創造することにつながります。

このため、県民一人一人が地域を知って、自分が住んでいるところに誇りを持ち、郷土愛をはぐくむことが必要です。宮城県は、歴史と伝統にはぐくまれ、山紫水明に恵まれたすばらしい地域です。おいしい地元の食材や温泉など県民が当たり前と思っていることが本当は訪れる人が求めているものなのです。

こうした、地元でしか経験できないこだわりや本物を見極め、更に磨き上げていく地域づくりが今求められています。

滞在型・体験型観光の整備・拡充

本当の宮城県を知ってもらい、その魅力をより深く印象付けるためには、日常の生活や楽しい行事等への参加・体験が重要な手段となります。

グリーン・ツーリズム²などは、その代表とされています。触れたり、作ったり、味わったり、五感を働かせる滞在型・体験型の観光メニューを整備・拡充し、ひいては二地域居住（マルチハビテーション・週末居住）等やUJIターンも想定しての施策展開が必要です。



原風景（蔵王と水田）

1 情報提供サービスにおける情報そのもの、中身

2 都市住民が農山漁村に滞在し、地域の自然や文化、人々との交流を楽しむ旅行形態

ホスピタリティの向上

観光客は、単なる「宿泊」、「飲食」にとどまらず、訪れた地域の人との「語り」、「ふれあい」などを通じ知的探求や心のふれあいも求めています。

住民誰もが誇りと愛着を持てるような地域づくりを進める「地域力」、地域へ観光客をいざなう「観光力」を向上させるため、真心のこもった「おもてなしの心の醸成」が求められています。

受入態勢の整備（ソフト・ハード）

自分の住む地域に誇りと郷土愛を持つことが「おもてなしの心」の原点といえます。しかしながら、私たち自身も故郷・宮城県をよく知らないのが実情です。

観光地としての魅力を高めていくためには、自分の地域の自然、歴史、伝統文化などの付加価値を有機的につなげていく仕組みが必要となることから、例えば、県民自らが県内を旅行してみやぎを知ろうとするキャンペーン「（仮）あなたの知らないみやぎ・新発見運動」や宮城学おこし（観光検定）など県民総参加の地道な活動が必要です。

観光客の行動の多様化に伴い、トイレや休憩所、案内看板、自然公園内の登山道など未整備な箇所の指摘も増加しています。まずは、こうした基礎的な施設の整備を行っていくことが喫緊の課題となっています。次いで、「まちなみ」、「景観」といった観光客に潤いを与える二次的な施設の整備に配慮していく必要があります。

他方、伊豆沼や栗駒山などすばらしい自然環境や生態系を保全し、未永く観光資源として活用するため、環境に配慮した観光地づくりが求められています。

訪れた人を丁重にもてなすこと。おもてなし

(3) 東北の起点としての役割

広域観光ルートの整備・拡充

宮城県は、東北縦貫自動車道や東北新幹線、さらには、国際空港である仙台空港を有するなど東北のゲートウェイとして高速交通体系の起点の機能を有しており、

県内への誘客のみならず、東北全体の総合窓口としての役割も求められています。

本県では、これまでも広域観光ルートの設定に努めていますが、「旅行者に県境はない」との視点で東北全体を広く視野に入れ、各地域のセールスポイントの複合化や同種のセールスポイントを重層化するなど、訪れる人の満足度をより高めていくよう工夫する必要があります。

こうした視点が東北全体、ひいては宮城県内での旅行者の滞在時間を延長することにつながります。そこで、東北各県とも連携を図り、広域観光や周遊化につながるルート設定を進めていきます。また、そのために各観光地間を快適で効率よく移動できるよう、利便性の高いサービスの充実が求められています。

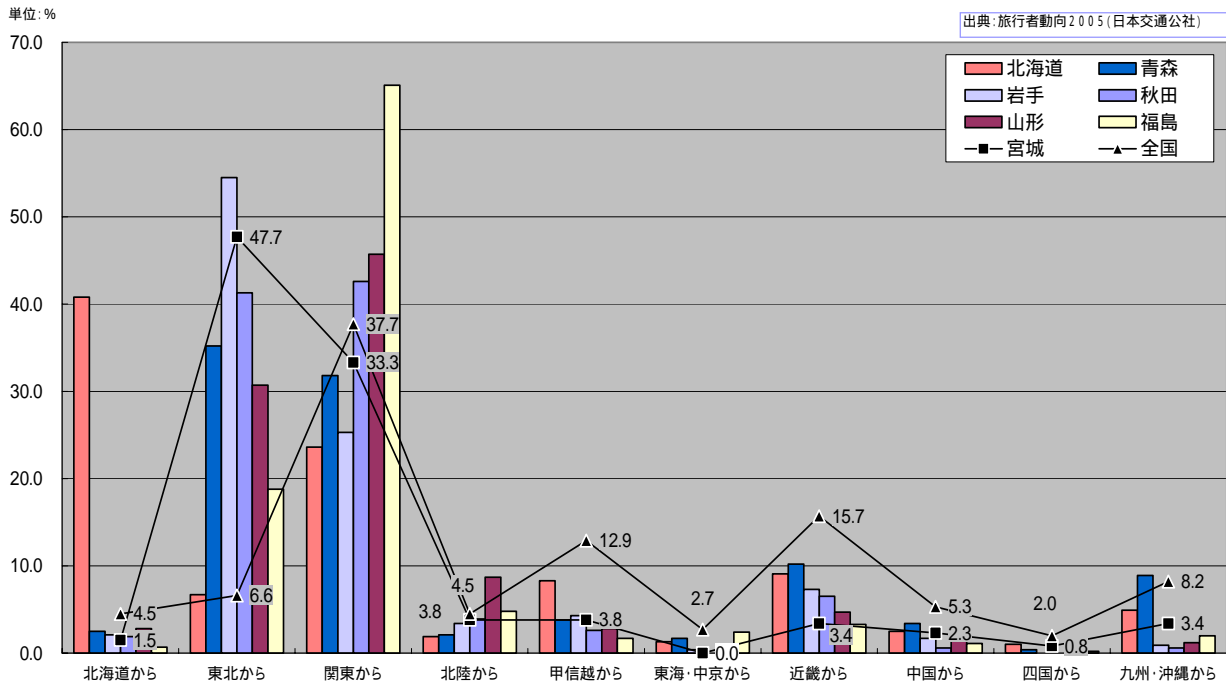
対象（旅行形態・年齢・性別・世代・地域等）を絞った誘客

宮城県を訪れる観光客の居住地別シェアでは、東北域内・関東圏からの観光客が全体の81.0%を占めています（図表22）。したがって、今後、可能な限り東北域内・関東圏の人々に特化したアプローチを行うなどの絞り込みが必要です。加えて、宮城県をはじめ東北を訪れる観光客の旅行タイプシェア（図表23）やふるさと暮らしに対する意向（図表24）などの分析、把握に努め、例えば、「東北・みやぎに求めているイメージ」（「じゃらん」宿泊旅行調査2006）である「おいしい食べ物」、「豊富な温泉」を宮城県の売りとしてPRしていくなどの取組が不可欠です。

また、海外の観光客については、仙台空港と路線が開設されている韓国、中国、台湾をはじめとする東アジアからの誘客に関して、東北地域が連携して戦略的に取り組んでいくことが必要です。さらに、香港など空路開設を目指している地域については、開設交渉と連動した観光プロモーションを積極的に実施するなど、新規需要の開拓が必要です。

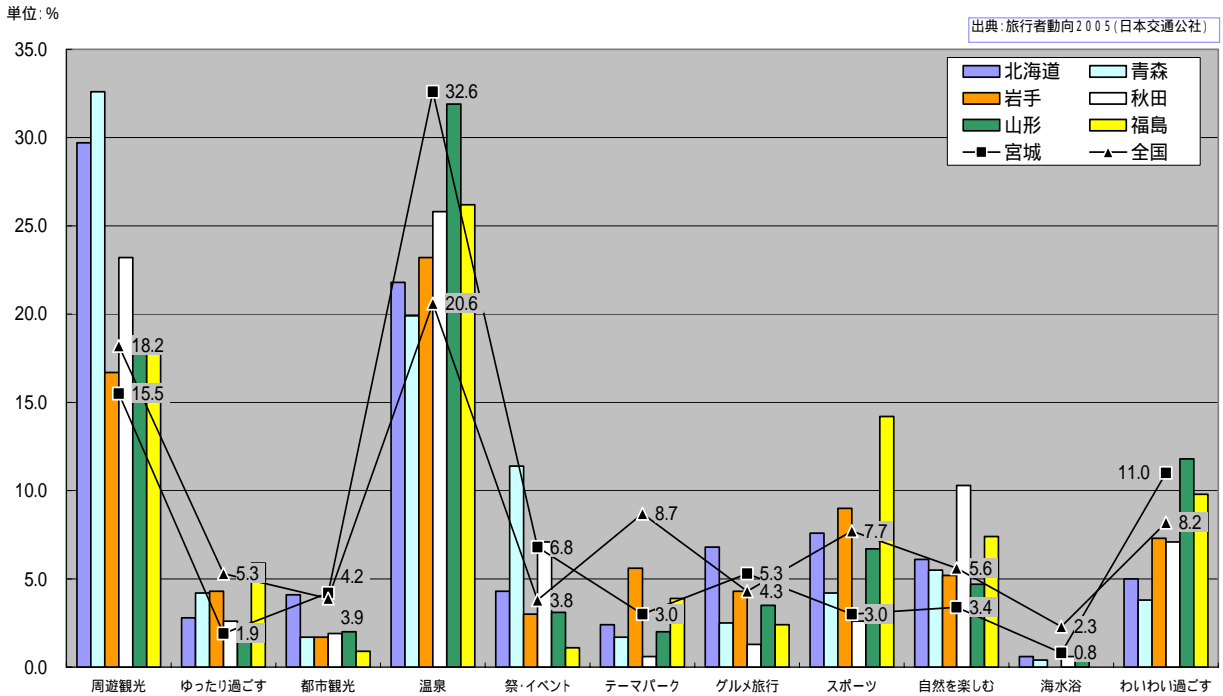
図表 22

旅行先(都道府県)別居住地シェア



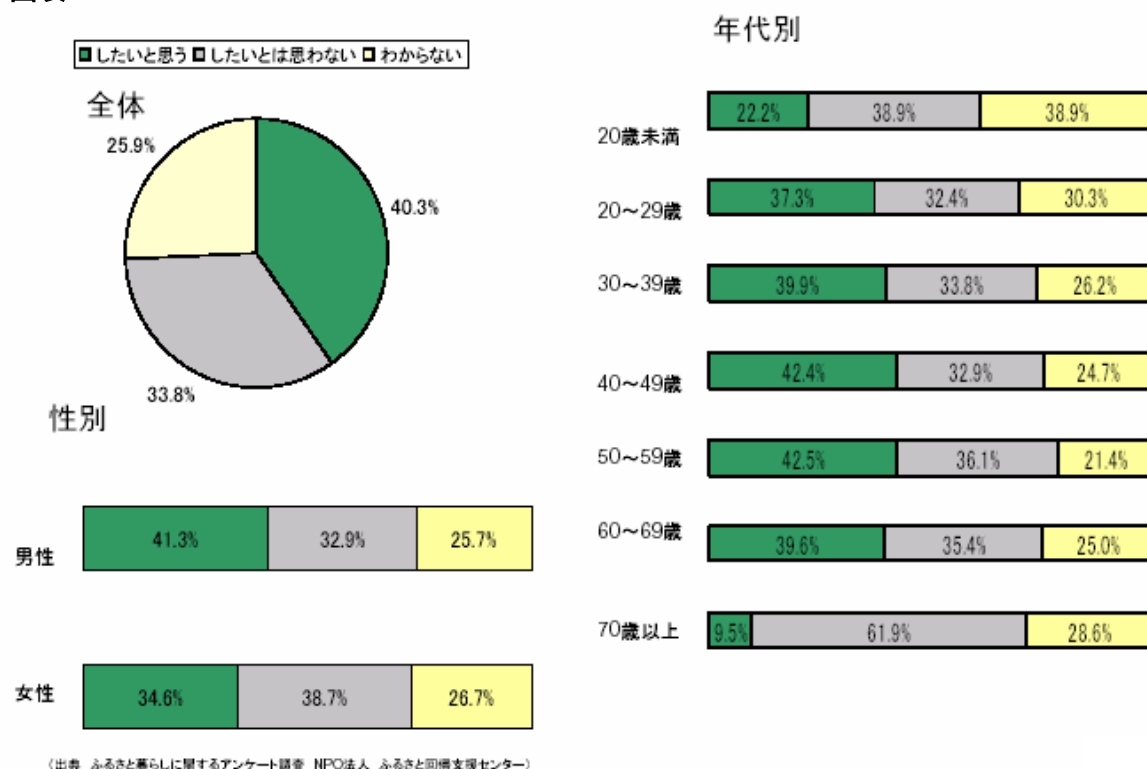
図表 23

旅行先(都道府県)別の旅行タイプシェア



ふるさと暮らしに対する意向

図表 24



目指す方向：「観光を新機軸とする県土づくり」

観光を県の政策の中心に据えて県土をつくり上げる「観光王国みやぎ」とは、観光の担い手を観光事業者だけでなく県民全体に広げるというパラダイムの転換を意味しています。

県民に経済的な「富」を生み出し、それを県民生活の向上に好循環させ、みやぎが潤うための「富県産業」の一つとして、みやぎの観光振興を掲げます。このため、県民の「地域力」をはぐくみ、「観光力」を高め、地域が活性化されて交流人口が拡大する、「何度も訪れてよし」の観光地づくりを目指すものです。

考え方・認識の枠組み

その必要性和行政のかかわり

観光は、農林水産業、あるいは食品産業、外食産業、土木建築業をも含む幅広い分野が関連した間口の広い総合産業といえます。

人口減少や少子高齢化の進展という状況下にあっては、交流人口の増加により経

済を刺激していくことが、地域活性化の大きな柱となります。観光産業を交流産業ととらえれば、まさにみやぎの総合力を注ぐ必要があります。

このため、各地域の魅力を引き出すべく住民との連携など、「観光王国みやぎ」を実現するために、まず県職員一人一人が「みやぎの営業マン（ウーマン）」、「みやぎの設計者」との意識で行動することを心掛けていきます。

さらに、観光産業へのサポート体制の充実や、現場主義の視点からも、地方振興事務所など地方機関が地域の観光施策に積極的にかかわっていくことが必要です。今後、県自らが観光振興へ本気で取り組んでいく体制を整備していきます。

官民の連携と役割分担

行政の関与は必要なものの、観光や地域活性化の主体はあくまで「民」です。また、各主体が個別に行動するのでは効果が波及しないのも事実です。官民、地域間、観光産業と他産業間等、多様な主体間による連携は、相乗的な効果をもたらすために重要となります。そこで、この計画をより実効性の高いものとするため、県民をはじめ、官民の役割分担をできる限り具体的に示し、各主体がその役割を理解した上で取り組むことを主眼としていきます。

観光（産業）の生み出す経済効果の検証と県民の理解促進

「観光は観光事業者だけのもの」との先入観が依然としてありますが、県民全体が観光の生み出す様々な効果を理解すること、そして、特に経済効果・異文化交流・地域の再発見等の波及効果を検証し、観光による交流人口の増加が、いかに県民の利益となるかを広報・普及する必要があります。

また、次代を担う子どもたちへの教育が特に重要であり、沖縄県や宮崎県など観光産業を基幹産業としている観光先進県では、「観光ってなんだろう」などの観光を題材にした観光教育副読本を作成し、義務教育時点において、「ふるさとを大切にし、訪れた人をもてなす心と態度」を育てることを基盤としつつ、観光、交流人口などの効果や意味を分かりやすく説明するなどの観光教育が行われています。

みやぎが観光王国を目指すためには、観光産業がみやぎを元気にするという県民の共通理解を得ることが必要なことから、そのための施策を展開します。

5 施策展開の方向性

みやぎの観光の振興に際しては、観光事業者だけが担うものでなく、広く県民も主体的にかかわるものとの意識を根底に、「交流と発信によるみやぎの活性化」、「みやぎ各地域の魅力の活用」、「東北の起点としての役割」といった「みやぎの観光に求められる視点と目指す方向」を実現するため、施策展開の方向性を「いざなう」、「もてなす」、「ととのえる」の3つの言葉で表し、迅速に、かつ、相乗的、重層的に施策を展開します。

また、「東北・みやぎ」の独自性や主体性の源である「地域」、「観光資源」、「食」などについて、ブランドとして育成できるよう、大型観光キャンペーンなども活用しながら推進していきます。

こうして、地域を愛しはぐくむ「地域力」や対外的な魅力となる「観光力」を醸成し、さらに東北全体の交流人口の拡大により、結果としてみやぎも潤う「住民はこの地域に住み続けたい 観光客はこの地を訪れたい そしてまた訪れたい さらに住みたい」という姿、すなわち、交流と定住の両立と、観光を核とする産業や地域の活性化を推進します。



みやぎへ「いざなう」観光施策の展開

- みやぎの情報発信・誘客プロジェクト（観光地みやぎへいざなう） -

みやぎへ訪れる人を増やすためには、みやぎがどのような魅力を持つ所であるかを積極的に発信していく必要があります。当地を訪れる人や旅行エージェント・マスコミ等に対して、海・山・温泉・食・歴史や文化・くらし等に関する情報を誘客対象ごとに効果的に発信し、観光地みやぎに人を呼び込みます。

みやぎのイメージづくり

地域が一体となって取り組む姿を示すため、地域の特性を端的に表すイメージを作り上げるとともに、各種メディアやインターネットなどを通じ、きめ細かで、みやぎ特有の情報発信を行います。

特に、「食材」、「温泉」、「歴史・文化」といったみやぎのセールスポイントについて強力に情報発信します。

また、こうした「みやぎならではの」を探求すること自体が旅の目的になるよう提案していきます。

戦略事業

- ・ 関東圏誘客促進事業
- ・ 首都圏県産品販売等拠点施設運営事業
- ・ みやぎのおいしい「食」ブランド化戦略推進事業
- ・ みやぎの水産物トップブランド形成事業

その他ブラン策定期間内に重点的に取り組む事業

- ・ インターネット等を活用した情報提供（宮城県メールマガジン「メルマガ・みやぎ」、グリーン・ツーリズム情報サイト「みやぎまるごとツーリズム」など）
- ・ 県政首都圏ラジオ番組
- ・ 宮城の観光イメージアップ事業（教育旅行誘致）
- ・ みやぎ蔵王三十六景ランクアップ事業（地域産業振興事業）

みやぎの誘客ピンポイント対応

国内宿泊客の誘客活動は、まず東北地方への入込客数の多い関東圏に向け、特に団塊の世代を含めたシニア層を対象に、その生活スタイルや行動・趣向に合った企画を軸とする一方、航空路線就航先の関西・東海等においても実施します。



フルキャストスタジアム宮城

次いで、隣県や県内からの買い物・プロスポーツ観戦などの行動的な日帰り客が近年増加していることから、東北の文化・トレンドの中心としての情報発信や機能向上など、域内流動や地域間交流を促進する施策を展開します。

また、仙台駅や仙台空港・仙台港が集積するなど東北のゲートウェイである宮城県は、東北最大の都市仙台市を始め、コンベンション機能や多くの観光資源を有する求心力を最大限に引き出していくと同時に、東北地域に観光客が増えることが、みやぎの観光客増につながるとの意識を持ち、みやぎを起点として東北全体を視野にとらえた誘客活動を推進します。



東北のゲートウェイ JR 仙台駅

なお、現在、国では「2010年までに1,000万人の訪日外国人誘致」を実現するため、ビジット・ジャパン・キャンペーンを展開中です。加えて、平成19年3月には、仙台空港とJR仙台駅を結ぶ「仙台空港アクセス鉄道」が開通します。そこで、国際的には、経済成長著しい東アジアを重点市場と位置付け、とりわけその発展が進み、かつ、国際航空路線が就航している韓国・中国・台湾などを軸に誘客活動を行うとともに、香港などへのエアポートセールスと一体となって新規観光需要の開拓を進めます。

戦略事業

- ・ 食材王国みやぎ総合推進事業
（「食材王国みやぎ」フェア開催事業）

その他プラン策定期間内に重点的に取り組む事業

- ・ みやぎまるごとフェスティバル開催事業
- ・ 県政首都圏ラジオ番組
- ・ 仙台・やまがた交流連携推進事業等の県際連携
- ・ 外国人観光客誘致促進事業（東アジア）
- ・ 観光客誘致ステップアップ事業（国外の新たな旅行市場の開拓）

イベント・コンベンション の誘致

みやぎの知名度の更なる向上のためには、大学が集積し、政令都市である仙台の都市機能を活用し、イベントやコンベンション の誘致を進め、県民の観光振興に対する意識の変化を促し、官民一体でみやぎの観光振興を連携、協働していきます。

また、都市と自然が程よい距離で存在している利点を活かし、アフターコンベンションの魅力に満ちた特性をPRしていきます。

大会，集会，大型会議など。

戦略事業

- ・ 仙台・宮城DC推進事業

その他プラン策定期間内に重点的に取り組む事業

- ・ フィルムコミッション事業

戦略事業

事業名	関東圏誘客促進事業
趣旨・目的	関東から宮城県へは、地理的に近いばかりでなく、高速道路や新幹線をはじめとする高速交通体系が発達している。今後の当県の観光客数・交流人口を増加させるため、関東圏にターゲットを絞り施策展開し、都市と農村の交流の促進等と併せて、更なる誘客を目指す。
事業内容	<p>関東圏を中心にマスコミや各種メディア、情報コンテンツ、ポスター掲示等を通じ、みやぎの情報を提供するなど、イメージアップを図る。</p> <p>具体的取組例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 首都圏でのみやぎのイメージアップ 宮城県に縁のある著名人を起用した「みやぎをPRするポスター」を作成し、即効性の高いJR線等の車両メディア媒体を活用し掲示するほか、県民の観光に対する意識効用のため、県内の観光関連施設等へ掲示する。 2) 首都圏向けTV放送 首都圏向けのテレビ番組を制作・関東圏で放映し、宮城への更なる誘客を図る。 3) 情報コンテンツの活用(グリーン・ツーリズム) 農山漁村地域でのコミュニティ再生を主目的にしながらも、本県観光の魅力の大きな柱になりつつある、「グリーン・ツーリズム」について、機動性の高い携帯端末を利用した情報発信を実施する。
事業開始年度	プラン計画期間内(新規)
実施主体	県

事業名	首都圏県産品販売等拠点施設運営事業
趣旨・目的	首都圏における本県の観光物産の情報発信と消費動向等のニーズ収集など、情報の相互交流の拠点施設として、東京アンテナショップ「宮城ふるさとプラザ」の運営管理を行うもの。
事業内容	宮城ふるさとプラザ内及びアンテナショップPRのための首都圏での催事物販拡販 物産販売 首都圏における消費者ニーズの把握 市町村，団体，企業等の活動支援 観光情報の提供
事業開始年度	H17年度
実施主体	県・(社)宮城県物産振興協会

東京アンテナショップ「みやぎふるさとプラザ」



事業名	みやぎおいしい「食」ブランド化戦略推進事業
趣旨・目的	<p>本県は「食」に関して、農林水産資源に恵まれる地域であることから、良質な素材を活用した付加価値の高い製品・サービスの開発・事業化を促進し、みやぎおいしい「食」ブランドとして全国へ統一的な推奨等を行うことで食関連産業の振興を図る。</p> <p>加えて、同ブランドを全国に情報発信することにより、優れた県産食材等の知名度を高め、「食」を通して県外からの誘客を図るもの。</p>
事業内容	<p>「食」関連産業振興の一つの方策として本県「食」のブランド化（＝食材・加工食品の特性、優位性を推奨し、買い手側に本県食材等に対する評価・信頼を高めること）を推進する。</p> <p>期間中には「食材王国みやぎ」を旗印に、本県の「食」に関する統一的な基本理念の普及・浸透を推進するほか、県内食産業のブランド化を牽引する産品・商品の発掘、育成、開発推進するほかブランド化を推進する上で重要な事業者・生産者等の意識啓発を行う。</p> <p>また、本県「食文化」を全国に情報発信することで、本県「食」の知名度及び全体イメージの向上を図る。</p>
事業開始年度	プラン計画期間内（新規）
実施主体	県

事業名	みやぎの水産物トップブランド形成事業
趣旨・目的	<p>本県水産物の「高鮮度」、「高品質」などの特徴を活かしたブランド魚の創出や、認知度の向上やサポーターの拡大、消費拡大等の取組を推進し、本県水産物のブランド構築と全国に高い知名度を有する水産物の増加を図る。</p> <p>また、優れた本県水産物の推奨を通じて、県外からの誘客を図るもの。</p>
事業内容	<p>全国有数の水揚げを誇る石巻・塩釜魚市場において、魚市場及び流通関係者が連携し、市場の特徴であり、かつ、潜在的ポテンシャルの高いカツオ（石巻）、マグロ（塩釜）について、高鮮度・高品質なブランド魚を創出し、地元内外に発信し「地域ブランド」の育成を図る。</p> <p>また、本県の主要な養殖水産物を中心に、地元及び首都圏サポーターの拡大、農産物など他産物と連携した消費生活提案等を通じたPR、イベント及びフェアの開催など、パブリシティ効果等も見込めるコマーシャルやマーケティング活動を実施し、本県水産物に対する認知度の向上や消費の拡大を図る。</p>
事業開始年度	H15年度
実施主体	県

事業名	食材王国みやぎ総合推進事業（「食材王国みやぎ」フェア開催事業）
趣旨・目的	東京事務所の人的ネットワーク等を活用し、本県の豊富で優れた食材を首都圏に発信し、「食材王国みやぎ」の確立を図る。
事業内容	首都圏等の有名ホテルにおいて、本県産食材を使用した「食材王国みやぎ」フェアを開催し、ホテルの持つ「高級イメージ」や有名シェフの「料理」という付加価値を付けることによって、本県産食材の特徴を最大限に引き出し、宮城の豊富な食材をPRするとともに、「食」の分野から本県への観光客誘致に寄与するもの。
事業開始年度	H17年度
実施主体	県

事業名	仙台・宮城デスティネーションキャンペーン（DC）推進事業
趣旨・目的	観光産業が地域経済の活性化に寄与する効果は非常に大きく、特に大きな経済効果を生み出す「宿泊観光客」の獲得を目指すとともに、2007年以降の団塊世代退職市場を攻略し、交流人口の拡大を図るため、JRと協力して全国大型観光キャンペーンである「デスティネーションキャンペーン」を実施するもの。さらに、このキャンペーンを契機として各地域が観光につながる資源を磨き上げ、又は発掘し、各産業間が連携した官民が一体となった観光客誘致のための継続的なシステムを構築することを目的とする。
事業内容	<p>交流人口の拡大を図るため、JRグループ6社と協力し、観光客の誘致を目的とした宣伝・広報活動を首都圏を中心とした全国各地において展開するもの。主な内容としては、デスティネーションキャンペーン開催1年前に開催する「全国宣伝販売促進会議」において旅行会社等にキャンペーンでの取組を説明し、商品造成や宮城県への集中的な送客を依頼するものである。また、プレキャンペーンや本番開催時の誘客イベントを通して集中的な誘客を図るとともに、首都圏を中心にキャラバンの実施、各種広告媒体を活用した活動を行うものである。</p> <p>平成20年の開催時期までの間、宣伝活動やイベント等の実施と合わせて、県内各地域において、自治体及び各産業間の連携のもと、官民一体となった観光客誘致のためのシステムを構築するため、観光資源の開発やおもてなし向上対策といった受入態勢の整備を行い、観光の視点による地域振興の推進及び活性化を図るための取組を行う。</p>
事業開始年度	プラン計画期間内（新規）
実施主体	仙台・宮城デスティネーションキャンペーン推進協議会

1 デスティネーションキャンペーンとは？

Destination（目的地・行き先）と Campaign（宣伝）を組み合わせた合成語で、地方自治体や観光関係者等とJR6社が協力して行う全国大型観光キャンペーン

地方自治体や観光関係者等は観光資源の発掘や開発・大規模なイベントを展開するなどの受入態勢整備を行い、JRは開催地を全国に集中的にPRし、全国から開催地への送客を図るものです。

また、このキャンペーンは、地域が観光につながる資源の磨き上げ及び新たな観光資源の開発など民官一体となった観光客の誘致を向上する継続的なシステムを構築し、産業間の連携による地域振興の推進、地域観光の活性化を図る魅力的な観光エリア「みやぎ」を確立する「きっかけ」となるものです。

2 仙台・宮城デスティネーションキャンペーン概要

(1) 開催時期

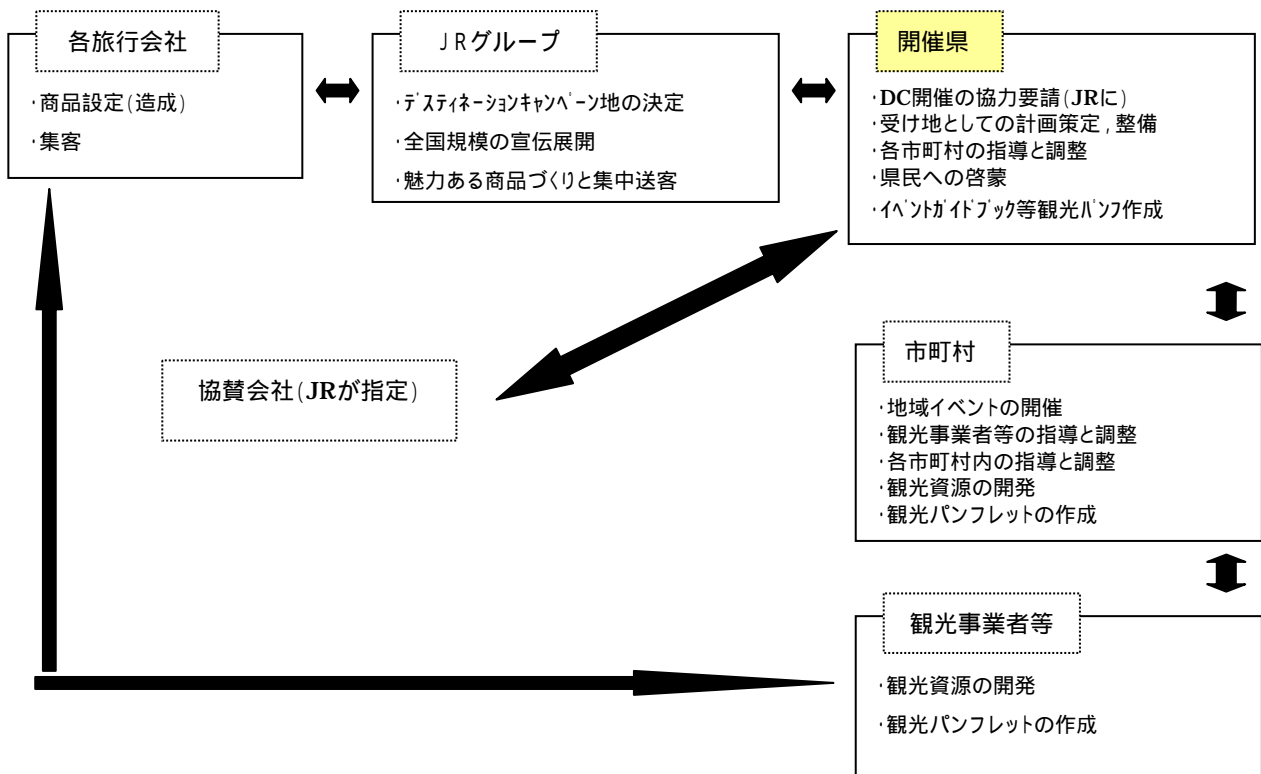
平成20年10月から12月まで(3か月間)

(2) 開催場所

仙台市をはじめとする宮城県内各地及び他県隣接地域

(3) 推進体制

- ・開催県、参画市町村及び観光事業者等が開催推進母体である協議会等を組織し、JRグループ6社と連携の上、全国での集中宣伝、情報の発信を行う。
- ・さらに、各旅行会社と連携し、開催県への集客のための商品設定(造成)を行う。



(4) 期待される効果

観光の視点を活かした地域振興の推進

地域観光の活性化と観光旅客の拡大

地元産業界の活性化

自治体、観光関係業界、農漁業界及び商工業界等との連携と融和

「交流」、「おもてなし」による観光客のリピーター化

みやぎで「もてなす」観光施策の展開

- みやぎの魅力創出プロジェクト（何度も訪れたくなるみやぎのおもてなし） -

みやぎへの観光客を増加させるため、住んでいる地域の魅力を認識し、誇りを持ち、その良さを伝えることができる人材の育成や観光地としての価値を磨き上げ、「地域全体でもてなす観光地づくり」を推進していきます。

みやぎのやさしい人づくり

県民一人一人が、あいさつや笑顔でもてなすなど、身近なホスピタリティ向上のための取組を大型観光キャンペーンに向けて開始し、その定着を図ります。

こうした取組に加えて、地元の旬^{しゅん}な食材等の情報案内や、観光地における環境美化運動、さらには、地元固有の祭りや互市などによるふれあい等による地域でもてなす心をはぐくむ施策を展開します。

なお、本県の観光振興を図るためには、観光は観光事業者だけが行うものではないということを広く周知する必要があります。観光がなぜみやぎにとって大切であるかを理解し、すべての県民が観光を担う人材としてホスピタリティ精神を高めていくことが必要です。

県民のすべてがそうした認識を共有していくために、観光に関する教育を充実し、あわせて、観光の効果、地域とのかかわりなどを県民に伝えていきます。

戦略事業

- ・みやぎ観光ホスピタリティ向上推進事業
- ・外国人観光客安心サポート事業（通訳ガイドの育成、「i」案内所設置等）
- ・みやぎ観光理解啓発事業（観光教育副読本作成・活用等）

その他プラン策定期間内に重点的に取り組む事業

- ・グリーン・ツーリズム促進支援事業

みやぎのやさしい観光地づくり

観光施設の魅力を高めるためには、利便性の向上は必要ですが、他方、「環境に負荷のかからないこと」、「すっきりしていること」、「きれいであること」、「心地よいこと」といった素朴・端正な要素も重要です。

健常者のみならず、高齢者や障害のある人、子ども連れの人などにも気軽にみやぎに訪れていただくことのできるよう配慮した観光地のユニバーサルデザイン化、などやさしい観光地づくりを着実に進めます。

そのため、観光地における施設や、観光地に至るまでの道路や案内板といったサイン・標識の整備、さらには望まれる二次交通アクセスについて重点的に整備・検討を進めるなど、安全安心の視点から取り組んでいきます。

また、二次交通アクセスが確保されていない地域や観光地域内での移動の利便性の向上に関しては、民間等の交通事業者の主体的な取組を誘引し、訪れやすい観光地を目指します。

戦略事業

・仙台・宮城 DC 受入施設整備事業

その他プラン策定期間内に重点的に取り組む事業

- ・宮城の広域観光づくり事業
- ・主要観光地等の案内板
- ・自然公園施設再整備事業（サイン・トイレ等の点検整備）
- ・バリアフリーみやぎ推進事業

障害者・高齢者・健常者の区別なしに、すべての人が使いやすいような製品・建物・環境などのデザインにすること。

みやぎの地域資源向上

みやぎには、多くの観光資源が存在していますが、その活用状況等について把握するため、資源の総点検を行うことが必要です。関東圏，団塊の世代を含めたシニア層，東アジア地域の人々に、「みやぎならではの」の旅を提案するために、自然・

地理にとどまらず，歴史・伝承などストーリー性のあるゾーニング，さらには広域観光ルートの整備を行います。

また，近年の傾向として，観光客は自然と文化の共生といった環境に配慮した持続可能なテーマにも関心が高いことから，第一次産業などとの連携が大切な要素となっています。

そのため，農林業や環境などの体験型・滞在型観光の提案が不可欠であり，その発掘・整備を行うとともに，あわせて，そうした分野から観光産業に参入を目指す方々への支援体制づくりを整備していきます。

戦略事業

- ・ 食材王国みやぎ総合推進事業
（みやぎの外食産業支援事業）
- ・ みやぎ滞在・周遊型観光資源発掘事業
- ・ みやぎの景観形成事業
- ・ 自然環境保全対策事業
- ・ みやぎグリーン・ツーリズム推進協議会活動支援事業

その他プラン策定期間内に重点的に取り組む事業

- ・ 森林空間活用施設整備（キャンプ場・宿泊施設等の整備）
- ・ 観光施設整備資金融資制度
- ・ みやぎビジネスマーケット（ベンチャー・新分野進出への支援）

都市計画や建築プランなどで，空間を用途別に分けて配置すること。

戦略事業

事業名	みやぎ観光ホスピタリティ向上推進事業
趣旨・目的	宮城県を訪れた観光客に対して、おもてなしの心を持って観光案内をする「みやぎ観光コンシェルジュ」を設置し、そのコンシェルジュを中心として観光関係者、さらには一般県民のホスピタリティ向上を図ることにより、観光客の満足度をアップさせ、本県への誘客増加を目的とする。
事業内容	<p>観光コンシェルジュの認定</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光客を快く迎え入れ、宮城県を積極的にPRできる人 地域(観光地)の中心的存在として、ホスピタリティの向上をリードできる人 ホテル・旅館職員、交通機関職員、飲食店職員等、観光客と接する機会の多い人 みやぎの観光「伊達な拾傑」及び市町村、地方振興事務所から推薦された人 <p>観光コンシェルジュの役割</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光コンシェルジュとして自覚を持ち、おもてなしの心を持って観光客に接し、満足度のアップを図る。 地域の中心的存在として、観光関係者の人材育成に努め、地域全体のホスピタリティ向上を図る。 <p>認定した観光コンシェルジュを対象としたセミナーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 心構え、おもてなしの心等をテーマとして開催 <p>おもてなし研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地域の観光コンシェルジュを講師として、観光関係者及び一般県民を対象とした研修会を開催 受講者にガイドブックとステッカーを配布し、おもてなしの心の定着を図る。
事業開始年度	プラン計画期間内(新規)
実施主体	県、宮城県観光連盟

みやぎ観光ホスピタリティ向上推進事業

目的

宮城を訪れた観光客に対して、おもてなしの心を持って観光案内する「みやぎ観光コンシェルジュ(旅先案内人)」を設置し、そのコンシェルジュを中心として観光関係者、さらには一般県民のホスピタリティ向上を図ることにより、観光客の満足度アップ、宮城のほのぼのとしたイメージである「スマイルあったか宮城」の醸成・定着、本県への誘客・県内流動の増加を目的とする。

みやぎ観光コンシェルジュ

要件

- 観光客を快く迎えられる人、宮城県を積極的にPRできる人
- 地域の中心的存在として、ホスピタリティ向上をリードできる人
- ホテル・旅館職員、交通機関職員等、観光客と接する機会の多い人
- みやぎ観光「伊達な拾傑」及び市町村・地方振興事務所から推薦された人

役割

- 観光コンシェルジュとして自覚を持ち、おもてなしの心を持って観光客に接し、満足度のアップを図る。
- 地域の中心的存在として、観光関係者の人材育成に努め、地域全体のホスピタリティ向上を図る。

宮城県観光課

- 観光コンシェルジュの認定(定員50人程度)
- 認定書、バッジ、ガイドブック等を配布
- 観光コンシェルジュ向けセミナーの開催

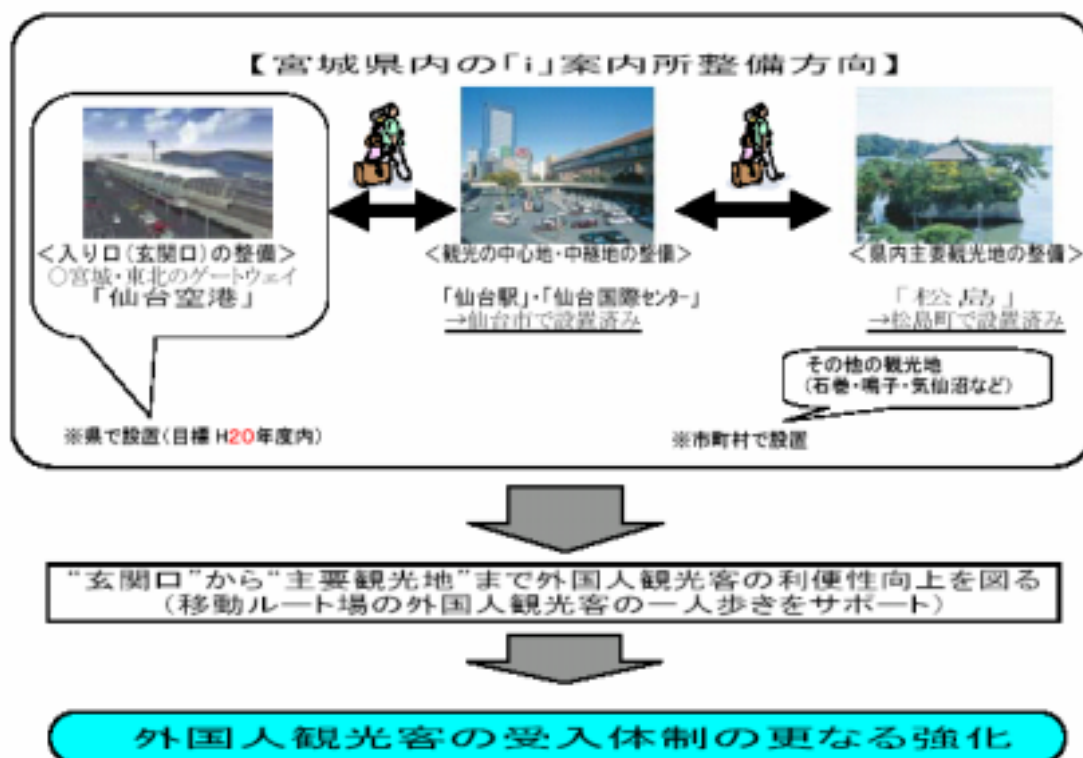
観光関係者

- おもてなし研修会
- 各地域のコンシェルジュを講師として、地域全体のレベルアップを図る。
- ホスピタリティ向上ステッカー
- 研修受講者へ配布し、おもてなしの心の定着を図る。

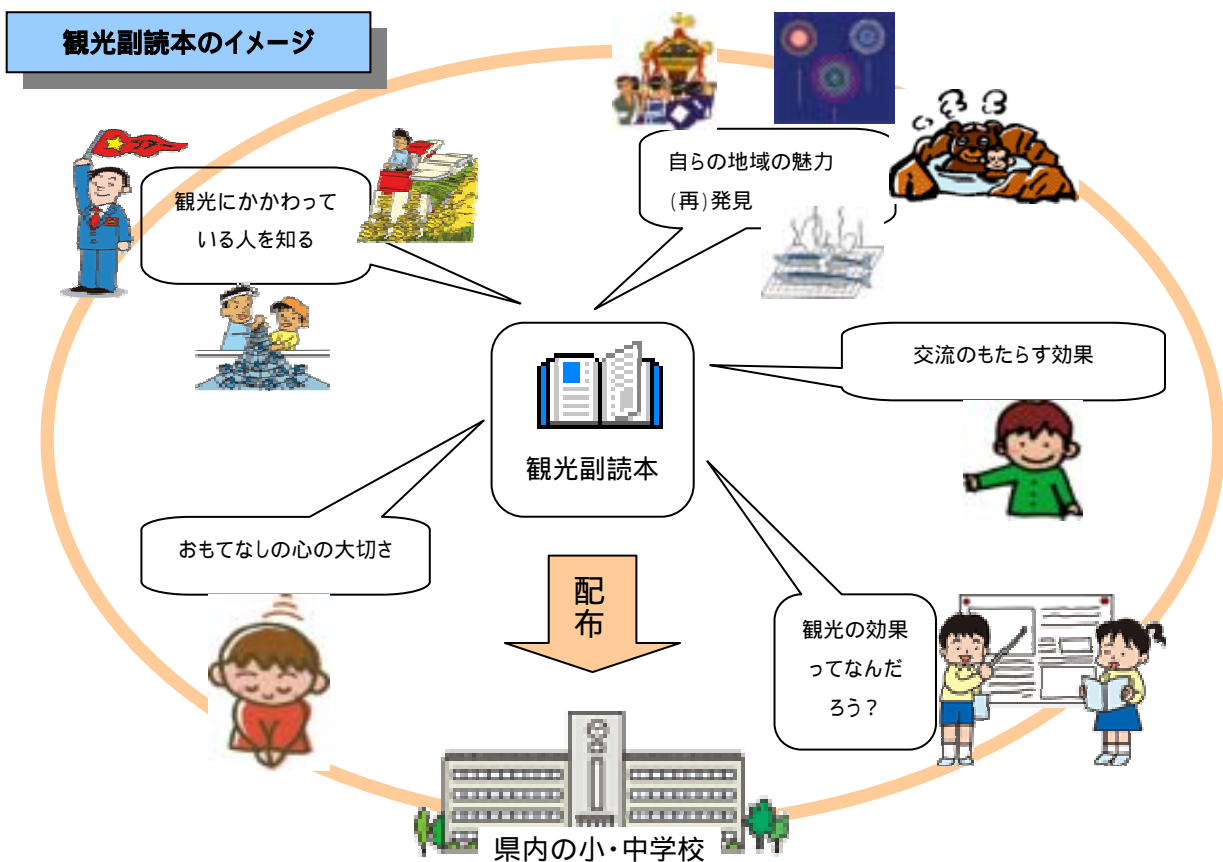
見込まれる効果

- ホスピタリティ向上により、観光客に好印象を与え、リピーターの増加が見込まれる。
- 観光コンシェルジュ及びおもてなしの心の普及をPRすることにより、潜在する観光客の誘客効果が見込まれる。

事業名	外国人観光客安心サポート事業
趣旨・目的	<p>国においては、外国人観光客の大幅な来日促進を図る「ビジット・ジャパン キャンペーン」を展開しており、外国人観光客の誘致が本格化するなか、日本三景の一つ松島、鳴子温泉を始めとする温泉、豊富な食材、さらには七夕祭りなど外国人観光客にとって魅力ある観光地である当県は、対応によっては、大幅な誘客の増加が見込まれる。また、団体旅行から個人旅行へと観光客の行動が変化していく中で、外国人観光客が安心して県内を“ひとり歩き”できるサポート体制の整備も求められている。</p> <p>そのため、外国人観光客の利便性の向上を図り、来県する外国人観光客への対応力のボトムアップ及び強化を図る。</p>
事業内容	<p>「i」案内所整備推進事業（仮称）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台空港ビル「i」案内所設置運営管理：仙台空港ビル（株）と連携の上、東北の玄関口である仙台空港旅客ターミナルビル内に外国人観光客対応が可能な「i」案内所を整備し、外国人観光客の受入体制整備を強化する。 ・ 観光案内「i」アップグレード対応：現在市町村で設置している観光案内所を「i」案内所の指定が受けられるよう働きかけを行う。 <p>宮城県通訳案内士制度整備事業（仮称）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外客誘致法の改正により新たに都道府県単位で実施可能な「地域限定通訳案内士」制度ができたことから、平成19年度は当県の魅力を深く理解し、正しく外国人観光客に魅力を伝え、かつ、満足感を与えることができる本県独自のおもてなしの心を持った宮城県通訳案内士の育成のため、実態調査と準備作業を行う。 <p>外国人観光客受入体制ボトムアップ事業（仮称）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の宮城県独自の通訳案内士が誕生するのは平成20年度以降であるため、それまでの間、外国人観光客に対する地域の人的対応力の底上げと良質な受験人材の育成のために、主な受験者予備群と見込まれる県内の善意通訳者団体の構成員を対象に、各団体から募った研修企画を比較検討の上、より効果が高いと見込まれる研修企画を実施する。
事業開始年度	プラン計画期間内（新規）
実施主体	県



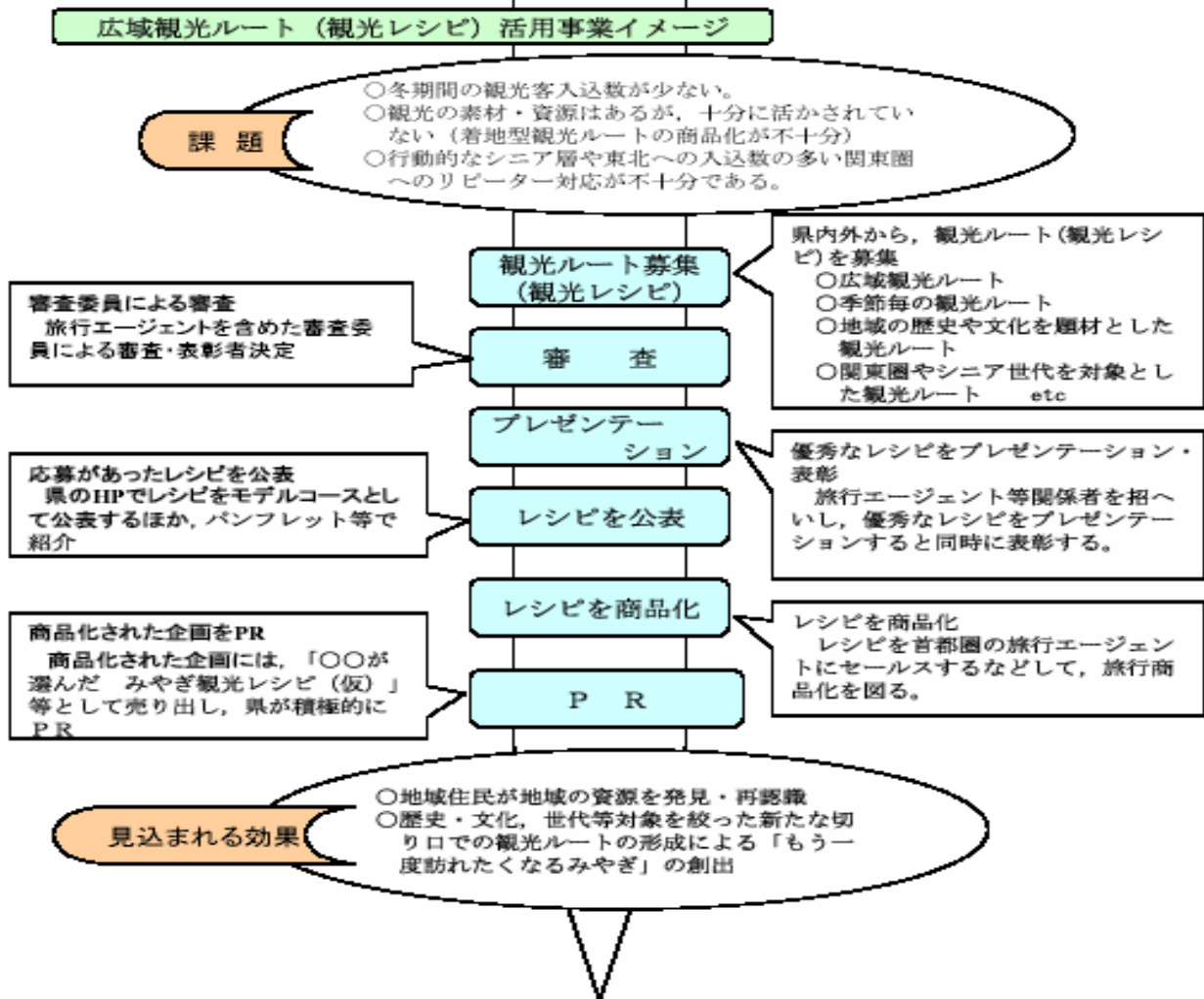
事業名	みやぎ観光理解啓発事業
趣旨・目的	観光事業は、総合産業といわれ、そのもたらす効果は、観光事業者だけのものではなく、農林水産業などへ幅広い波及効果が認められている。また、地域資源の再認識やおもてなしの心を育成することも必要であるが、一般的には、その効果があまり認識されていないことから、教育現場を始めとして広く県民に周知し、県民のホスピタリティの向上を通じ、訪れてよしの観光地づくりを目指す。
事業内容	<p>具体的取組例</p> <p>観光教育副読本作成・配布 幼いころから、ホスピタリティの心を醸成するため、観光がもたらす効果等を記した観光教育副読本を作成し、県内の小中学生に配布する。 副読本には、子どもが興味を示し、かつ、理解しやすいよう漫画キャラクター等を活用する。</p> <p>観光シンポジウム開催 観光の効果を広く県民に理解・啓蒙するため、観光シンポジウムを開催する。 ホームページへの副読本データ掲載（非予算的手法） 観光教育副読本を県のホームページで公開し、小中学生以外への観光事業に係る効果を啓もうする。</p>
事業開始年度	プラン計画期間内（新規）
実施主体	県・県観光連盟



事業名	仙台・宮城DC受入施設整備事業
趣旨・目的	<p>大型観光キャンペーンの開催に向け、県内の自然公園内の主要な観光拠点において、老朽化し安全・快適な利用に支障を来している遊歩道、休憩施設、公衆便所などの再整備を行い、観光地としての魅力の増進を図る。</p> <p>また、周辺に代替施設が整備されたことなどにより利用が減少した施設を撤去し、景観の復元と管理コストの削減を図る。</p>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な利用に配慮した自然公園施設の再整備を行う。 ・誘客サイン，照明施設，案内標識の充実を図る。 ・老朽化した公衆便所の撤去，再整備を行う。
事業開始年度	プラン計画期間内（新規）
実施主体	県

事業名	食材王国みやぎ総合推進事業（みやぎの外食産業支援事業）
趣旨・目的	地産地消を含め、消費者ニーズに応える優良な地元外食事業者を支援することにより、その質の確保と集客力向上を図り、県内の外食産業の振興に資する。
事業内容	<p>メニューの栄養成分や食材の産地表示，ヘルシーメニューの提供，バリアフリーに配慮した食事環境など，満足度の高い食事を提供するための取組を行う飲食店等を「健康づくりサポート・おもてなしの店」として登録し，外食分野において，ゆったりと楽しく食事ができる環境づくりを進めます。</p> <p>（取組内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> 栄養成分表示 食材情報表示（食材産地，栽培情報等） ヘルシーメニュー・オーダー（ヘルシーメニュー，健康的な食生活につながるオーダーへの対応） 禁煙・分煙 バリアフリー
事業開始年度	H17年度
実施主体	県

事業名	みやぎ滞在・周遊型観光資源発掘事業
趣旨・目的	<p>地域内外の視点で県内や東北域内での広域観光ルートや季節ごとの観光ルート、さらには滞在型の観光資源の発掘等、着地型の観光ルートを新たに設定する。</p> <p>地域外の視点を入れることにより、地域住民がこれまで観光資源と認識していない(地域の人にとって当たり前の)資源である「原風景」や「手つかずの自然」等を再認識するとともに、観光ルートを広く広報・商品化するなど、みやぎの滞在・周遊型の新たな観光ルートを開発、PRし誘客を図る。</p> <p>また、宮城県内の観光地等観光資源や農業体験等と協調した宿泊地利用の促進など、滞在・周遊型の観光地みやぎの実現を図る。</p>
事業内容	<p>【具体的事業例】</p> <p>(1) 広域観光ルート(観光レシピ)活用事業 広域観光ルートや季節ごとの観光ルート、地域の歴史や文化を題材とした観光ルート(以下「観光レシピ」という。)等を県内外から公募し、優秀な応募作品を選定・表彰・公表する。 また、旅行エージェントに企画を提示し商品化を図るほか、県が先頭に立って積極的にPRする。</p> <p>(2) 体験・滞在・周遊型観光地づくり 県内の観光地等観光資源や農業体験等と県内温泉旅館ホテル等の利用をセットにした滞在・体験・周遊型の観光地づくりを進める。</p>
事業開始年度	プラン計画期間内(新規)
実施主体	県



事業名	みやぎの景観形成事業
趣旨・目的	自然や歴史的街並みなど個性ある資源を積極的に活かしながら、良好な景観形成に取り組む地域を支援しようとするもの。
事業内容	<p>平成18年度に改訂した(仮称)新・宮城県景観形成指針の普及・啓発に努める。 また、景観法に基づく景観行政団体になろうとする市町村に対し、景観計画づくりへの支援や、景観ポータルサイト開設による各種情報提供(景観アドバイザー等)を行う。 その他、景観形成を進めるに当たっては、行政のみではなく県民全体での取組が必要であるため、シンポジウムの開催により、景観に関する県民意識の高揚を図る。</p> <p>具体的取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観シンポジウムの開催 ・顕彰制度の創設 ・景観百選選定事業 ・景観ポータルサイトの開設 ・景観教育の普及
事業開始年度	プラン計画期間内(新規)
実施主体	県

事業名	自然環境保全対策事業
趣旨・目的	<p>国定公園の中でも原生的な自然が残るなど、特に嚴重に自然景観を維持する必要がある「特別保護地区」、良好な自然環境を有する「蒲生干潟」、世界に誇り得るラムサール条約湿地である「伊豆沼・内沼」において、保全対策事業を実施し、優れた自然景観の保全修復等を図るもの。</p>
事業内容	<p>1) 国定公園保全対策事業 (S5 4 ~ , 実施主体: 県)</p> <p>栗駒国定公園保全対策 栗駒山雪田地域において、高山植生群落の保護復元を図るためのボランティアによる植栽作業や植生復元施設(階段工)の整備を計画的に実施する。</p> <p>南三陸金華山国定公園保全対策 金華山島において、森林群落の復元を図るための防鹿柵の設置を計画的に実施するとともに、島内に生息するニホンジカ等の頭数や植生生育調査を行う。</p> <p>2) 蒲生干潟自然再生推進事業 (H1 4 ~ , 実施主体: 県・蒲生干潟自然再生協議会)</p> <p>蒲生干潟自然再生協議会は、宮城県、仙台市、環境省東北地方環境事務所、日本野鳥の会宮城県支部、蒲生を守る会の5団体が共同で協議会事務局の運営を行っており、平成18年度には「蒲生干潟自然再生全体構想」を策定、今後、同構想に基づく実施計画を各実施者が策定の上、事業を実施する。</p> <p>3) 伊豆沼・内沼環境保全対策事業 (H5 ~ , 実施主体: 県)</p> <p>既存の「伊豆沼・内沼環境保全対策基本計画」を見直し、新たな計画に基づき、水環境の回復や生物多様性の保全に向けた実効ある保全対策事業を実施する。</p> <p>また、自然再生推進法に基づいた伊豆沼・内沼自然再生事業の導入も視野に入れながら、地域住民、専門家、NPO、関係行政機関等の多様な主体の参加と連携による推進体制を整備する。</p>
事業開始年度	継続事業
実施主体	県・蒲生干潟自然再生協議会



栗駒国定公園 (雪田ボランティア植栽作業)



栗駒国定公園 (雪田植生復元対策工事)



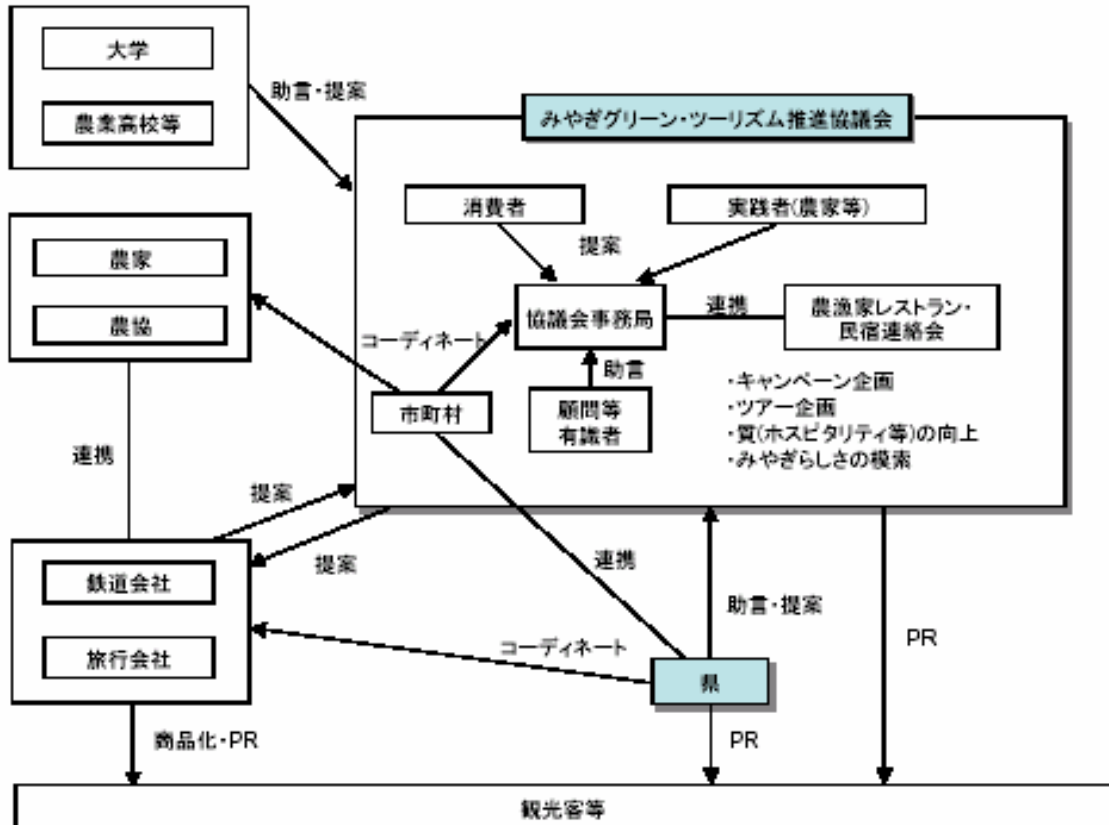
蒲生干潟の天然記念物コクガン



伊豆沼・内沼の落雁風景

事業名	みやぎグリーン・ツーリズム推進協議会活動支援事業 (グリーン・ツーリズム促進支援事業)
趣旨・目的	農山漁村地域活性化の一環として、都市住民が農山漁村地域の持つ景観、食材、伝統文化等を活用した体験・交流を行うグリーン・ツーリズムを一層推進するため、効率的な情報の受発信や啓発・普及などを、実践者、消費者、公共団体、その他関係機関が連携して行える広域的なネットワークを構築し、各分野において個別の取組が多い現状から、実践する側と利用する側両方の視点に立った課題の整理と、組織的な課題解決へと流れを変え質の向上を図るとともに、持続的な農山漁村地域の活性化に必要な自立した取組を実現するため、全県を範囲とする民間推進組織である「みやぎグリーン・ツーリズム推進協議会」の活動を支援するもの。
事業内容	みやぎグリーン・ツーリズム推進協議会が実施する事業を補助するとともに、必要に応じて助言・提案を行い、関係機関（旅行会社、教育研究機関等）との連携による効果が発揮できる事業展開へと導いていく。 推進協議会の目的 ・グリーン・ツーリズムの啓発・普及 ・グリーン・ツーリズムの情報受発信 ・グリーン・ツーリズムの実践化支援 ・都市住民と農山漁村の受入調整
事業開始年度	H17年度
実施主体	県

グリーン・ツーリズム促進支援事業によるグリーン・ツーリズム推進のイメージ



観光王国みやぎを「ととのえる」観光施策の展開

- みやぎの連携・組織づくりプロジェクト(みやぎの連携と組織をととのえる) -

観光王国みやぎの実現を図るため、官民など各主体間の連携の強化や地域力を高めるための県内組織の強化、また、広く東北6県などの広域連携の体系化など観光産業の振興を推進する体制、地域力・観光力を支える組織体制を整えます。

みやぎの地域力向上組織構築

観光王国みやぎづくりを推進するため、大型観光キャンペーンの開催を契機として県組織体制の在り方を点検し、地域や民間の創意工夫を施策に反映させることのできる地域支援のための機関へ転換できるよう体制づくりを進めます。

また、官民が主体的に地域力の向上に取り組み、今後の地域づくりのきっかけ、観光資源を生み出す場として引き継がれるような組織づくりや強化策を行います。

戦略事業

- ・全国大型観光キャンペーン宮城県実施推進本部整備事業（県組織体制の整備）
- ・仙台・宮城デスティネーションキャンペーン（DC）推進事業（地域部会の整備）
- ・みやぎ大型観光キャンペーン推進組織整備事業（観光連盟の強化）

みやぎ東北ぐるっと連携

現在進められている広域連携を観光振興の視点からテーマ、誘客対象、目的等により改めて体系化、再構築して、新たな磨き上げを行い、効果的な仕組みとなるよう進めていきます。

また、多様化する観光ニーズに対応するため、地域実情に即したランドオペレーター機能の充実を図るなど、取り組みやすく、かつ、実効性のある仕組みとしていきます。

戦略事業

- ・みやぎ発東北観光体制整備事業

その他プラン策定期間内に重点的に取り組む事業

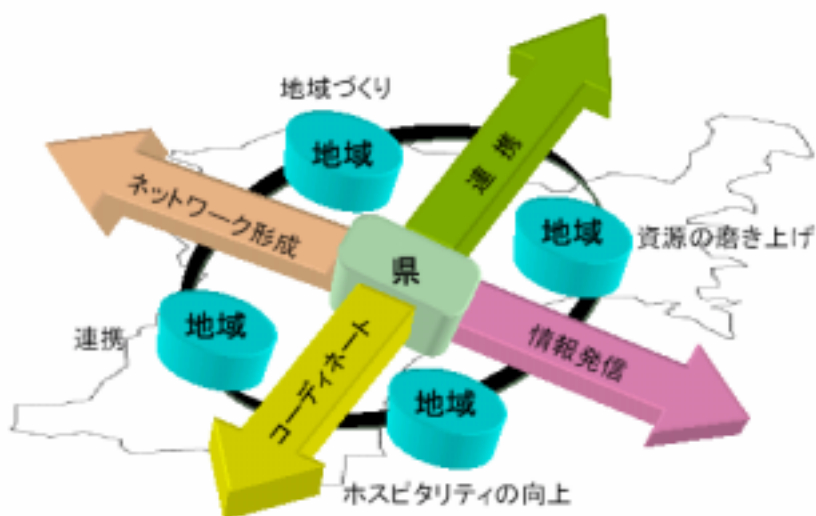
- ・広域連携の推進
- ・各種協議会の統合整理

地域の観光案内やホテルやレストランの手配などを行うこと。

各主体の役割分担

本県の観光力の向上に関しては、観光関連団体・民間事業者・県民・市町村がそれぞれに期待される役割を担い、主体的に行動することが不可欠です。

「観光」を総合産業として持続可能なものとしていくため、各主体がその担い手としての力を十分に発揮し得るよう、各主体間の調整役など県としての役割を着実に果たしていきます。



観光関連団体に期待する役割

観光関連の民間事業者などの接遇，サービスの向上のため，研修制度の充実を図るとともに，関係機関と連携し，観光情報の収集や誘客のためのPR活動を積極的に展開します。

具体的取組例示

- 戦略的観光キャンペーンの展開
- 訪問者のニーズに対応したサービスの提供，情報発信
- サービスの質の向上に寄与する人材の育成と確保
- 観光関連情報の収集と提供，誘客PR活動を実施
- 接遇サービス・ホスピタリティ向上などの研修
- ホスピタリティ産業等に対する助言
- 個々の事業者が連携した事業の展開を推進
- 異なる観光事業者同士や異業種とのネットワークの構築
- 観光振興や地域づくりを進める組織の育成・強化

民間事業者に期待する役割

観光王国みやぎの実現の主要な担い手として、地域資源を積極的に活用するとともに、観光客の方に対するホスピタリティの向上に努め、受入態勢の充実を図ります。

具体的取組例示

従業員教育の充実、ホスピタリティの向上
時代の要請にこたえるメニューづくりや施設整備
新たな魅力づくりのために地域と連携、磨き上げ
他産業との連携など多様なネットワークづくり
地域住民と一体となった地域づくり、まちづくり

県民に期待する役割

一人一人が地域の自然や文化に対する知識と誇りを持ち、また、宮城の観光情報発信の担い手となり、訪れる観光客の方を温かく迎えます。

具体的取組例示

日ごろから訪問者への「こんにちは」などあいさつの実践
花を植える、ごみを拾うなどみやぎの環境美化の実践
観光ボランティアなどの活動への参加
訪問者と地域との積極的な観光交流の促進
地域の自然や歴史・文化遺産の保護保全、伝統行事等の継承への取組
自らがみやぎに誇りを持ち、愛着を感じる魅力ある地域づくりへの自発的参加
NPO、ボランティア間の情報の共有や協力体制の確立

市町村に期待する役割

観光振興方策を樹立し、地域の観光関連団体、観光関連の民間事業者、地域住民と連携するとともに、県内外の隣接市町村と連携し、地域資源を活用しながら、具体的な施策を展開します。

具体的取組例示

地域の特性を活かした魅力ある地域づくりを推進
地域資源の一層の磨き上げなどブラッシュアップの推進
地域内の観光関連情報の収集と提供
県や観光連盟と連携した地域のPRを推進
観光関係者の取組に対する支援や調整
地域住民の観光に対する理解の促進
観光施設にかかわる基盤施設などの整備を推進
県や観光関係団体と連携による民間事業者の支援
地域内外との広域的な連携の推進

県の役割

総合的な観光行政推進の見地から，市町村，観光関連団体，観光関連の民間事業者，地域住民と連携し，また，東北各県などと広域的な連携を図りながら，施策を展開します。

具体的取組例示

- みやぎの観光振興の方向性の提示
- みやぎのイメージ創出と情報発信の推進
- 全県的な観光客の誘致促進や宣伝活動などを連携して展開
- 国や東北各県との連携による広域観光や国際観光の振興
- 観光全般に関する調査・分析や情報の提供
- みやぎの観光交流を担う人材の育成を推進
- 観光施設にかかわる基盤施設などの整備を推進
- 観光産業と異業種の連携の調整
- 市町村や民間の観光関連事業に対する支援や調整
- 関連主体間の広域的な連携の調整，ネットワークづくりの推進

戦 略 事 業

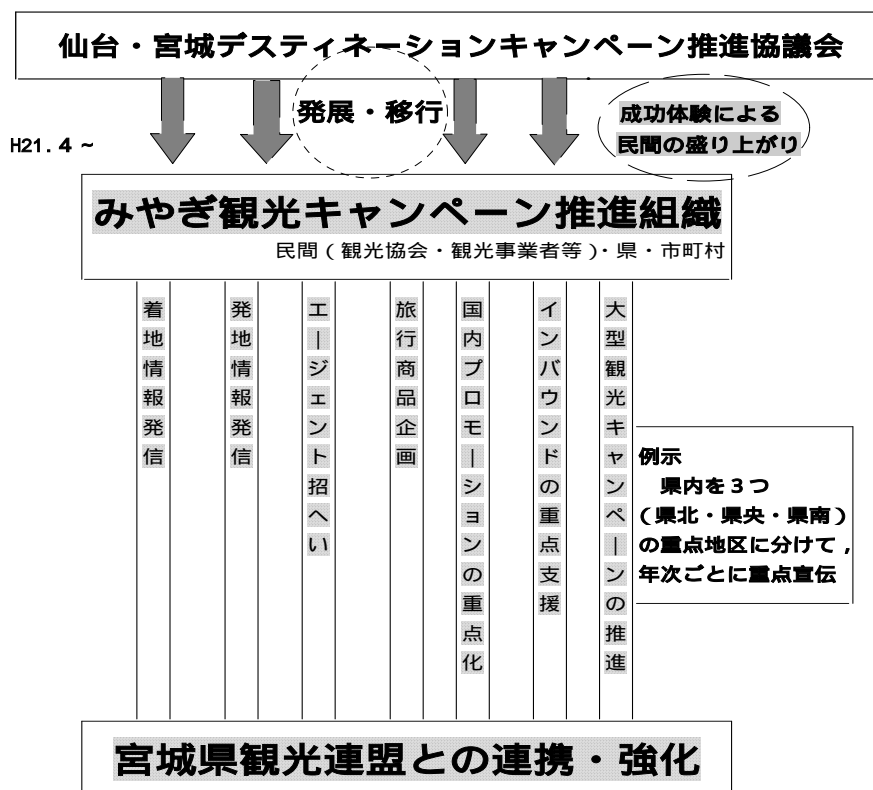
事 業 名	全国大型観光キャンペーン宮城県実施推進本部整備事業
趣 旨 ・ 目 的	平成 20 年の仙台・宮城デスティネーションキャンペーンの中心的役割を担う宮城県が主体的に取り組む各種の事業を円滑に推進するため、庁内組織の体制を強化する。
事 業 内 容	<p>仙台・宮城デスティネーションキャンペーンの実施に当たって宮城県が担うことになる事業の総合調整及び進行管理を行う。</p> <p>仙台・宮城デスティネーションキャンペーン推進協議会との連携の下、各地域の積極的な取組や盛り上げりを助長するための様々な仕掛けや取組を全庁挙げて推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台・宮城デスティネーションキャンペーン宮城県実施推進本部の設置，運営 ・仙台・宮城デスティネーションキャンペーン産業経済部推進部会の設置，運営
事業開始年度	プラン計画期間内（新規）
実 施 主 体	県

事 業 名	仙台・宮城デスティネーションキャンペーン推進事業（再掲）
趣 旨 ・ 目 的	（再掲）
事 業 内 容	<p>（再掲）</p> <p>官民一体となった推進組織を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台・宮城デスティネーションキャンペーン推進協議会の設置，運営 ・仙台・宮城デスティネーションキャンペーン推進協議会地域部会の設置，運営
事業開始年度	プラン計画期間内（新規）
実 施 主 体	仙台・宮城デスティネーションキャンペーン推進協議会

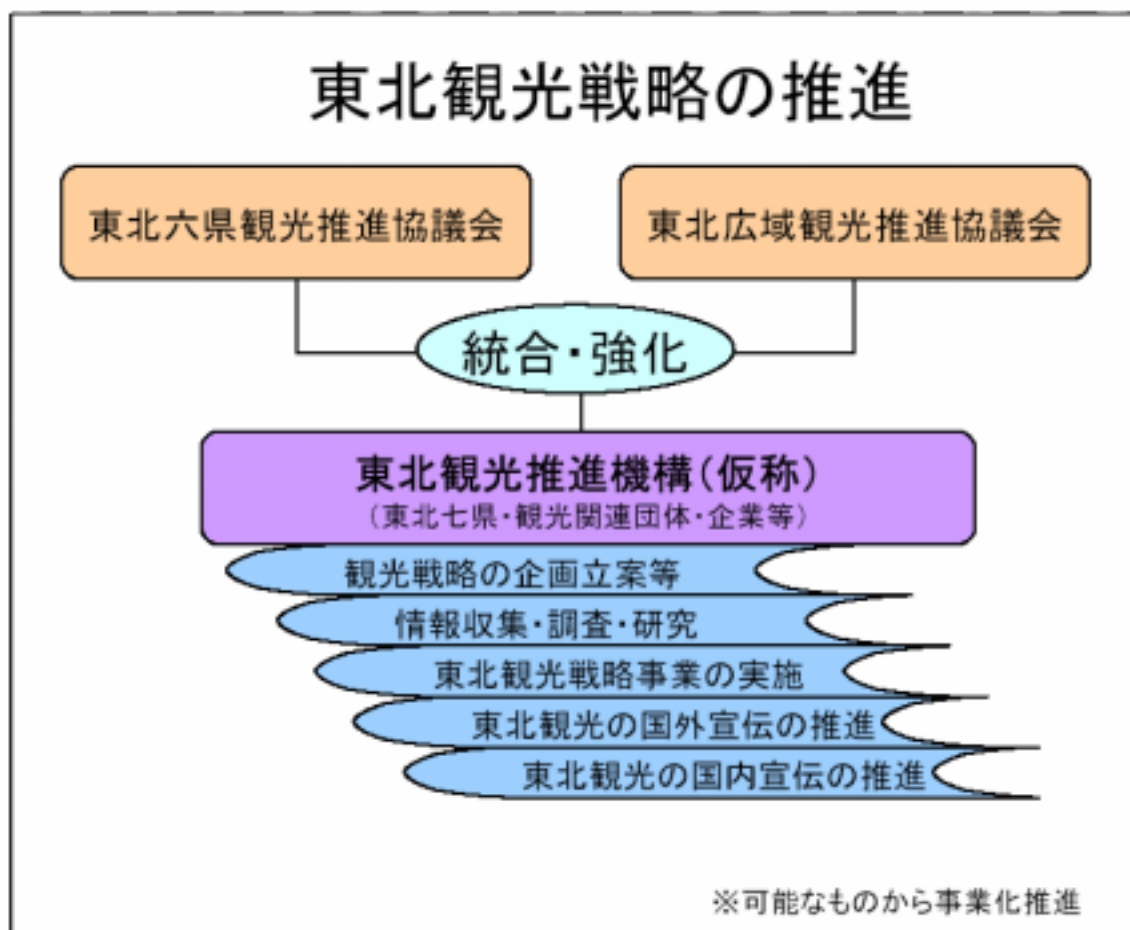
事業名	みやぎ大型観光キャンペーン推進組織整備事業
趣旨・目的	平成20年の仙台・宮城デスティネーションキャンペーンを成功に導き、その成功体験による民間の盛り上げりを発展・移行させて、県内各地域における観光客受入態勢を後年に引き継ぎ、将来的に安定した県内統一の宣伝活動を実施する、ポスト仙台・宮城デスティネーションキャンペーンを担う、官民一体となった推進組織を設置し、機能的なプロモーション活動を行う。
事業内容	<p>県内一円で統一的に大型観光キャンペーンを推進できる組織を設け、宮城県観光連盟との連携・強化を図りながら、宣伝の重点化や旅行商品の企画などを行い、観光客の誘致促進・態勢整備を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大型観光キャンペーンの推進 ・ 国内プロモーション¹の重点化 ・ 旅行商品の企画 ・ インバウンド²の重点支援 ・ 旅行エージェント招へい ・ 県観光連盟との協働
事業開始年度	プラン計画期間内（新規）
実施主体	民間・市町村・県

- 1 誘客のための宣伝
- 2 外国人観光客誘致

ポストデスティネーションキャンペーン（DC）に向けて



事業名	みやぎ発東北観光体制整備事業
趣旨・目的	東北のゲートウェイを有する本県が東北の起点としての役割を果たすことが望まれる。 東北観光を推進する体制づくりを進めるため、官民一体による推進体制の整備と東北観光戦略を展開する。
事業内容	官民一体による推進主体として東北六県観光推進協議会と東北広域観光推進協議会を統合し、東北の観光戦略を展開する実行組織「東北観光推進機構（仮称）」を常設機関として設置し、東北が一体となって効果的・効率的に推進できる事業を東北観光戦略と位置付けて取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・東北観光戦略の企画立案 ・東北観光戦略事業の実施 ・東北観光の国外宣伝の推進 ・東北観光の国内宣伝の推進
事業開始年度	プラン計画期間内（新規）
実施主体	民間・東北7県



6 進行管理

当プランは、その着実な事業化を図るため数値目標等を設定することとしており、これらについて、県の行政評価システムによる評価及び進行管理を実施していきます。また、事業進ちょく状況の判断の過程において有識者・県民の意見を一層取り入れる仕組みを整えていきます。

みやぎ観光戦略プラン推進体制イメージ

プランの推進に向けて

みやぎ観光戦略プランの実効性を高めるため、プロジェクトチームを編成し、戦略事業の実施状況の検証や、広域ルートの商品づくりや観光資源の磨き上げなど地域での取組に継続的に参画して、観光戦略プランの効果を高めていきます。

観光王国みやぎの推進

みやぎが元気に豊かになる富県づくり

何度も訪れたい観光地みやぎづくり

情報発信・誘客プロジェクト

みやぎの魅力創出プロジェクト

連携・組織づくりプロジェクト

みやぎ観光戦略プロジェクトチームによるプランの推進

みやぎ観光戦略プロジェクトチーム

戦略プランプロジェクト(DC推進協議会関係を除く)の検証、広域ルートの商品づくりや観光資源の磨き上げなど地域での取組に継続的に参画・支援

構成：・有識者・観光事業者
・市町村・県

観光戦略プランプロジェクトの進行管理

・特にみやぎの魅力創出プロジェクト実行へ向けた地域参画・支援

- ・観光戦略プランの理念普及啓発
- ・地域の観光戦略への支援
- ・地域連携の強化
- ・広域ルートの開拓支援 等

7 県内の取組事例紹介（コラム）

「一期一会」 ～ おもてなしの心 仙台商工会議所

日本一のスケールを誇る仙台七夕まつりは今年も多くの人で賑わい、仙台の街は豪華な竹飾りでいっぱいになりました。

私の仕事は、パンフレットや観光地図の配布、道案内が中心でした。私は相手の方に失礼のないように心がけました。もし私たちの服装がだらしなかったり、態度が無愛想だったりしたなら、せっかくなってきたお客様が嫌な思いになったり、仙台の街の印象が悪くなってしまったりしてしまいます。仙台にもう一度行ってみたいと思っていただけるように、私は元気でそして笑顔で、小さな子供から高齢者の方までの様々な方と触れ合いました。

そうする事で、自分自身も普段とは違った角度から仙台を見る事ができ、前よりも自分の住む街に興味を抱くようになりました。

仙台の街、そして仙台七夕がたくさんの人に愛され支えられながら歴史を刻んでいき、これからも様々な分野で発展していく事を期待していきたいです。

以上、仙台七夕まつりにボランティアとして協力いただいた高校生の感想です。

仙台七夕まつりには、毎年、県内外から200万人にも上る観光客が訪れるため、市民の方々の他、高校生の皆さんにもボランティアとしてご協力いただいております。

わずか3日間のボランティアではありましたが、最後に書いてもらった感想の中には、貴重な経験や思い、そして私たちが学ぶべきことがたくさん詰まっていました。

このボランティアに参加したのは、「今年は少し違う立場に立ってみるのも面白いかもしれない」と思ったのがきっかけでした。

たくさんの人との触れ合いの中で、私は相手の事を考えて行動する事の大切さを勉強できました。子供に接する時にはきちんと子供の目線に合わせて話す、お年寄りに紹介するお店は、なるべく近くの、あまり歩かないところがいいなど、簡単な事なのですが、とても大切な事だと思えます。

観光客の方の中で、私がとても印象に残っている人がいます。その人は、私にトイレの場所を尋ねてきました。私はそれに答えてあげました。ただそれだけの事だったのですが、その人はわざわざ戻ってきて、「ありがとう。あんた気に入ったからこれやるわ。」と、カエルの木彫りをくれました。ご自分で彫ったものだそうです。この話は去年の話です。私がボランティアに参加するのは今年が2年目なのですが、今年も参加したのは、もしかしたらその人にもう一度会えるかもしれないという思いもあったからでした。その人に会って、一言お礼を言いたかったからでした。ところが、残念ながらその人には会えませんでした。まさに「一期一会」とはこの事だと実感させられました。でも、こんな素敵な体験は、そうは出来る事ではありません。ですから、このボランティアを是非後輩にもしてほしいと思います。



協働による新たな観光資源づくり

宮城県大河原地方振興事務所

仙南の地域資源を魅力あるものとして磨き上げ、仙南地域を訪れる観光客がまた来てみたいと実感できる地域をつくるため、新しい観光資源『みやぎ蔵王三十六景』を平成15年度に創りだしました。みやぎ蔵王三十六景とは、仙南2市7町のそれぞれの場所から風景の中にみやぎ蔵王連峰を望める素晴らしいスポットで、450人の県民の方々から134か所の推薦をいただき、その中から36か所を選定しました。

選定された『みやぎ蔵王三十六景』を普及推進するため、3つの基本理念として「食と観光の連携」、「食と観光の仙南ブランドづくり」、「住民協働」を掲げ、「楽しむ」、「広める」、「そして、「商う」の3本柱を戦略とした展開を図っています。

それぞれの三十六景を地域共有の財産とするため、はじめに取り組んだのは、市町や商工団体、さらには地域の住民の皆さんの協力を得て、仙南の杉間伐材でつくった選定地表示看板を設置し、PRを進めていくことでした。つぎに、シンボルマークを宮城大学生の皆さんとの協働で製作し、その後、三十六景のナビゲートマップを作成し、配布をしました。さらに、人が多く集まる駅など公共施設を利用して、三十六景の写真展を定期的に開催し、選定地のPR活動を行ってきました。

平成17年度からは活動をパワーアップし、市町との連携で情報冊子「みやぎ蔵王36（山麓）物語」を作成しました。この情報冊子は、仙南の体験施設、農産物直売所、温泉施設、温泉効能等の情報を紹介したもので、観光案内所等で配布し誘客を図っています。また、四季折々の三十六景を撮影するボランティアアカメラマンも募集し、撮影された写真を青葉通り地下道ギャラリーなどで写真展として発表しました。この活動は更に拡大し、平成18年春にはこの写真展を仙台駅2階コンコースで開催し、同時に市町や観光関係者、地域団体との協働で観光キャンペーンを開催するに至っています。JRとの連携においても、JR商品「駅長オススメの小さな旅」や「駅からハイキング」の素材として企画提案し、三十六景が旅行商品としても販売されました。この三十六景は観光振興だけでなくとどまらず産業面においても活用が図られ、地場産品のゆうパック販売では特産品観光のイメージが相互に期待されるとして、三十六景の写真やシンボルマークが村田町特産そらまめゆうパック申込書に採用されました。これからのみやぎ蔵王三十六景事業は、それぞれの地域を地域の方々から自分たちの誇り・財産としてその魅力を常に発信し、また各関係団体が観光など各産業において活用されるよう、県や市町が「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」などをとおして多面的に支援すること、人々に広く「みやぎ蔵王三十六景」が知られるようになり、ひいてはその活動が地域の活性化につながるよう展開してまいります。



市民の手で市民の財産を守る

おもてなしの心大改革！
特定非営利活動法人 不忘アザレア 遠藤 一夫氏

経営していた企業が破綻してしまった「白石スキー場」を、市民の要望を受けて白石市が無償譲渡を受けたのが、平成11年1月のことです。市民から親しまれていたスキー場を観光地として、そして地元財産として残したいという市民の強い思いから「運営は市民の手で」という声が上がります。立ち上がったのが「NPO 法人不忘アザレア」でした。当初は、スキー場の管理運営を目的とするNPOが成り立つのか、索道（リフト）の事業免許をNPOが受けられるのか、等々課題は山積。しかし、会員のそして市民の「白石スキー場」への熱い思いから、一つずつ課題を解決し、平成11年12月にNPOの運営するスキー場がオープンしたのです。

オープン当初から、センターハウス内数箇所にアンケート記入所を設置して、お客様から意見をいただくようにしました。いただいた意見は定期的にまず現場責任者が見て、管理事務所、アルバイトを含める全スタッフに回覧した上で、アザレアの中核である理事会へ持って行く。このシステムで、今までの縦に下りてきていた指示では直せなかった営業課題があつさり解消しました。スタッフのほぼ全員がアザレアの会員です。「自分たちが働く場を市民として残したのだ」という思いで経営そのものに関心を持ち、アザレアの体制を監督する立場にもまわっている訳ですから、おのずと意識も変わります。つまり、お客様の生の声には当然敏感に反応することになります。これは、とても大きな改革でした。

白石スキー場は大変小規模なスキー場です。大規模修繕や施設整備は市が行い、常に協議しながら活動していますが、委託料は一切いただいておりません。それもあつて設備投資がほとんどできていないのが現状です。大型スキー場とは違い、大半の業務が手動です。だからこそ、「できない！」ではなく、「それでもできることを！」が大切になります。お客様は支払ったお金に見合うサービスを要求します。NPOだからできないという理論は成立しないのです。さらに、私たちに市民のために市民の力でこのスキー場を残していくという思いもあります。ですから自分たちの思いと市民や利用者の要望を必ずすり合わせて進むようにしてきました。私たちの仕事はスキーシーズンだけではありません。環境を題材とした研究会や学習会、植栽活動、清掃登山など、オフシーズンにも白石蔵王の自然に親しんでもらえる事業を展開しています。同時に、山野草の研究会、清掃登山、星の観察会等、会員のための勉強会も実施し、自分たち自身も常に山を学習しています。



今後は、白石にもたくさんあるNPOやボランティア団体、そして地域の団体や温泉などと連携を図りながら、さまざまなアイデアを取り入れて、団体としてさらに成長し、市民の大切な財産でもある「白石スキー場」を皆に誇れる観光地にしたいと思っています。



旅館、商店、地域住民：垣根を越えた地域づくり

東鳴子ゆめ会議 大沼 伸治氏

かつて伊達藩の御用湯である「御殿湯」が置かれていた東鳴子温泉は、その湯の良さで世に知られ、宮城県内を中心に近隣県からも多くの湯治客を集めていました。しかし高度成長後、主たる客層である第一次産業の構造的不況やバブル後の需要不振、客不足の波は東鳴子温泉にも着実に押し寄せようとしていました。当時、漠然とした不安は誰もが持っていました。しかし、なかなか声を上げる人がいまま東鳴子温泉は深刻な状況に陥るうとしていたのです。

そこで、2002年3月、危機感を抱いた旅館青年部が立ち上がり、観光協会や旅館組合の総会の場で地域づくりの必要性を訴えたのです。

現代の湯治場作りを目指す

まず自分たちが楽しめ、誇りを持てるまちづくりをする

明治43年の大洪水で損壊した「御殿湯」の復活を果たす

その時に掲げたのがこの3つの目標でした。

目標を達成するためには、地域一体となって地域づくりに取り組まなければなりません。そこで、住民組織の東鳴子親交会、旅館組合の東鳴子旅館組合、商店など事業主も属する東鳴子観光協会を合体させた「東鳴子ゆめ会議」が発足したのです。

しかし、旅館、商店、そして住民の間にあつた目に見えない垣根を越え、皆が主体となって地域づくりに取り組むことは容易なことではありませんでした。いろいろの人に相談し、事例を学び、そしてさまざまなジャンルで活躍する人々による応援を得て、少しずつ周りを巻き込みながら一歩一歩前に進んできました。

2004年には昭和27年に開業したJR鳴子御殿湯駅が半世紀ぶりに完全リニューアル。地域づくりに

対する追い風が増したと感じた出来事でした。その後も、アートや音楽などと「湯治」を組み合わせた「GOTEM GOTEM」2005～2006アート湯治祭」をはじめとし、

新たな事業を計画、実施してきました。イベントが話題を呼び、人を呼び、さらに人が人を連れてくる、そんな人と人の交流によって「東鳴子ゆめ会議」は支えられてきたのです。

「東鳴子ゆめ会議」は、やっと走り始めたばかりです。これからは、さらに地域の一体化を推進し、他の温泉地や地域との連携を深め、そして中長期的目標でもある御殿湯復活を実現させたいと考えています。



「イエローアイランド」を目指して ― 資源循環の取組み

特定非営利活動法人 大島大好き 白幡 昇一氏

大島では現在、観光客入込み数の減少を食い止め、交流人口を拡大するための策の一つとして「海型体験の地」を目指して体験学習の受け入れを積極的に進めています。平成11年4月から「大島体験予約センター」を立ち上げ、受け入れ体制の整備、プレゼンを実施してきた結果、今では北海道から南は関東まで数多くの小・中・高校の修学旅行を受け入れ、平成18年度は34校、約400人の子供たちが島を訪れました。

大島には「島の体験館」という施設がないため、島の自然、海の生業が体験学習の重要なフィールドになります。そこで島の財産でもある環境を守っていくため、島という閉鎖的空間の中で資源を循環できる仕組みができないものかと考えたのが「菜の花プロジェクト」の始まりでした。島を菜の花でいっぱいにし、菜種油を採取、それを食油とし、使用後の廃油を再処理して燃料とする。そんな仕組みを考えたいです。

そしてそのプロジェクトを実施するために立ち上げたのが、NPO法人「大島大好き」でした。平成17年4月、会員わずか20人からのスタートでした。しかし、同年6月には廃食油の回収、9月には菜の花の播種、12月にはBDP(軽油代替燃料)プラント導入、精製等。1年もたたぬ間に数多くの取組みを行い、現在は会員110人と5倍にもなっています。さまざまな取組みに積極的に関わってくれる若者の意識の高さには、頭が下がる思いです。

しかし、活動当初は自治体との温度差にかなり戸惑いました。が、地道な取り組みが次第に地元自治体にも浸透し、ついに市所有のディーゼル車に「大島大好き」が精製したBDPが使用されることも決定しました。ようやく私たちの活動が理解された、ということが実感できた出来事でした。

今年5月にも菜の花は見事な花を咲かせてくれました。かつて雑草だらけだった県道の花壇は鮮やかな黄色に彩られ、島を訪れる観光客、そして島民の心も癒してくれました。また、「菜の花プロジェクト」の取り組みは気仙沼市内のみならず、県内でも注目され、多くのマスコミで紹介されるようになりました。大島の自然を守っていくという意識は、今や島の人々にも広まっています。今後は活動を通して、大島を菜の花でいっぱいにし、同時に環境活動と体験学習をリンクさせて環境学習のフィールドとして更なる交流人口の拡大を目指して、もっと、もっと「元氣のある大島」にしたいと考えています。



グリーン・ツーリズムを通じた「都市」と「農家」の交流

加美町グリーン・ツーリズム推進会議 後藤 新平氏

加美町グリーン・ツーリズム推進会議の始まりは、平成15年4月の合併以前、平成8年の小野田町グリーン・ツーリズム推進会議発足に遡ります。小野田町は宮城県北部に位置し、豊かな自然を有する栗葉山を町のシンボルとする。米・畜産の農山村でしたが、人口の過疎化に歯止めがかからず、町はその対策に苦慮していました。そんな時、当時の町長が100万人交流の町づくり政策を考えたのがきっかけでした。町が交流に必要な施設を作り、民がそれらを活用した100万人交流の町づくりを考える、その流れの中で、現在のグリーン・ツーリズム推進会議の前身となるアメニティ推進協議会が立ち上がったのです。

推進会議の主な活動のひとつが仙台近郊の中学生の「体験受入事業」です。元々は旅行会社からの持ち込みで始まり、1軒の農家に4人程度の生徒が泊まり、そのままその農家で農業も生活も体験するという農家民泊がメインでしたが、当初は受け入れてくれる農家も少なく、1軒1軒直接交渉して受け入れてもらったものでした。その受入農家登録数も現在では約40軒、受入農家同士のつながりも強くなってきています。また、中学生の受入も平成14年度の開始から、延べ14校、70人となりました。

「体験受入事業」は、中学生にとっては「地域に根ざした人々の営みを体験することで自分たちの地域を見つめなおし、生きることに、生活することに考える機会にする」、一方受入農家にとっても、「都市の子供たちと接することによって自分たちの地域の良さを再発見し、地域の活性化に結びつける」という直接的な効果がありました。そしてさらに農家と子供たち、地域と地域の交流という波及効果も得られました。現在の仙台・松陵地域、中山地域との交流は、正に体験受入事業の成果であり、同時に農家の中にも、事業を通じて都市の生活や人たちと向き合い、そして地域の活性化につなげていくという意識が高まっています。

約10年前、加美は過疎化に悩んだ地域でした。しかし、今では年間60万人、加美全体でも80万人を超す観光客入込み数があり、経済効果も実証されています。しかし一方、推進会議の組織運営は町の補助金と人的協力によってまかなわれており、ひとり立ちできる見通しはかなり遠いのが現状です。事業内容も営利事業ではなくボランティアの色合いが濃いことも原因といえます。今後は、地域全体が「新たな農業を創造する地域」として立ち上がり、体験民宿の増加や都市農村交流の機会創出など新たなビジネス産業の展開につなげていきたいと考えています。



資 料 編

1) みやぎ観光戦略プラン懇話会委員

青木 昌敏	(社)日本ホテル協会宮城県協議会長
磯田 悠子	みやぎおかみ会会長
太田 稔	JR東日本旅客鉄道(株)仙台支社営業部長
大沼 眞治	宮城県観光誘致協議会長
小野 晋	東北広域観光推進協議会事務局長
恩地 宏	恩地観光戦術研究所代表(前 宮城大学教授)
佐藤 潤	(社)国際観光旅館連盟副会長
志賀 秀一	東北地域環境研究室代表
相馬 政岐	仙台エアラインズアソシエーション会長
高橋 信	日本旅行業協会東北支部長
千葉 久美	(財)仙台観光コンベンション協会常務理事
林 昌利	(社)宮城県バス協会会長
第1回懇話会は、谷田貝 勲(前 宮城県バス協会会長)が出席	
間庭 洋	仙台商工会議所常務理事
宮原 育子	宮城大学事業構想学部助教授
横山 英子	NPO法人キューオーエル理事長
壹岐 雅章	仙台市観光交流課長
橋本 茂善	気仙沼市観光課長
佐藤 忠一	大崎市商工観光課長
伊藤 悦雄	蔵王町農林観光課長
佐藤 幹夫	松島町産業観光課長

懇話会委員の役職等は、平成18年11月16日現在のものです。

2) みやぎ観光戦略プラン策定の経緯

- 1 みやぎ観光戦略プラン懇話会
 - 第1回 平成18年4月13日
【議題】みやぎ観光戦略プラン骨子(案)について
 - 第2回 平成18年6月21日, 22日(2回に分けて開催)
【議題】各行動主体の役割について
 - 第3回 平成18年9月1日
【議題】みやぎ観光戦略プラン(中間案)について
 - 第4回 平成18年11月16日
【議題】みやぎ観光戦略プラン(最終案)について
- 2 パブリックコメント
平成18年10月6日から27日まで実施
61人から86件の意見が寄せられました。
- 3 その他
有識者へのヒアリング(平成18年6月から10月)
庁内調整会議(平成18年6月から11月)

3) みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(県事業)

いざなう

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	担当課等	非予算的手法	長期的視野の事業
みやぎのイメージづくり					
宮城県メールマガジン「メルマガ・みやぎ」	みやぎをよく知ってもらい、本県のイメージアップに寄与するため、毎週1回、メールマガジンを発行。随時、記念号も発行。読者数約4,000(平成18年12月現在)	(1)県内の旬の情報(イベント情報など)を紹介 (2)県内市町村などと連携し、地域情報・観光情報を紹介 (3)県産品など、県にゆかりの品を読者にプレゼント	広報課		
みやぎ夢大使	本県のイメージ向上を図るため、県外に居住する本県にゆかりのある方々に、みやぎの魅力をPRしていただくとともに、提言などをいただく。現在63人に委嘱	(1)本県の魅力・情報等を折りに触れてPR (2)本県に対する意見・提言 (3)県産品の良さの普及・宣伝などの活動をお願いしている。 また、県では活動の支援として(1)PRに必要な名刺・資料等の提供(2)県産品の提供を行っている。	広報課		
みやぎコマーシャルタイム	観光情報など県政情報の発信	フルスタ宮城の観客(年間約90万人)に対し、大型映像装置により毎試合(年約65試合)延べ90秒のPR映像を放映	企画総務課		
携帯端末等情報発信システム運営事業	消費者や観光客との情報発信チャンネルの多様化を図り、観光産業、地域情報、情報関連産業の活性化等を目指す。	携帯端末向けコンテンツ制作	産業経済総務課		
地域産業振興事業(各地方振興事務所が実施する事業によっては「もてなす」、「ととのえる」に該当するものもある)	地方振興事務所において、地域の有するニーズ・シーズを活かしながら、産業振興を中心とした地域振興の横断的・一体的な推進を図るもの。	新商品の開発、県際連携による集客交流の促進等各地方振興事務所が自主的・主体的に企画・実施する事業	産業政策推進室		
富県みやぎの産業応援ネットワーク推進事業	県内及び県外との幅広いネットワークの構築により、官民協働による富県みやぎの有機的な推進体制を整備する。	県内外から様々な形で本県の産業を応援してもらおう「サポーター」を登録し、富県みやぎを推進するための各種産業施策に関する情報を提供するとともに、観光や地場産品、イベントなどの情報発信を促す。また、各分野で活躍している立場からの本県産業への意見・提案をもらい各分野へ反映させる。	産業政策推進室		
好きです!みやぎ通検定事業	幅広い層の個人に宮城県の産品や観光地などに関心を持ってもらい、宮城県のイメージアップと集客交流産業等の地域経済の活性化を図る。	宮城県の歴史、観光地、物産、産業、生活文化など産業関連情報を中心とした知識を測る検定をネットと県内会場で実施するほか、検定認定者の集いを実施し、本県情報の全国への発信、観光来県・県産品購入のきっかけとするなど本県経済の活性化を図る。	産業政策推進室		
みやぎ蔵王三十六景ランクアップ事業(地域産業振興事業)	「みやぎ蔵王三十六景」の魅力を活用した地域産業振興を推進する。	「三十六景を楽しむ」、「三十六景を広める」、「三十六景で商う」の3つを戦略として、地域の特産品の育成、情報の発信、都市との交流等の事業を展開する。	大河原地方振興事務所		
インターネット観光情報提供事業	インターネットを活用した観光情報の提供により、観光客の誘致を図る。	観光データベース(日本語、外国語3か国語)の掲載及びデジタルフォトライブラリーの管理・運営	観光課		
宮城の観光イメージアップ事業	高まった「宮城」の知名度を活かし、本県の観光PRを集中して展開して「宮城」のイメージアップを推進し、本県への観光客等の誘致を促進する。	教育旅行誘致促進 テレビ番組活用宣伝 観光ポスターの作成	観光課		
大型催事における「臨時観光案内所」開設事業	スポーツイベント等会場内に臨時観光案内所を開設し、来客への観光案内を行うとともに、案内を通じてリピーターの確保を図る。	県内で開催される集客力の高いスポーツイベント等の会場内に、手作りの観光案内所を設置運営し、旬の観光情報を直接提供する。	観光課		
ハイウェイコミュニケーションin東北出展事業	宮城県の観光宣伝	NEXCO東日本が開催する事業へのタイアップ出展	観光課		
秋の行楽 みやぎ路誘客大作戦～秋色満載みやぎの観光～	秋から冬に向けての県内への観光客の誘致を図る。	「秋の紅葉」の時期に、東北自動車道の主要なSA内に「秋色満載みやぎの観光案内所」を開設し、職員自らが紅葉スポットの他に温泉をはじめとする多彩な魅力を紹介する。	観光課		
各種観光展等企画事業	首都圏及び県外事務所所在道県等で開催される観光展において、本県の観光資源を紹介宣伝し、観光客の誘致促進を図る。	東北6県観光展 宮城の観光展 夏の海と山観光展 冬の旅・早春の旅観光展	観光課		
観光宣伝広告事業	県内の豊富な観光資源を広く紹介し、観光客の誘致を進める。	観光ポジフィルム等の貸し出し、仙台空港でのコルトン・ポスター掲示、パンフレットの配布を行う。	観光課		
国際観光モデル地区観光施設整備事業	外客誘致法に基づき、栃木県、福島県、山形県及び本県で策定した「外客誘致計画」の実現に向けて、外国人受入体制の整備と外国人観光客誘致のプロモーションを行う。	以下の事業を通じた外国人観光客の受入体制の整備 海外旅行博での県の宣伝、外国語パンフレット作成 栃木・福島・宮城・山形で協議会を構成。海外旅行エージェント等の招請、「i」案内所の職員研修、広域外国語パンフレット作成	観光課		

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(県事業)

いざなう

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	担当課等	非予算的手法	長期的視野の事業
みやぎ誘客ピンポイント対応					
県政首都圏ラジオ番組	首都圏をターゲットとして、観光産業及び食産業等の振興を図る。	本県の観光資源や食材・物産等を、首都圏をターゲットとして広く広報するラジオ番組を制作・放送する(平成19年度実施予定)。	広報課		
みやぎまるごとフェスティバル開催事業	県産品の展示即売等を通じて販路拡大と地域産業の振興及び活性化を図る。	県庁及び市民広場等を会場とする市町村特産品や伝統的工芸品等の展示即売会等を開催する。	食産業・商業振興課		
「東北フェアin上海」観光フェア開催事業	中国経済の中心都市である上海市において、東北六県、仙台市、東北経済産業局、(社)東北経済連合会及び日本貿易振興機構等の関係機関と連携を図りながら、「東北フェアin上海」を開催し、東北六県の持つポテンシャルと発展性をPRすることにより、広域的な経済交流を促進し、地域内企業の販路開拓や観光客の増加、物流の効率化等を図る。	東北六県における企業の事業パートナー発掘、ビジネスチャンスの創出を図る「ビジネスフェア」、東北地域の食材の売り込みを図る「食材フェア」、観光資源やモデルルートをPRする「観光フェア」等を開催する。	国際経済課		
みやぎ蔵王三十六景写真展	「みやぎ蔵王三十六景」の魅力を活用し、観光客を誘致する。	管内や仙台市内等の駅やギャラリーなど様々な施設で写真展を開催する。	大河原地方振興事務所		
みやぎ蔵王三十六景をテーマとした「JR駅からハイキング」、「駅長オススメの小さな旅」	「みやぎ蔵王三十六景」の魅力を活用し、観光客を誘致する。	民間企業、市町、団体等と連携し、ツアーを企画し提案する。	大河原地方振興事務所		
仙台・やまがた交流連携推進事業	仙台都市圏と山形県村山圏の交流連携を推進する。	各種事業の検討及び実施	仙台地方振興事務所		
いわて・みやぎ県際花めぐり紀行への参画(地域産業振興事業)	県境を越えて相互に連携を図りながら情報発信や集客活動に取り組むことにより、地域内外の交流人口の増加と県際地域の振興を図る。	宮城県北、岩手県南に点在する花をテーマにした施設を紹介したパンフレット(スタンプラリーカードとしても使用)を作成し、フォトコンテストの開催、花めぐりホームページによる情報発信等により地域内外の交流人口の増加を図る。	栗原・登米・気仙沼地方振興事務所		
宮城県美術館常設展示・企画展示事業	芸術文化の向上を図るため国内外の優れた美術作品を組織的に展示し、鑑賞の機会を提供する。	美術館所蔵作品によって特色ある企画展示を行う常設展示と特定のテーマに基づいて構成する企画展示(特別展)を実施	生涯学習課		
外国人観光客誘致促進事業	本県への海外からの観光客誘致を図るため、定期便が就航している東アジアを対象に観光誘客促進を図る。	現地での観光説明会等の開催や現地マスコミ及び旅行エージェントを招請並びに外国語パンフレットを整備し、外国人観光客の誘致を促進する。	観光課		
観光客誘致ステップアップ事業	海外から東北への玄関口である仙台空港を有する本県の優位性を活かし、インバウンドにおける新たな旅行市場の開拓を図る。	直行便早期就航に向けて県内で官民挙げて取り組んでいる香港、タイの旅行市場の開拓	観光課		

イベント・コンベンションの誘致					
フィルムコミッション事業	映画・TVドラマ等ロケーション撮影を誘致・支援し、映像を通して宮城の魅力を広く内外に周知し、当地域の知名度向上と映像文化の発展、地域の活性化に寄与することを目的とする。	映画・TVドラマをはじめとする各種映像作品製作のためのロケーション撮影を誘致・支援する。	観光課		
コンベンション都市推進事業	(財)仙台観光コンベンション協会に対し運営費を助成し、仙台コンベンションシティの推進を図る。	仙台観光コンベンション協会事業運営費補助金を交付するなどの活動支援	観光課		

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(県事業)

もてなす

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	担当課等	非予算的手法	長期的視野の事業
みやぎのやさしい人づくり					
森林環境共生育成事業	自然体験や自然観察などの野外活動の指導等を行う森林インストラクターの養成	森林インストラクター養成講座の開催	自然保護課		
地域特産品認証事業 (3Eマーク認証食品)	消費者ニーズの多様化・高度化に対応し、各地域の自主的な取り組みを尊重した地域特産品について公的な認証を行うことにより、消費者に信頼を高める、正確で分かりやすい食品情報の提供に資する。また、差別化商品の創出により、農林水産業及び食品産業の振興を図る。	認証基準策定と認証及び認証事業の普及拡大。 (認証状況：26認証基準[うち23品目で認証]、 認証業者73社[認証業者の延べ数79])	食産業・ 商業振興課		
グリーン・ツーリズム推進活動事業	関係機関との連携のもと、相談窓口の充実や県内各圏域の実情に合わせた研修会等を開催し、推進体制を整備するとともに、起業支援等の資料を作成し、普及・推進を図る。	・相談窓口の整備 ・圏域ごとの研修会開催 ・県庁内推進体制の整備 ・民宿等開業アドバイスブックなど推進資料作成	むらづくり推進課		
グリーン・ツーリズム促進支援事業	市町村が実施するGT活動への助言指導、アドバイザー派遣、民間主導の協議会活動支援により、GT活動の発展に資する。	・モデル市町村等への助言指導 ・アドバイザーの派遣 ・民間主導の協議会の活動支援	むらづくり推進課		
ホスピタリティ向上研修会	観光関係者を始め、住民の来訪者へのホスピタリティを発揮した対応の方法等を向上させる。	研修会の開催(対象者別)	大崎地方振興事務所		
クルーズ船入港歓迎	東北地方の国際海上輸送拠点として、名実ともに仙台港を「人」と「モノ」の交流拠点とするためクルーズ船の誘致を推進する。	国内クルーズ船の寄港については、歓迎訪船し、船長へ花束・記念品の贈呈、乗客へ記念品を贈呈する。 外国クルーズ船の寄港については、船長への花束・記念品贈呈、乗客への記念品贈呈のほか、郷土芸能(すずめ踊り)等で盛大に歓迎する。	港湾課		
観光ボランティアガイド事業	観光ボランティアガイドに関する情報を発信、周知することにより活動の活性化を図る。 観光ボランティアガイドの交流、及び育成	ボランティアガイドの情報をホームページで紹介する。 ボランティアガイドの交流会を開催し、現状や問題点を話し合い、交流を深めることにより、資質の向上を目指す。	観光課		
外国人受入観光客受入体制整備事業	県内の善意通訳者を対象に県内観光地での実施研修を行いながら、観光の知識、通訳の知識を勉強しながら、通訳ガイドとしての資質向上を図る。	年1回善意通訳者研修会開催	観光課		

みやぎのやさしい観光地づくり					
高速自動車道沿線開発プラン策定事業	S A・P A及びその周辺地域を活用した地域振興策の検討	S A・P Aの利用状況、立地特性等の調査を踏まえ、誘導可能な地域振興策を検討する。	地域振興課		
バリアフリーみやぎ推進事業	「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に基づく県民の意識啓発等により、公益的施設のバリアフリー化を図り、バリアフリー観光を促進する。	高齢者や障害者等に配慮した観光施設の整備 福祉のまちづくり普及啓発事業 バリアフリーみやぎ推進ネットの運営 多目的トイレ標識設置事業 条例の整備マニュアル等の普及啓発	地域福祉課		
中小企業金融対策事業	金融機関を通じて、中小企業の成長・発展の支援及び経営を安定させるための資金を融資する。	中小企業産業振興資金及び中小企業経営安定資金等の融資	経営金融課		
災害時外国人サポート・ウェブ	多言語による災害時の情報提供及び防災啓発	宮城県総合防災情報システム(MIDORI)から発せられる災害情報・気象警報等を多言語(日・英・中・韓・ポルトガル)で提供し、言葉の壁により災害時要援護者となりうる外国人県民への情報提供体制の充実を図る。H19.4からの稼働を目指している。 ・地震情報・気象警報等を多言語化し、携帯電話やPCへのメール配信とウェブサイトへの掲載を自動的に行うシステムを運用する。 ・サイト内には、日常生活での防災関連情報や、災害時に役立つ外国語表示シート等を、多言語で掲載する。 本ウェブ機能を外国人を迎え入れるホテル・旅館、観光施設等で利用することにより、外国人観光客等への災害時における情報提供を迅速、的確に行うことが可能となる。	国際政策課		
漁港環境整備事業	漁港の景観の保持、美化を図り、快適にして潤いのある漁港環境を形成する。	漁港環境(植栽、親水施設、遊歩道、駐車場等)の整備	漁港漁場整備課		
三陸縦貫自動車道整備	高速交通体系の整備	桃生登米道路 登米志津川道路 本吉気仙沼道路 唐桑道路	道路課		
常磐自動車道整備	高速交通体系の整備	福島県境～亶理間の整備	道路課		

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(県事業)

もてなす

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	担当課等	非予算的手法	長期的視野の事業
みやぎ東北高速幹線道路	高速交通体系の整備	1期工事	道路課		
津波避難誘導標識設置事業	津波発生時における観光客の避難誘導を円滑にするため、沿岸自治体と連携した避難誘導標識の整備を行う。	松島港及び松島公園において誘導標識の整備を行う。	防災砂防課 港湾課 観光課		
特別史跡多賀城跡附寺跡環境整備事業	多賀城跡の調査研究に基づいて、史跡の保存を図るとともに、親しみやすい歴史公園として活用するための整備を行う。	親しみやすい史跡公園とするため、園路、便益施設、緑化修景、案内板設置等の環境整備を行う。	文化財保護課		
みやぎの広域観光づくり事業費	広域観光案内板の更新・拡充による観光客の利便性の向上	宮城県内の広域観光案内板15基の更新	観光課		
公園施設再整備事業	・特に利用が集中する登山道を整備し、安全を確保 ・登山道の荒廃による自然環境破壊を抑制	・階段、木道などによる登山道の整備 ・案内板、指導標、トイレなどの再整備	観光課		
みやぎ路観光地整備事業(市町村振興総合補助金)	県内観光地における観光施設(博物館施設、駐車場、公衆トイレ、案内板など)の整備の促進を図る。	市町村が行う観光施設の整備に要する経費に対し補助を行う。	観光課		
観光物産展示室管理事業	本県各地の観光情報の収集と案内、パンフレット等の発送等を行い、県内外の観光客へのサービスの提供と県内観光地等への理解と関心を促進する。	観光物産展示室(情報発信センター機能)の運営	観光課		
観光情報案内システム整備事業	観光客に対し、県内各所で観光情報を提供できる体制を整え、ホスピタリティの向上を図る。	時期に応じた観光情報パンフレット、マップ等を作成し、県内の観光情報案内所及びガソリンスタンド等に設置する。	観光課		

みやぎの地域資源向上					
事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	担当課等	非予算的手法	長期的視野の事業
リゾート地域整備推進事業	エコ・リゾート形成マスタープランに基づき、リゾートエリアの魅力づくりを推進する。	市町や団体等が実施する各種取組を支援する。	地域振興課		
離島活性化支援事業	離島振興計画に基づき、離島の活性化を図る。	市町や団体等が実施する各種取組を支援する。	地域振興課		
海藻活用水質浄化事業	海藻を活用した松島湾の水質浄化を図るための調査研究	浄化機能の現場実験、藻場造成のための養殖手法検討等	環境対策課		
みやぎビジネスマーケット(ベンチャー・新分野進出への支援)	観光業を始め、新たなサービス、製品、技術等を基にした事業展開を行うベンチャー企業や新分野進出企業の方々に、多様なビジネスパートナーとの出会いの場を提供し、新たなビジネスチャンスの獲得をサポートする。	・専門家によるプレゼンテーション指導と事業計画のブラッシュアップ ・プレゼンテーション方式のビジネスプラン発表会 ・発表後の個別商談会	新産業振興課 財団法人みやぎ産業振興機構		
コミュニティビジネス経営体育成事業	地域資源を活かした県内農業者のコミュニティビジネスの取組普及啓発、体制整備、経営体育成支援	県及び地域の推進体制整備、コミュニティビジネスの普及啓発、モデル経営体の育成	農業振興課		
地域用水環境整備事業	農業水利施設の整備と地域用水機能の向上	親水景観保全施設整備 利用保全施設整備 生態系保全施設整備	むらづくり推進課		
中山間地域等直接支払交付金事業	中山間地域の多面的機能の維持・増進	多面的機能を確保するための農業生産活動の支援	むらづくり推進課		
農地・水・環境保全向上活動支援事業	農地・農業用水等の資源や農村環境の適切な保全管理と質的な向上	資源保全向上に資する共同活動支援	むらづくり推進課		
リアスの森保全対策事業	県北部沿岸の松くい虫被害による枯損木を除去し、景観の向上と漁業被害の防止を図る。	・枯損木除去	森林整備課		
松くい虫被害等総合対策事業	松くい虫被害を防除し松林を保全する。	・被害木駆除 ・被害予防(薬剤散布等)等	森林整備課		
森林空間活用施設整備事業	「ブナ原生林と輝く湖面とのふれあい」をキャッチフレーズに、長沼・白沼地区を森林浴や自然観察、キャンプ、釣り等の多様な体験ができるように整備し、県内外の利用者に開かれた森林空間として提供する。	宿泊施設、キャンプ場、炊事・トイレ施設、駐車場、給水発電施設の整備	大崎林業振興部		
森と湖に親しむ旬間	県民へ森と湖に親しむ機会を提供することにより、参加者の心身のリフレッシュを図るとともに、森林やダム、河川等の重要性や美しさに対する理解を深めてもらう。	ダム施設見学会等(毎年同じ)	河川課		
路線拡充のための誘致活動(エアポートセールス)	新規路線の開設・休止路線の再開及び既存路線の維持拡充	航空会社や関係機関への要請活動(関係機関と連携して東北の観光資源や交通アクセスなどを総合的にPRする。)	空港対策課		
観光施設整備資金融資制度	ホテル・旅館等の観光施設などの整備資金を融資し、観光事業の振興を目的とする。	県内に住所を有し観光事業を営業者を対象に総事業費の70%以内かつ5千万円以内の低利融資を行う。	観光課		

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(県事業)

ととのえる

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	担当課等	非予算的手法	長期的視野の事業
みやぎの地域力向上組織					
石巻地域観光戦略会議	石巻圏域における観光振興を総合的・効率的に推進する。	・観光振興に係る情報交換、連携の検討 ・2市1町の連携した観光振興の取組の検討	石巻地方振興事務所		
広域観光連携推進事業	石巻・登米圏における広域的な観光振興を推進する。	・広域観光ルートの策定、情報発信 ・観光パンフレットの相互設置 ・物産販売等を活用した交流	石巻地方振興事務所		
広域観光連携推進事業(地域産業振興事業)	石巻及び登米圏において、広域的な観光施策の検討を図る。	広域観光ルートの策定・情報発信 観光パンフレットの相互設置 物産販売等を活用した交流 その他石巻・登米圏の観光促進のための施策	石巻・登米地方振興事務所		

みやぎ東北ぐるっと連携					
仙南・置賜交流促進事業(地域産業振興事業)	山形県置賜地域との広域連携を促進する。	観光パンフレットの交換配置、「おきたまの秋まつり」及び「仙南ふるさと味まつり」の物産展への相互出店、職員及び関係者による交流・意見交換「仙南・置賜観光連携塾」の開催	大河原地方振興事務所		
仙台・やまがた交流連携推進事業(再掲)	仙台都市圏と山形県村山圏の交流連携を推進する。	各種事業の検討及び実施	仙台地方振興事務所		
最上・雄勝・大崎三県連携交流事業	最上・雄勝・大崎の三圏域が連携し仙台圏を中心とした観光客の増加をめざした事業を展開する。	三県合同観光PRの実施 観光マップの作成 パンフレットの相互配置 連携交流事業検討会の開催	大崎地方振興事務所		
栗駒山麓広域連携事業(地域産業振興事業)	岩手・宮城・秋田にまたがる栗駒山。その山麓に湧出する温泉を中心に温泉関係者、市町村及び県等が連携して広域観光事業を展開し、栗駒山麓全体での誘客を図る。	・湯めぐり回廊キャンペーンの開催 ・温泉情報交換会の開催 ・湯めぐり回廊マップの増刷	栗原地方振興事務所		
いわて・みやぎ県際花めぐり紀行への参画(地域産業振興事業)(再掲)	県境を越えて相互に連携を図りながら情報発信や集客活動に取り組むことにより、地域内外の交流人口の増加と県際地域の振興を図る。	宮城東北、岩手県南に点在する花をテーマにした施設を紹介したパンフレット(スタンプラリーカードとしても使用)を作成し、フォトコンテストの開催、花めぐりホームページによる情報発信等により地域内外の交流人口の増加を図る。	登米・栗原・気仙沼地方振興事務所		

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(市町村事業)

いざなう

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	非予算的手法	長期的視野の事業
みやぎのイメージづくり					
国内プロモーション事業	仙台の観光情報の発信、キャンペーン等により、首都圏、中部、関西など全国からの観光客誘客を促進する。	観光キャンペーンのほか、マスコミ・エージェントの招聘、新聞・雑誌への広告宣伝、観光PR素材の充実等の誘客宣伝事業を実施する。	仙台市		
学習体験型観光推進事業	小中学校の教育旅行を中心に、家族旅行や歴史・文化に関心のあるシルバー層のグループ旅行など、様々なタイプのターゲットに対して適切な情報提供を行う一方、体験メニューの開発・充実、関係機関と連携したPR活動を行うことで、交流人口の拡大を図る。	体験メニューの開発・拡充及びPR、修学旅行誘致説明会の開催	仙台市		
海外プロモーション事業	外国人観光客の誘客促進	外国語ホームページの充実や現地での誘客プロモーションを行う。	仙台市		
石巻市観光推進ネットワーク	観光情報の共有化及び相互連携の促進に努め、効率的な観光事業を展開し、もって本市観光事業の推進を図る。	・観光に関する事業の情報交換及び情報発信 ・観光事業のネットワーク化 ・観光施設のネットワーク化 ・誘客の促進	石巻市		
石巻地域みやぎ寿司海道事業	事業の実施に際しては、石巻ブロックの基本方針を策定し、「寿司の街」「いしのまき」の定着に向けた事業を展開する。	「観光施設、漁業関係団体等との連携」「観光客への観光情報の提供」「石巻を象徴する寿司の創出」の3本柱を掲げ寿司の街、石巻の定着に向けた事業を展開する。	石巻市		
教育旅行関係者招待・宣伝事業	教育旅行の誘致推進を図る。	小中学校関係者や教育旅行取扱業者を対象に、気仙沼市の体験学習、教育旅行についてプレゼンテーションを行う。	気仙沼市		
観光ビデオ放映	名取市の紹介・宣伝	仙台空港ビルロビーにおいてビデオ放映	名取市		
観光ビデオ放映	岩沼市の紹介・宣伝	仙台空港ビルロビーにおいてビデオ放映	岩沼市		
観光DVD作製	観光DVDを作製しPR活動を行い誘客を促進する。	観光DVDを作製する。	栗原市		
マスメディア等でのPR活動	マスメディアを通じて情報発信を行ない、観光PRを図る。	マスメディアを通じて情報発信を行なう。	村田町		
JR等でのPR活動	パンフレットを設置してもらいPRを図る。	大河原駅、ホテル等にパンフレットを設置してもらう。	村田町		
観光宣伝事業	マスコミ等へ情報提供を行ない観光PRをする。	新聞、雑誌への無料広告掲載。テレビ、ラジオ等への情報提供	丸森町		
亘理町観光親善大使	本町のイメージアップを図るため、本町にゆかりのある方々を委嘱し、本町の魅力のPRとともに、まちづくりの提言と観光事業の推進に支援する。	魅力、情報等のPR、意見や提言を寄せていただき、また、本町特産品の良さの普及、宣伝(平成17年2月 19人委嘱)	亘理町		
国際観光推進事業	外国人観光客の入込数増加を図る。	外国語パンフレットの提供 ボランティア通訳者支援 外国人向け観光ルートの設定	松島町		
まほろば大使事業	町に関する情報を発信し、広くみやぎ大和をPR、提言することを目的とする。	本町にゆかりのある方々をまほろば大使として委嘱、広く町に関する情報交換等を行う(情報交換会・町広報紙掲載)。	大和町		
南三陸町夢大使	観光や物産品等を含め、全国に南三陸町をPRしていただくことによりイメージアップを図る。	観光や物産品等を含め、全国に南三陸町をPRしていただくことによりイメージアップを図る。	南三陸町		
観光関連ホームページの作成・更新	観光情報をホームページに掲載することで全国にタイムリーな情報提供を図る。	ホームページに観光情報を掲載	各市町村		
観光パンフレット作成業務	観光パンフレットを作成し観光宣伝の充実強化を図る。	観光パンフレットを作成し観光宣伝の充実強化を図る。	関係市町村		
新聞・旅行雑誌等マスメディアを利用した広告宣伝	観光施設・イベントの観光PRにより、観光客の誘客を図る。	新聞・旅行雑誌等を利用した町内観光施設・イベント情報の広告宣伝	関係市町村		

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(市町村事業)

いざなう

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	非予算的手法	長期的視野の事業
みやぎの誘客ピンポイント対応					
広域観光連携推進事業	県内や近隣の自治体との連携により、観光地としての知名度の向上と集客に結び付く共同事業を展開し、広域的な観光ゾーンとしての総合的な魅力の向上を図る。	メディア・旅行エージェントへの誘致セールス等の共同実施や、各自治体が行う各種プロモーション活動への協力。観光ルートの開拓などを実施	仙台市		
観光と物産展の開催	石巻の物産品宣伝及び販路拡張	宮城ふるさとプラザなどで「石巻の観光と物産展」を開催する。	石巻市		
観光と物産展の開催	白石の観光地及び物産品の宣伝及び販路の拡大	姉妹都市である札幌市白石区・登別市・神奈川県海老名市そして仙台駅構内等で「白石の観光と物産展」を開催する。	白石市		
観光開発宣伝事業	角田市の観光宣伝による観光客誘致	観光パンフレットの作成、目黒区民祭りへの参加等によるPR活動、その他	角田市		
エアポートマラソン	健康づくりの実践	選手をコースごとに募集し、レースを実施	岩沼市		
観光と物産展の開催	登米市の物産品宣伝及び販路拡張	宮城ふるさとプラザなどで「登米市の観光と物産展」を開催する。	登米市		
地場産品等PR事業	地場産品等の販売を通じて観光PR及び誘客を図る。	仙台市にある登米物産館で特産品の販売を行う。	登米市		
各種キャンペーン事業	観光キャンペーン事業を行い、地域観光の活性化と県内外からの観光客の誘客を図る。	県と連携し、物産販売や観光PRを行う。	栗原市		
友好姉妹都市交流事業(東京都あきる野市)	姉妹都市との交流を通して観光物産などの販路拡大を進める。	物産品の交流及び現地視察研修会の実施	栗原市		
伊豆沼・内沼ハスまつり	蓮の咲く時期に、遊覧船を運航させ、観光客の増進を図る。	遊覧船の運航	栗原市		
観光宣伝事業	市内外への観光宣伝・情報発信を積極的に展開し、東松島市の知名度及び観光地としてのイメージの向上と定着を図る。	観光誘客キャンペーンの実施 観光パンフレット・ポスターの作成・配付 観光情報誌等への広告掲載 観光案内業務の充実 HPの充実	東松島市		
姉妹都市交流事業	姉妹都市との交流を通して相互理解並びに観光物産などのPRを進める。	姉妹都市「東京都台東区」との市民及び産業交流	大崎市		
地域活性化イベント事業	本町の歴史文化的条件から生み出された地域文化や郷土料理などを通してイベントを開催し、地域間交流を深め農・水・商工業者が一体となって地域活性化を図る。	伊達なわたり生き生きフェスタ(水産まつり、まるごとフェア)の開催	亶理町		
友好都市交流事業(神奈川県大和市)	町のPR及び地場産品の販路拡大	大和市民まつり観光物産展への参加	大和町		
友好都市交流事業(山形県尾花沢市)	町のPR及び地場産品の販路拡大	山形県尾花沢市花笠まつりの参加交流	大和町		
物産振興事業	地場産品等の販売PR及び販路拡大	首都圏及び仙台等物産販売、PR(米まつりIN巣鴨・たいわまるごとフェアIN仙台等の開催及び杉並第三小学校同窓会物販)	大和町・物産振興協会		
地場産品等PR事業	仙台圏や都市部において開催されるイベント等へ参加し、地場産品等の販売を通じて観光PR及び誘客を図る。	仙台圏や都市部で開催されるイベント等への出店・参加	加美町及び地場産品関係業者・団体		
女川のまつり	地場産品の流通促進 交流人口の増加 地域経済の活性化	地場産品をまつりテーマとして、春のまつり、冬のまつりを開催	女川町		
夕市事業	夕市を開催し、地元の食材を安価で提供する。(土産地消)	農林水産物の販売	本吉町		

イベントコンベンションの誘致					
デスティネーションキャンペーン事業	自治体、観光関係者、JR6社との協同による大型観光キャンペーンであるデスティネーションキャンペーンを行い、地域観光の活性化と全国からの観光客の誘客を図る。	平成20年10月からのデスティネーションキャンペーンに向け、宮城県や他の市町村、観光事業者などと連携し、推進母体の設立、キャンペーンの骨格決定、具体的な受入態勢の整備を行う。	DC実行委員会及び各市町村		

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(市町村事業)

もてなす

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	非予算的 手法	長期的視 野の事業
みやぎのやさしい人づくり					
外国人観光客受入環境整備事業	外国人観光客受入体制整備をすることにより、さらに積極的な海外からの観光客誘致を推進する。	外国人観光客が訪れやすく、支障なく移動でき、快適に滞在できる環境をつくるため、多言語案内標識等の整備、外国人向け観光情報の充実、地域受入体制の整備等を実施する。	仙台市		
石巻観光協会助成事業	石巻市観光戦略プラン策定委員会で体制の強化を答申された観光協会の活動を強化し、観光振興の推進体制を構築する。観光関係団体と行政がそれぞれの役割を担い、連携して観光の振興を図る。	観光協会への助成 観光誘客事業 観光ボランティア研修事業の実施	石巻市		
コンシエルジュ事業	市民ひとり一人のホスピタリティを向上させ、満足度アップを図る。	募集、研修、認定制度の創設	気仙沼市		
観光関係団体育成事業	観光事業者の先導的役割を担う団体として観光協会の活動を強化し、民間主導による観光振興の推進体制を構築する。観光関係団体と行政がそれぞれの役割を担い、連携して観光の振興を図る。	観光協会への助成 観光誘客事業のタイアップ スキルアップ研修事業の実施	東松島市		
桜まつり観光ボランティア	桜まつり期間中、JR大河原駅前に臨時観光案内所を設け、観光ボランティアによる案内を行う。	観光ボランティア（国鉄JR職員OB、文化財友の会会員、さくらの会会員）による案内・観光パンフレットの配布	大河原町・大河原町観光物産協会		
思いやりの心で育てる花と緑のまちづくり事業	環境美化運動の展開	公共施設や幹線道路等をプランターや花壇を利用して花苗を植栽し、花いっぱい運動を展開	亘理町		
観光サービス向上人材育成事業	観光客等への接客マナー、サービスの向上を図る。	本町観光産業に携わるものを対象に、サービス向上を図る人材育成のための講習会	亘理町		
国際交流事業	松島町国際交流協会の活動を通して、国際交流の推進を図る。	友好都市との交流や、留学生との交流を通じ国際観光地区の住民としての意識付けを図る。	松島町		
住民観光ガイド育成事業	観光ガイドグループの設立を支援推進していく。	観光ガイドグループの設立を支援推進していく。	松島町		
松島湾リフレッシュ清掃事業	松島を貴重な文化遺産として次世代に引き継ぐために地域住民による清掃を行い、松島湾の再生を目指す。	松島湾沿岸に係る地域住民総参加の下、清掃活動を行う。	七ヶ浜町		
観光客受入体制づくり支援事業	観光客に対する接客マナーの向上を図る。	講習会の開催	女川町		
観光振興アドバイザー派遣事業	地元の資源を有効に活用し、地域の活性化を図るため当事業を実施し、特産品のブランド化・観光客の受入態勢づくりを図る。	南三陸町ブランド塾を開設し、観光関連事業者の育成及び観光客の受入態勢づくりを図る。	南三陸町		

みやぎのやさしい観光地づくり					
作並地区観光振興推進事業	作並地区の温泉や自然など恵まれた地域資源を活かし、地域住民や観光客の交流拠点となる施設を整備する。	交流拠点施設の整備 鳳鳴四十八滝遊歩道等整備	仙台市		
観光シティーバス事業	市内中心部の主要な観光スポットを効率よく巡る観光シティーバス「るーぶる仙台」を運行し、来仙する観光客の利便性の向上を図る。	市内中心部の主要な観光スポットを効率よく巡る観光シティーバス「るーぶる仙台」を運行する。	仙台市		
観光コース開発整備事業	市内観光施設への案内を容易に行うため、計画的に観光案内板の設置を進める。	観光案内版の設置	角田市		
観光案内所設置事業	イベントの開催、観光情報等の発信拠点づくりを行う。	駅前の旧長崎屋の一部を借り観光案内所を設置	多賀城市		
ミニ観光案内所設置事業	本市を訪れた観光客が円滑に観光スポットを周遊できるように案内システムを充実させる。	ガソリンスタンド等での観光案内・観光パンフレットの設置	多賀城市		
観光サインの整備事業	交通アクセスや散策ルート上に観光案内誘導サインを設置し、来訪者の利便を図る。	交通アクセスや散策ルート上に観光案内誘導サインを設置し、来訪者の利便を図る。	多賀城市		
路地裏整備活用	人通りの多い賑やかさを創出	裏路地を活用してのイベントを実施	岩沼市		

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(市町村事業)

もてなす

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	非予算的手法	長期的視野の事業
統一景観の整備	人通りの多い賑やかさを創出	中心市街地の景観を整備するためのルールづくり	岩沼市		
歩道・サイン表示	歩行者の歩行空間等の整備	案内表示板・歩道の整備	岩沼市		
多目的広場ポケットパークの整備	休憩空間の整備	多目的広場等の整備	岩沼市		
岩沼駅前広場整備	市街地の整備改善	駅前広場の整備	岩沼市		
県道岩沼停車場線整備	市街地の整備改善	県道の歩道整備	岩沼市		
くりこま高原駅～栗駒山直通バス運行	観光客の誘致を図るため実施	くりこま高原駅～栗駒山直通バス運行	栗原市		
栗駒山無料シャトルバス運行(紅葉シーズン)	栗駒山登山口付近の交通混雑を解消し、より多くの観光客の誘致を図る。	無料シャトルバスの運行	栗原市		
観光振興事業	市民、観光関連団体・事業者、行政などが、それぞれの役割を担いながら、協働して観光事業を展開できるように仕組みを構築し、一体となって観光振興に取り組めるよう、観光振興施策を整備し、観光によるまちづくりの推進を図る。	観光振興計画の策定 観光アンケートの実施 観光フォーラムの開催	東松島市		
観光イベント支援事業	各観光イベント実施団体が企画実施する観光イベントを支援し、イベントの充実を図る。	イベント補助、支援	東松島市 石巻市		
屋号型看板設置事業	七ヶ宿街道としての歴史的宿場町の再現を目的とする。	屋号を再現及び公共施設の表示を行っている。また、個人世帯の実施については補助制度を設けている。	七ヶ宿町		
豪農の館整備事業	豪農の館整備	豪農の館整備	村田町		
やましょう記念館整備事業	やましょう記念館整備	やましょう記念館整備	村田町		
観光三昧推進事業	本町特産のいちご、潮干狩り、温泉入浴及び四季折々の特産物を生かした郷土料理を提供し、観光リピーター増加を図る。	観光三昧クーポン券等の発行及び宣伝	亶理町		
国民保養センター改築事業	高速自動車道、鳥の海周辺環境整備事業等により観光客の増加が見込まれ、サービスの向上と満足度とグレードアップの施設を改築する。	国民保養センター建設	亶理町		
寺町整備事業	瑞巖寺周辺地域の環境整備事業を図る。	瑞巖寺周辺地域を寺町としてふさわしい道路及び沿道空間の整備	松島町		
歩いて楽しい街整備事業(ウォーキングトレイル)	観光名所を巡るコースの整備を図る。	モデルコースの設定 説明・案内板の設置 ガイドの育成	松島町		
駅舎建設推進事業	JR仙石線松島海岸駅東北本線相互乗入駅舎建設	JR仙石線松島海岸駅東北本線相互乗入駅舎建設	松島町		
観光案内板改修	町内観光案内版を整備し、観光客の利便性向上を図る。	町内に設置された観光案内版の内容について改修を行う。	七ヶ浜町		
万葉の里・おおひら定住促進事業	産業振興を図る施設等の整備	地場産品販売所の整備	大衡村		
愛宕山公園(ジャクヤク園・あじさい園)環境整備	愛宕山公園(ジャクヤク・あじさい園)の環境整備	ジャクヤク・あじさいによる観光資源の確保	色麻町		
観光案内所設置事業	観光情報の提供	観光案内、パンフレット配布	女川町		
海水浴場環境整備事業	観光客の誘客	海水浴場の環境整備、開設	関係市町村		
遊歩道・登山道等の整備	安全確保を図る。	維持管理	関係市町村		

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組み主な事業(市町村事業)

もてなす

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	非予算的 手法	長期的視 野の事業
みやぎの地域資源向上					
沢端川清掃作業	当市の象徴でもある白石城の掘り割り、特に沢端川の清流を市民との協働で清掃していくことで、市民一人一人の美化意識と観光客へのイメージ向上を目指す。	商工会議所との共催で、清掃ボランティアを募り年2回(春・秋)実施する。	白石市		
田舎暮らし体験ツアー	農業体験や地場産品などを通じて、当市の魅力を知ってもらい、交流・定住人口の拡大を図る。	首都圏及び仙台圏の方を対象に、当市の地場産品である酪農・稲作等の体験と散策(毎年10家族30人を予定)	白石市		
白石藩倶楽部事業	U I J ターン支援情報サービスの一環として本市の魅力をもPRするため地場産品を頒布する。また、本事業を通じて、関心のある方とのネットワークを構築し交流人口増を目指す。	会員を募り、特典として地場産品のセット販売と観光PR・クーポンの発行をする。	白石市		
多賀城ぐるり満喫ルート(仮称)の整備	歴史文化等の地域資源を活用した観光散策ルートを設定する。	歴史文化等の地域資源を活用した観光散策ルートを設定する。	多賀城市		
食育・健康フェア	食事を通じての健康づくり	地産地消による料理コンテスト等の実施	岩沼市		
伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン	伊豆沼・内沼の環境美化活動による資源保持	伊豆沼・内沼の清掃活動	栗原市		
白石川堤桜樹(一目千本桜)保護	宮城県を代表する桜の名所「白石川堤一目千本桜」の保護・環境整備を図る。	害虫「アメリカシロヒトリ」の駆除 テングス病枝や枯枝の伐採 栄養剤の注入・施肥 その他白石川や駅前の一斉清掃	大河原町・大河原町観光物産協会		
田園空間博物館事業	山元町の大地から空までを博物館としてとらえようとする取組 わが町の主要産業である農業をテーマとした歴史や文化を「収集・保存」「調査・研究」「展示・活用」することにより保存・復元し、次世代へ伝えていくとともに、昔の農家の自給自足の暮らしで培われた知恵や技を現在に生かし、地域振興を図る。	ワークショップ、施設活用活動、集落検討会 わが町の農業の歴史・文化に係る「収集・保存」「調査・研究」「展示・活用」する田園空間博物館活動	山元町・野外ぐるりん友の会		
山元町地域産業振興協議会事業	山元町・商工会・漁協・農協が一体となり、山元町の豊かな自然から生まれる地場産品の販路拡大を図るとともに、地域産業の活性化を推進する。	ホッキ漁の最盛期である2月下旬に『やまもとホッキ祭り』を開催し、本町特産のホッキ貝を中心とした地場産品のPR・販路拡大を図るとともに、町内商工業者の活性化と地域振興を図る。	山元町・巨理山元商工会・山元町漁協・みやぎ巨理農協		
文化・芸術振興事業	住民が芸術・文化に親しむ機会の提供と併せて観光客誘致にも役立てる。	アートフル松島全国絵画公募展 松島芭蕉祭並びに全国俳句大会 松島園遊茶会の開催	松島町		
体験型観光推進事業	体験型観光メニューの充実を図る。	松島とっておき体験くらぶの育成、支援	松島町		
新商品開発事業	松島における土産品開発及び名物料理の開発	四季彩食松島推進協議会、松島地産地消推進協議会の支援	松島町		
特別名勝「松島」の保護事業	景観保護の推進	松喰い虫対策事業 石こく再生事業 「石こく」：ラン科の植物	松島町		
利府町観光ワークショップ事業	利府町内の様々な魅力ある地域資源を有効的に活用し観光客へのもてなしの心を持ってお迎えするため、体験観光を中心とした事業展開を図るもの。	・体験観光のメニュー化 ・体験観光事業の実施	利府町		
大和町優良地場産品推奨事業	特産品等を推奨することで、ブランド化を推進しPRを図るもの。	町の特産品を推奨品として認定し、「大和町の優良地場産品」としてPR等を行うもの。	大和町		
地場産品の振興	酒米蔵の華の大衡村で生産農家の育成	大衡村産の酒米蔵の華で醸造した万葉美人(吟醸・純米・濁り)でおおひらの観光をPR	大衡村		
観光モデルコース作成	広域のパンフレットとともに広域のモデル観光ルートを作成し誘客を図る。	自然・歴史・食などのコースを設定し誘客の体制を整備する。	未来都市づくり研究会 大衡村		
稚魚放流事業	町内を流れる鳴瀬川水系の水産資源確保と自然環境保全及び観光地域資源定着化を目的に実施する。	町内数箇所にアユ、イwana、ヤマメの稚魚を放流	加美町		

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(市町村事業)

もてなす

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	非予算的手法	長期的視野の事業
グリーンツーリズム推進事業	地域資源を生かした都市・農村体験交流を推進することにより地域の活性化を図る。	グリーンツーリズム実践のためのネットワークを構築し、農村体験ができる仕組みを作る。	美里町		
JR旅のプレゼント	身障者と健常者が交流し、JRの旅と地引き網体験を通して楽しむことを目的とする。	身障施設に通う子供たちの地引き網体験	本吉町		
乳製品加工体験事業	地場産業を活用した体験型観光の推進	ミルクハート館を活用したアイスクリーム等の加工体験	本吉町		
特産作物振興事業 (薬用人参、ブルーベリー)	本町の特産品として確立し、遊休農地の解消、所得の向上及び体験型農業の観光化を目指す。	薬用人参の作付、ブルーベリーの摘み取り体験	本吉町		
グリーンツーリズム推進事業	消費者と生産者の交流を図る。	農業・自然体験学習の受入態勢づくり	南三陸町		
体験観光事業	漁業等の体験観光の確立により観光客の誘客を図る。	漁業事業者と民宿等の連携強化による受入態勢づくり	南三陸町		
体験型観光受入体制整備事業	体験型観光の受入体制を整備することにより、交流型産業の振興を図る。	地域の体験・料理・芸能等を再発掘し、併せて体験インストラクターや観光ガイド等の人材育成を実施し、体験型観光の受入体制を整備する。	南三陸町		

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(市町村事業)

ととのえる

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	非予算的手法	長期的視野の事業
みやぎの地域力向上組織					
広域観光連携推進事業	広域での観光連携によりエリア内での魅力を高め誘客促進を図る。	DCの推進	松島町		
みやぎ三陸黄金海道観光推進事業	広域連携による観光客誘致促進	誘致宣伝事業 ポスター、パンフレットの作成	関係市町		
宮城おとぎ街道観光客誘致協議会事業	広域的に観光宣伝をすることで、情報発信を促進する。	宮城おとぎ街道観光客誘致協議会事業を通じての広報を行う。	関係市町		
大崎、栗原、登米地域観光推進協議会事業 (ろまん街道)	地域の豊富な観光資源を広く紹介宣伝し、観光客の誘致促進を図り、地域の活性化に努める。	観光ガイドブックの作成	関係市町		

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(民間等事業)

いざなう

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	関係機関等	長期的視野の事業
みやぎまるごとツーリズム	宮城県内のグリーン・ツーリズムに関する情報の発信と、都市と農山漁村をつなぐことを主な目的としたホームページを運営する。	グリーン・ツーリズムや農林漁家レストラン等の紹介	みやぎグリーン・ツーリズム推進協議会	むらづくり推進課	
みやぎ寿司海道塩竈地域推進協議会支援事業	日本一の寿司の街塩竈をPRし、観光客の誘致により、塩竈地域の活性化を図ることを目的に活動を行っているみやぎ寿司海道塩竈地域推進連絡協議会が行う事業を支援する。	塩竈の寿司店への誘客、情報発信への支援	みやぎ寿司海道塩竈地域推進連絡協議会	仙台地方振興事務所	
みやぎ寿司海道推進連絡協議会支援事業	塩竈、石巻、気仙沼地域をエリアとする南三陸の寿司店を全国に情報発信し、観光客の誘致による地域活性化を目的に活動を行っているみやぎ寿司海道推進連絡協議会が行う事業を支援する。	みやぎ寿司海道の情報発信への支援	みやぎ寿司海道推進連絡協議会	仙台地方振興事務所	
貞山運河フェスティバル	宮城県と地域の発展の基礎となった貞山運河について各種催しを通じ、運河の歴史や河川に親しみ、河川に対する理解と関心をより深めることにより、自然や河川への愛護の普及を図るもの。	貞山運河の水紀行、カヌー体験、運河の歴史などの講話や地元団体等による各種イベントを実施する(毎年、名取市と岩沼市とで交互に開催)。	貞山運河フェスティバル	河川課 名取市・岩沼市	
仙台空港国際化利用促進協議会事業	多様な交流を支えている仙台空港の更なる機能向上を目指して、仙台空港の航空路線の安定化と拡充、新規路線の開設を図ることを目的とする。	仙台空港の利用促進を図るための各種事業(各種PR媒体を用いた需要喚起、航空会社への要請、旅行商品告知費助成、インターネットポータルサイトの運営・更新等)を実施する。	仙台空港国際化利用促進協議会	空港対策課	
みやぎ観光サポータークラブ推進事業	関東圏に宮城の観光情報を発信するため、サポータークラブを立ち上げる。	みやぎ女将が県内に勤務経験のある関東圏のみやぎにゆかりのある経済人を「みやぎ観光サポーター」として取り込み、観光情報の発信を推進する。	女将会・観光連盟	観光課	
情報発信資料の整備	県内外の旅行会社やマスコミへの情報発信及び一般旅行者に対するPRに努めるため、各種資料を整備する。	観光ガイドブックの作成 季刊観光情報誌の作成 観光マップの作成	(社)宮城県観光連盟	観光課	
ホームページ(PC用・携帯用)の運営	各種情報を広く紹介するためホームページ「宮城まるごと探訪」の運営に努める。	観光掲示板「みやぎ観光PR応援隊 カキコミ情報」システム 各種宣伝資料等のデジタル化 各サイト・情報の作成更新	(社)宮城県観光連盟	観光課	
各種情報の収集・提供	地域の取組等、観光に関する各種データ・資料を会員等の協力により収集し、観光資料やインターネット等で広く情報を提供する。	観光資料の定期的な提供(提供先約950施設、マスコミ・旅行会社約430か所) 日本観光への情報提供	(社)宮城県観光連盟	観光課	
観光客の誘致促進	主に県外からの観光客の誘致促進を図るため、社会情勢や観光動向をとらえながら、旅行会社、マスコミと連携し効果的な事業展開に努める。	マスコミタイアップ 体験・交流型観光の推進(体験みやぎの情報整備) 地域料理メニューの発掘(味コレクションの情報整備)	(社)宮城県観光連盟	観光課	
海外宣伝事業	国際観光テーマ地区会員地域への外客誘致を図るため、他の団体等との連携を図りながら、韓国、台湾その他のアジア地域からの観光客誘致に向けた事業を行う。	観光セミナー、旅行博等への職員派遣 旅行AGT、マスコミ等の招請事業	宮城県国際観光テーマ地区推進協議会	観光課	
宣伝ツール作成事業	国際観光テーマ地区会員地域への外客誘致を図るため、誘客宣伝用パンフレットを作成する。	「Welcome to Miyagi Japan」の印刷	宮城県国際観光テーマ地区推進協議会	観光課	
観光情報発信事業	せんだい・宮城フィルムコミッションの映像制作誘致活動やホームページによる情報提供活動を通じ、宮城県・仙台市・松島町の魅力を発信していく。	宮城県・仙台市・松島町の口ケ地情報の提供、関係機関との調整などの支援を行うとともに、映像制作の誘致等を実施・宣伝し、誘客を図る。	せんだい・宮城フィルムコミッション	仙台市	
仙台旅日和運営支援事業	魅力的な観光情報を簡単に入手できるWEBサイトを運営することにより、仙台への興味喚起を促し、新たな観光需要の創出、集客拡大を図る。	観光情報HP「仙台旅日和」の運営を支援し、多角的視点による集客資源の情報発信を行う。	仙台観光コンベンション協会	仙台市	
物産と観光展の開催	仙台の物産品宣伝及び販路拡張	川崎市・横須賀市などで「仙台の観光と物産展」を開催する。また、市内において工芸展を開催する。	仙台市、仙台観光コンベンション協会	仙台市	

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(民間等事業)

いざなう

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	関係機関等	長期的視野の事業
エアポートセールス	仙台空港のPRを行い、観光客を含めた仙台空港利用者の増加を図る。	仙台空港国際化利用促進協議会の会員として、航空会社等に対し仙台空港のセールスを行う。	仙台空港国際化利用促進協議会	仙台市	
航空路就航都市での観光キャンペーン	仙台市の観光PRを行い、誘客推進を図る。	仙台空港国際化利用促進協議会の会員として、各就航都市で仙台市の観光PRを行う。	仙台空港国際化利用促進協議会	仙台市	
石巻新名物料理普及促進事業	石巻地域の新しい名物料理に定着させる。	商品の開発研究・販売方策の検討や、地域内外に広く紹介するためにイベント等を実施する。	県・商工会議所	石巻市	
おいしおがま「食べ歩き」事業	食を通じて、「心とこころのふれあい」・「人と街のふれあい」の中から、塩竈の魅力を再発見し、同時に商店街の活性化を図る。	食べ歩きイベントの実施	塩釜市青年四団体連絡協議会	塩竈市	
気仙沼映画祭	気仙沼市が題材の映画を放映することにより全国圏での観光客へのPR及び観光客の誘客を図る。	全国へのPR	気仙沼市コンベンションビューロ協議会	気仙沼市	
目黒のさんま祭	関東圏からの観光客誘客	観光PR活動	目黒のさんま祭気仙沼実行委員会	気仙沼市	
蔵王山麓観光キャンペーン	蔵王の恵みを広く観光客に紹介し、地場産品の販路拡大と観光客誘致・地域の活性化を目指し開催する。	集客を見込める施設、街頭等に赴き、パンフレットを配布する。	宮城蔵王山麓観光協議会（1市3町）	白石市	
地域活性化イベント事業	本市の歴史的な条件から生み出された地域文化や食材等を活用したイベントを開催し、農・水・商工業者が一体となって地域活性化を図る。	神社deバザール、活き絆“ゆりあげ”浜っ子市の開催	名取市商工会地区活性化委員会	名取市	
阿武隈川いかだ下り大会事業	阿武隈川の河川愛護と美化を呼び掛け参加の親睦と観光の振興を図る。	仮装アイデア部門、タイムレース部門、自然満喫部門ごとに参加者を募り、大会を実施する。	阿武隈川いかだ下り大会実行委員会	角田市	
宇宙っ子まつり事業	市内台山公園において宇宙関連のイベントを展開しスペースタワー・コスモハウスのPR活動と観光の振興を図る。	実行委員会体制により各種イベントを企画・運営する。	宇宙っ子祭り実行委員会	角田市	
岩沼市観光写真コンクール	岩沼市の紹介・宣伝	写真の募集と展示	岩沼市観光物産協会	岩沼市	
ほろ酔いウォークラリー	飲食を通じた街の活性化	飲食ラリー	岩沼市観光物産協会	岩沼市	
市民夏まつり	市民の交流	各種ブース・イベントの展開	運営委員会	岩沼市	
長沼はすまつり	蓮の咲く時期に、遊覧船を運航させ、観光客の増進を図る。	遊覧船の運航	長沼はすまつり実行委員会	登米市	
物産振興事業	市内の物産の紹介と販路の拡大	旬の市の開催	東松島市物産振興会	東松島市	
わらじで歩こう七ヶ宿	健康増進及び観光振興	七ヶ宿街道約11kmをわらじを履いて歩き、歴史街道を旅する。	七ヶ宿町観光協会	七ヶ宿町	
雪だるまコンテスト	冬期観光客やスキー場への誘客を促進するとともに地域の連携と活性化を図る。	町民や団体が主体となり雪だるまや雪像を沿道に作製し、冬期七ヶ宿を訪れる観光客やスキーヤーを歓迎する。	七ヶ宿町観光協会	七ヶ宿町	
農林業イベント開催	町内で生産されている農林産物の良さを知ってもらい、キノコや果樹、特産品などをPRしながら販売し都市住民との交流を図る。	春の幸祭り・秋の春祭りの開催	七ヶ宿町森林組合	七ヶ宿町	
小京都むらたフォトコンテスト	村田町の紹介・宣伝	写真の募集と蔵の町並みの店蔵を利用した展示	村田町観光物産協会	村田町	

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(民間等事業)

いざなう

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	関係機関等	長期的視野の事業
観光振興対策事業	観光関係当事者と密接な連携をとり、観光事業の発展、観光客の誘致を図るため観光宣伝の効用に努め、観光開発の助長を促進し、併せて地方文化の向上に資する。	わたりふるさと夏まつり・えんこる節全国大会等の開催、海水浴場の開設、観光写真コンクール・ファンクラブ事業の実施、機関紙の発行など	巨理町観光協会	巨理町	
青空市	七ヶ浜町の産業を広く周知し、地域発展を図りながら町の活性化に寄与する。	町内の第1次産業及び工商業者が一同に会する産業祭り	青空市実行委員会	七ヶ浜町	
七の市	地産地消をテーマに地元で採れた新鮮な野菜や魚介などを安心・安全・安価で販売し、町内第1次産業の活性化を図る。	毎月1回、朝市という形で開催し、旬の食材を目的に添った形で提供する場を設ける。	七の市実行委員会	七ヶ浜町	
ポッケと収穫祭	地場産業の活性化並びに地場産品のPR及び消費拡大を図る。	町の特産「ポッケ」を始め、秋に収穫される地場産品を販売する。	ポッケと収穫祭実行委員会	七ヶ浜町	
まるごとフェアIN仙台	町のPR及び地場産品の販路拡大	まるごとIN仙台への参加	観光物産協会	大和町	
まほろば夏まつり	町民相互の交流と親睦づくりの活性化を図る。	まつりの開催	まほろばまつり実行委員会	大和町	
各種PRイベントの開催	自然や地場産品などの町の資源を様々なイベントを通じて発信・PRする。	・初午まつり火伏せの虎舞 ・やくらい春まつり ・陶芸の里春まつり ・あゆの里まつり ・やくらいべっこまつり ・加美町食の文化祭 ほか	加美町及び各種団体(実行委員会形式)	加美町	
おんべこ活性化推進協議会事業	生産者と消費者、都市住民との交流により地域活性化を図るとともに地域循環型の環境に優しい地域づくりを構築する。	菜の花の栽培によるエコフラワー事業 産業まつり等イベント	おんべこ活性化推進協議会	美里町	
こごた朝市	農産物の販売を通じた生産者と消費者との交流、及び地産地消の推進を図る。	5月から10月の毎日曜日に物産市を開催	小牛田朝市運営委員会	美里町	
鮭一本釣り事業	鮭一本釣り事業を通して、観光客の誘客を図り、地域活性化と鮭ふ化・放流事業への理解を深める。	鮭の一本釣り及び地場産品の販売	本吉町小泉川鮭増殖組合	本吉町	
うにまつり	新鮮優良な魚介類・農産物及び加工品等を町内外に宣伝PRし、地場産業の振興及び地域の活性化を目的とする。	農林水産物の販売	本吉町産業振興公社	本吉町	
あわびまつり	新鮮優良な魚介類・農産物及び加工品等を町内外に宣伝PRし、地場産業の振興及び地域の活性化を目的とする。	農林水産物の販売	本吉町産業振興公社	本吉町	

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組み主な事業(民間等事業)

もてなす

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	関係機関等	長期的視野の事業
小規模事業経営支援事業	商工会, 商工会議所及び商工会連合会による経営相談指導の強化	経営改善普及事業の実施(商工会等が行う経営改善普及事業等への補助)	商工会, 商工会議所, 商工会連合会	団体指導検査課	
水産物トップブランド形成事業 (「市場発信型」ブランド形成事業)	水産物のブランド化の構築と販路とシェアの拡大, 生産者サイドのマーケティング力の強化を図り, 本県水産物の一層の品質向上を促進する。	石巻魚市場に水揚げされるカツオのブランドの確立, PR活動, 販売促進	石巻水産振興協議会	石巻地方振興事務所	
都市との交流	都市住民との交流を促進するとともに, 体験・宿泊を組み合わせた滞在型観光を推進することにより, 離島・半島地域の活性化を図る。	・長期滞在商品の企画・充実 ・金華山を活用した自然体験交流 ・離島半島地域の自然PR	牡鹿半島癒しの旅委員会	石巻地方振興事務所	
石巻圏域誘客促進事業	観光施設等の連携の下, 魅力的なサービスを提供することにより, 観光PRと石巻圏域への誘客を図る。	圏域の観光施設や農林水産関連直売所等が連携した観光キャンペーン等の実施による魅力ある石巻の発信と誘客の促進	実行委員会	石巻地方振興事務所	
石巻地域畜産フェスティバル	石巻地域の家畜改良意欲の高揚と飼養管理技術向上・普及を図るとともに, 消費者との交流による畜産物の消費拡大に寄与する。	石巻地域総合畜産共進会の開催に合わせ, 畜産物展示PR, 特売, 抽選, 食の安全・安心PR, 相談等を開催しながら消費者交流を開催	石巻地域総合畜産共進会実行委員会	石巻地方振興事務所	
地域観光開発の推進	魅力ある観光地づくりを推進するため, 学識経験者等からの指導により, 各種団体等と連携し, 観光客受入態勢づくりの強化に努める。	観光客受入態勢づくりに対する支援(アドバイザーの派遣) 人材育成の推進(観光関係者セミナーの開催) 地域イベント開発の推進	(社)宮城県観光連盟	観光課	
ホスピタリティーの推進	魅力ある観光地づくりを推進するため, 各種団体等と連携し, おもてなしの推進を図り, 観光みやぎを推進する。	講習会・研修会の開催 アクセスポイントでのおもてなしの推進 観光功労者の表彰	(社)宮城県観光連盟	観光課	
共同事業の推進	各種団体等が実施する観光事業等と連携し効果的な事業展開に努める。	各種観光展等への参加 県内広域圏事業への支援 県外広域圏事業への支援 観光客受入施設との共同事業	(社)宮城県観光連盟	観光課	
企画専門委員会の開催	より良い事業の推進を図るため, 観光関係者の意見・要望を聴きながら重点事業等について協議する。	地域及び各種業界で構成する企画専門委員会を開催する。	(社)宮城県観光連盟	観光課	
観光振興調査・整備	県内観光関連事業者等の基礎資料とするため, 宮城県等関係者の協力を得て観光資源及び事業者の調査・整備に努める。	イベント&観光・宿泊施設一覧の整備	(社)宮城県観光連盟	観光課	

仙台まるごとバス運営支援事業	仙台・松島・山寺をエリアとするJR, バス, 地下鉄2日間フリー乗車券「仙台まるごとバス」を発行, 運用することにより, 交通機関の利便性向上と新たな交流人口の拡大を図る。	「仙台まるごとバス」の運営を行う仙台まるごとバス運行協議会の調整, 広報を行う。平成18年度末のアクセス鉄道開通, エリア対象への組み入れを契機に今後も対象エリア拡大, サービス充実, 販売方法充実等を実施する。	仙台まるごとバス運行協議会	仙台市	
ボランティア観光ガイド研修会の開催	観光ガイドボランティアの育成	ボランティア観光ガイドの登録及び研修会の実施	石巻観光協会	石巻市	
石巻かきブランド化事業	豊富で新鮮な水産資源である「石巻かき」を定着させ, 知名度向上や販路拡大を図る。	・「石巻かき」に関する各種イベントの開催 ・「石巻かき」を消費者に紹介するインターネットやパンフレット, ポスター等によるPR活動 ・「石巻かき」の産直販売及び各種物産展などへの参加	石巻かきブランド化事業委員会	石巻市	
塩竈市活性化回遊事業 (乗って, ぶらぶら輪)	塩竈市を訪れる観光客に歴史や文化など「楽しいスポット」を発見してもらうこと, また, 商業活性化及び振興を推進することを目的とする。	レンタサイクル貸出(トライク, セニアカー, 車いす) しおなびiショップとの連携 利用者アンケートの実施	塩竈市観光物産協会	塩竈市	
しおなびiショップ	市内の商店に協力していただき, ミニ観光案内所として塩竈を訪れた観光客へのおもてなしを行う。	観光案内パンフレットの配布	塩竈市青年四団体連絡協議会	塩竈市	
しほがま観光ボランティアガイド育成事業	観光ガイドの養成及びサークルの設立支援を行う。	観光ガイドの養成及びサークルの設立支援を行う。	NPOみなとしほがま	塩竈市	
受入れ態勢整備推進事業	JR等を利用して訪れる観光客に利便向上を図る。	歩いて楽しめる観光地づくり	気仙沼市観光受入れ態勢整備推進協議会	気仙沼市	

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(民間等事業)

もてなす

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	関係機関等	長期的視野の事業
観光まちづくり推進講座	近年の旅行形態の変化に対応するため若年、女性中心の講座を開設し、誘客を図る。	課題の検証とノウハウを学ぶ。	気仙沼市観光協会・県観光連盟	気仙沼市	
ボランティア観光ガイド研修会の開催	観光ボランティアガイドの育成	ガイドの登録及び、研修会の実施	観光ボランティアガイド気仙沼	気仙沼市	
菜の花景観整備事業	阿武隈川右岸の菜の花畑について良好な管理を行い、観光客の誘致を図る。	管理委託による菜の花畑の管理	地元青年会(角田市)	角田市	
市民観光講座の開催	観光ボランティアガイドの育成研修会及び登録	観光ボランティアガイドの育成研修会及び登録	多賀城市観光協会	多賀城市	
タクシー乗務員観光案内研修	タクシー事業者の観光客受入体制の充実を図る。	タクシー乗務員を対象とした観光案内研修会の開催	多賀城市観光協会	多賀城市	
地元食材を活用した商品開発	地元食材を活用した商品を開発することにより、地域の観光関係者の意識の高揚を図る。	食をテーマにした観光セミナーの開催	多賀城市観光協会	多賀城市	
観光案内所運営	観光案内所を運営し、イベントの開催、観光情報等の発信を行う。	観光案内所を運営し、イベントの開催、観光情報等の発信を行う。	多賀城市観光協会	多賀城市	
グリーンツーリズムの推進	農業や加工の体験を通して都市住民との交流を図り、新たな観光客の確保と産業の活性化を図る。	農業体験イベントの開催(中学生のファームステイ等)、県内外への広報活動	登米市グリーン・ツーリズム推進協議会	登米市	
観光ガイド研修事業	観光ガイドの育成	観光ガイドの募集・登録 観光ガイドの手引きの作成 ガイド研修等	登米市観光物産協会	登米市	
登米型森林セラピー事業	林業の体験を通して都市住民との交流及び新たな観光客の確保と産業の活性化を図る。	近隣の都市部や遠隔地からの来訪者の滞在が可能な施設の整備等	登米町森林組合	登米市	
体験観光事業	漁業や農業を活用した体験観光の確立により観光客の誘客を図る。	漁業体験、農業体験、縄文体験などの実施	奥松島体験ネットワーク	東松島市	
みやぎグリーン・ツーリズム構架支援事業	農業・農村の活性化を図るため、都市住民との交流や農業体験などの活動を実施し、ひいては、農業の振興、地域の活性化を図る。	農業体験イベントの開催、県内外への広報活動	蔵王山麓G・T交流会	蔵王町	
おもてなし講習会事業	観光客への接遇マナー等の向上のため、研修会を開催する。	観光客受入研修会を開催する。	村田町観光物産協会	村田町	
やまゆり特派員設置事業	丸森の良さ、改善点等の意見や企画提案、広報宣伝協力をしてもらい、観光振興につなげる。	町外在住女性の募集を募り、丸森の観光に対する意見やアイデアを提案してもらったり、イベントへの参加協力、勉強会への参加等	(財)阿武隈ライン保勝会	丸森町	
山元町デザインワークショップ事業	住民と町職員で構成する山元町ワーキング委員会を組織し、地場産品と日々の暮らしの中から生み出されたすべての製品の販路拡大を図るとともに、町内に埋もれている人材を積極的に発掘することにより、地域資源と住民生活が融合した町づくりを推進する。	春と秋の年2回、『ふれあい市』を開催し、本町特産の「いちご」、「りんご」を中心とした地場産品のPR及び直売を行うとともに、町内で活動する芸能団体に披露する場を提供し、町内の隠れた人材の発掘を行う。	山元町ワーキング委員会	山元町	
物産開発研究事業	地元の食材を活用した商品を開発することによりブランド化を図る。	商品デザイン・物産品の開発と地場産品を宣伝PRし販売促進を行う。	大郷町物産開発研究会	大郷町	
グリーンツーリズムの推進	農業や加工の体験を通して都市住民との交流を図り、新たな観光客の確保と産業の活性化を図る。	農作業・加工体験教室の実施	大郷町物産開発研究会	大郷町	
グリーンツーリズムの推進	農業や加工の体験を通して都市住民との交流を図り、新たな観光客の確保と産業の活性化を図る。	農作業・加工体験教室の企画立案及び実施	おおさと食と農の大学校	大郷町	
ホテルのページェント	蛸が鑑賞できる環境づくり	ほたるが鑑賞できるように会場まで輸送し、遊歩道に灯るうを設置している。ほたるガイド員の設置している。	まちおこし協議会	大郷町	
都市農山村交流事業	加美町の基幹産業である「農」を通じ、継続的な農山村交流を実施し地域の活性化を図る。	・体験実践支援事業(中学校の農作業体験受入・・3校、延べ1,000人)・都市交流拡大事業(やくらいの里まつり開催、仙台松凌)	加美町グリーン・ツーリズム推進会議	加美町	

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(民間等事業)

もてなす

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	関係機関等	長期的視野の事業
ボランティア観光ガイド員事業	観光ガイドボランティアの育成	ボランティア観光ガイド員の研修会及びガイド案内	涌谷町観光物産協会	涌谷町	
民間直売所の開設	地域の生きがい対策及び地産地消を目的とする。	農産物の販売	任意団体	本吉町	
アワビ稚貝放流	アワビ資源の増大を図り、資源管理型漁業の推進をするとともに、町内で開催されるイベント等で販売をし地域のブランド化を図る。	アワビ稚貝放流	大谷本吉漁業協同組合	本吉町	
岩がきブランド化推進事業	本吉産天然岩ガキを町内外にPRすることにより、ブランド化を図る。	町内外に宣伝PR・販売促進をし、岩ガキのブランド化を図る。	大谷本吉漁業協同組合	本吉町	
気仙沼・本吉地域地場産業振興協議会	地元の食材を活用した商品を開発することにより地域のブランド化を図る。	専門家による商品デザイン・物産品の開発	気仙沼・本吉地域地場産業振興協議会	本吉町	
あおぞら給食事業	地元の食材を学校給食に提供することにより地元で栽培される作物を学ぶ。	食材の提供	南三陸農業協同組合	本吉町	

みやぎ観光戦略プラン策定期間内に取り組む主な事業(民間等事業)

ととのえる

事業名	事業の目的	事業内容・計画【全体】	取組主体	関係機関等	長期的視野の事業
そば・すし交流事業	山形のそば、塩竈のすしを中心に観光連携を強化する。	そば・すしのイベント実施 物産の交流	塩竈市・みやぎ寿司海道塩竈地域推進協議会・観光物産協会	塩竈市	
宮城県陸中海岸国立公園開発推進協議会	陸中海岸国立公園内地域の自然保護と環境浄化を図る。	国立公園の清掃美化事業，観光客の環境美化啓発	宮城県陸中海岸国立公園開発推進協議会	気仙沼市	
広域連携事業	国道113号に接する宮城・山形県の各市町との連携を強め，各地域の魅力を全国に発信し，交流人口の拡大を図る。	JR等エージェントとの協力を図り，交流人口拡大のための旅行商品開発及び地域のPR事業を行う。	国道113号観光推進協議会（2市2町）	白石市	
歴史と伝統の里「風流街道」推進事業	広域観光の推進及び観光客の利便性を図る。	「新幹線古川駅総合観光案内所運営協議会」の構成市町（2市1町）による広域観光の推進並びに観光客の利便性を図る。	構成市町（2市1町：大崎市・秋田県湯沢市・山形県最上町）	大崎市	
国道113号（二市二町）観光推進協議会	「みちのおとぎ」のイメージアップを図るためスタンプラリーや広告媒体（インターネット・旅行雑誌等）を活用した宣伝活動を行うとともに，首都圏，仙台圏を中心とした誘客実施のため，JR企画等と協力して観光誘客活動を行う。	スタンプラリー・広告媒体を活用した宣伝活動・JR東日本と共同企画を行い観光客誘致を実施	国道113号（二市二町）観光推進協議会	七ヶ宿町	



- みやぎ観光戦略プラン -

発行 / 平成18年12月

編集・発行 / 宮城県産業経済部観光課

〒980-8570

仙台市青葉区本町三丁目8番1号

TEL / 022 - 211 - 2823

URL / <http://www.pref.miyagi.jp/kankou/>

E-mail : kankou@pref.miyagi.jp